

315.1
D25

事故本

検閲のため削除

P.103-104

P.141-144

P.217-218

1988.4.7



0006586000

0006586-000

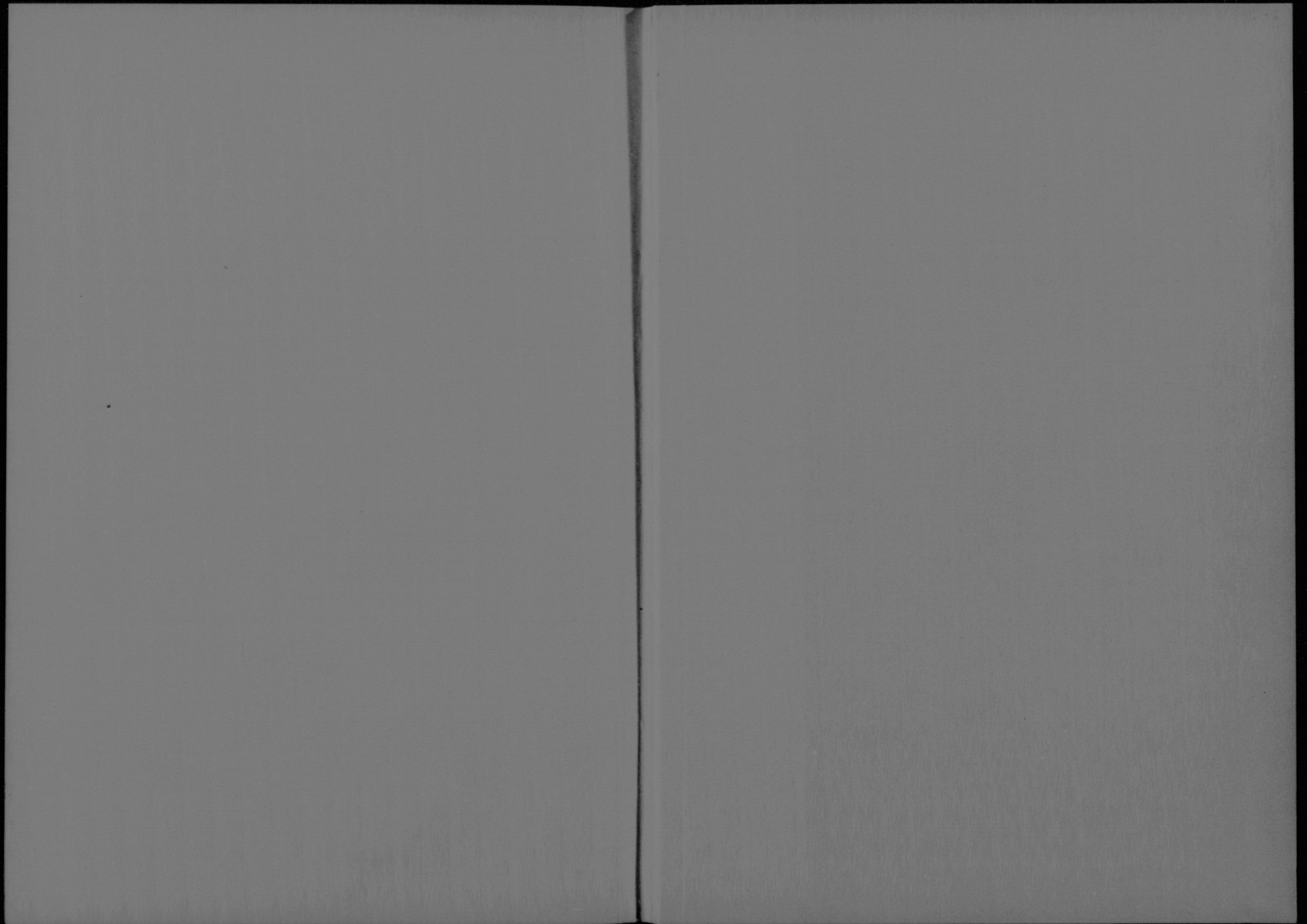
315.1-D25ウ

大日本生産党十年史

大日本生産党

[1941]

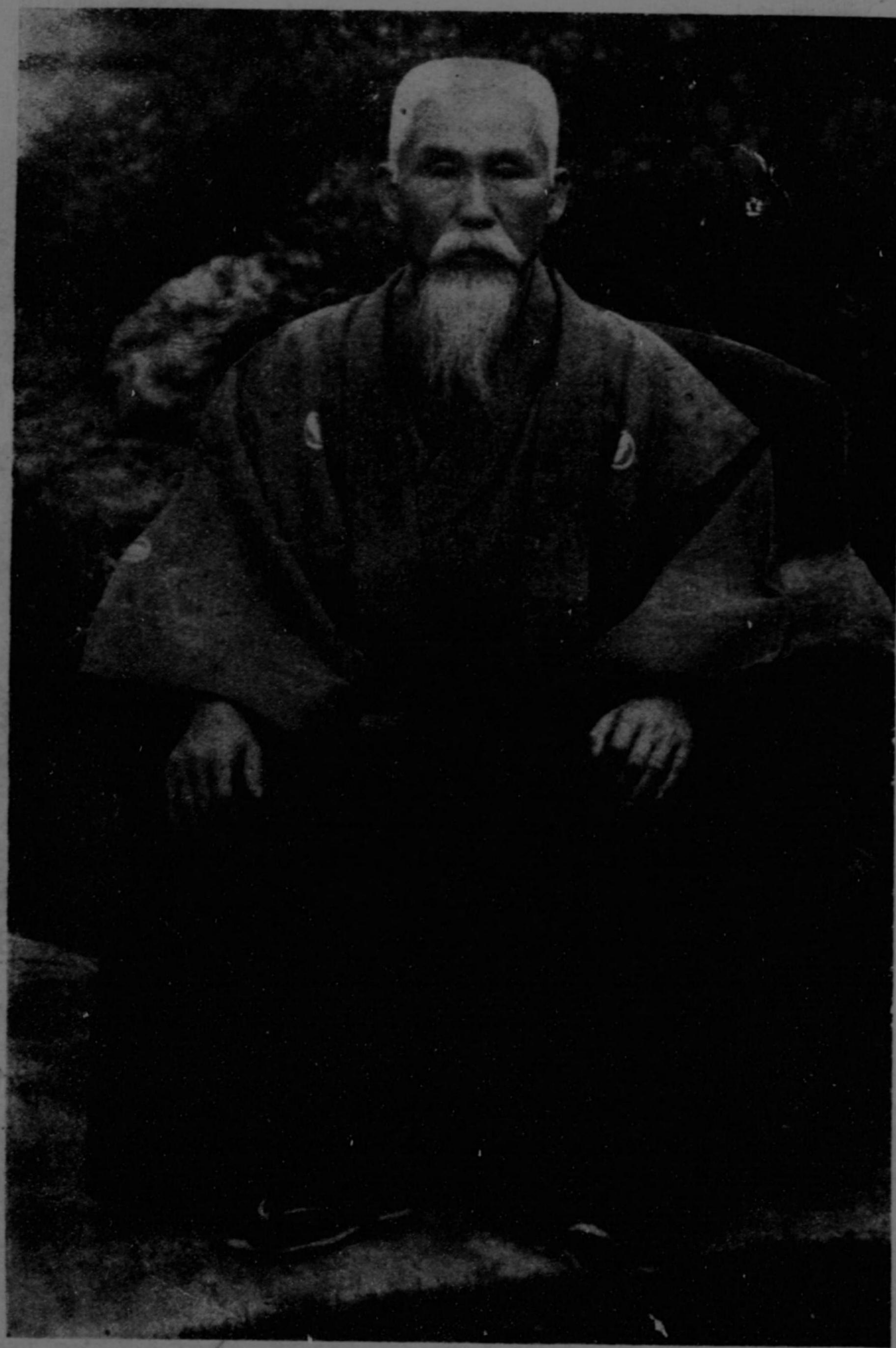
ABF





4-G-4

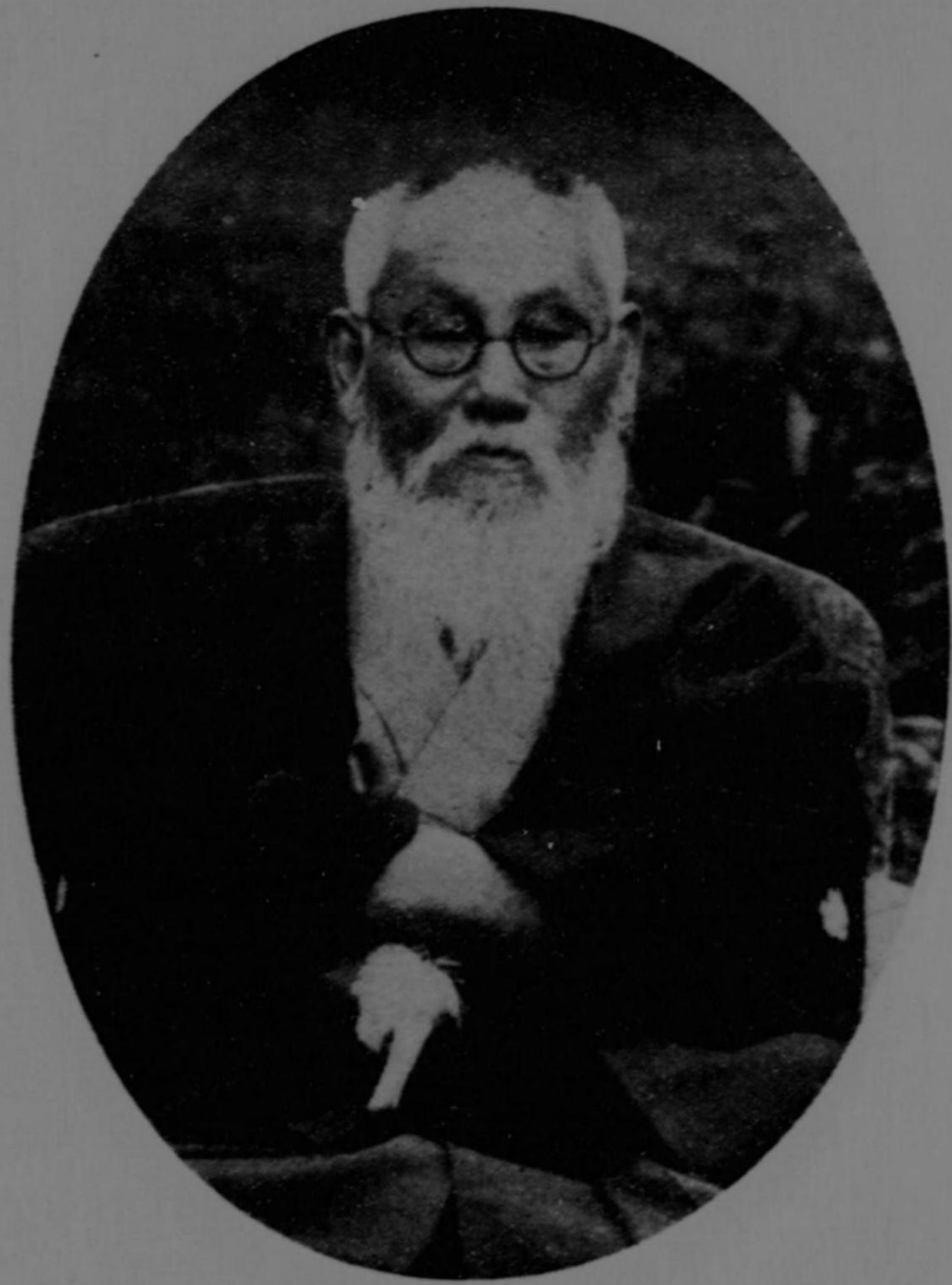
315.1
D25
7



祖 黨
生 先 平 良 田 内 故



總 裁
吉 田 益 三 先 生



生先滿山頭問顧



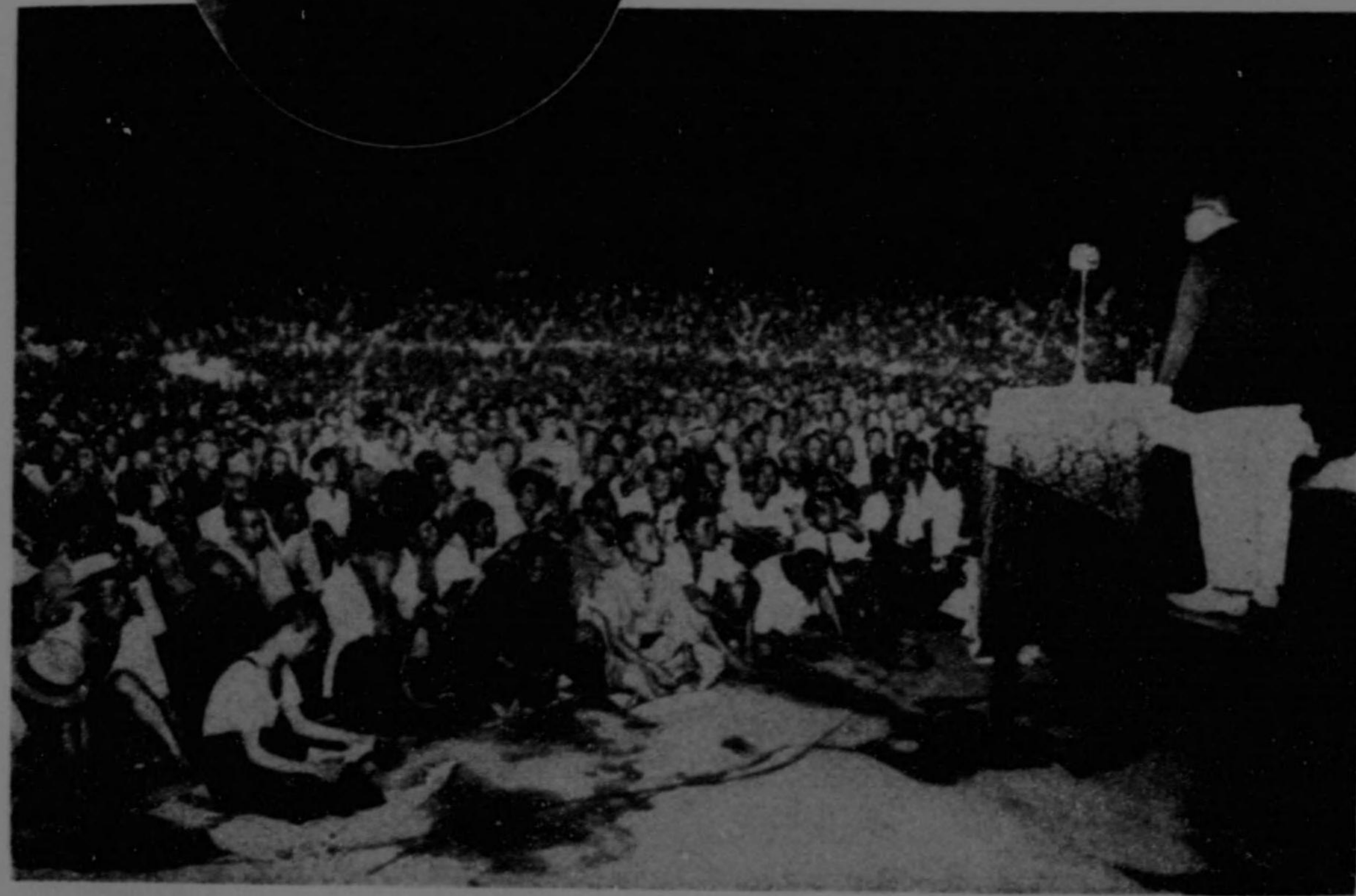
生先久能生葛問顧前



生先郎一順林小問顧



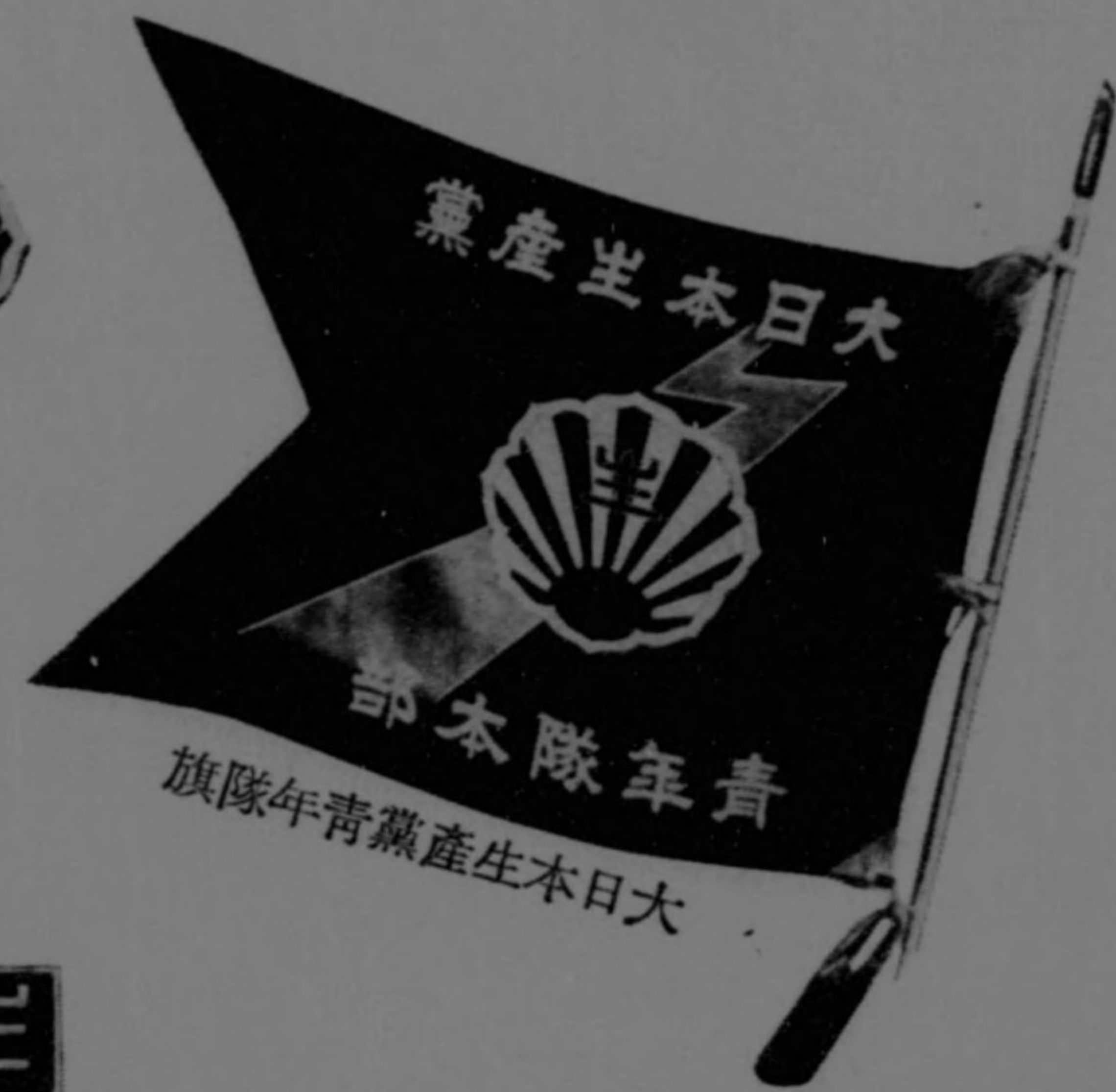
銚後全農民大會
 (會堂三阪赤場會)
 日六月三年三十和昭



英日交斷交要國民大會と獅子吼る吉田總裁
 (樂音園公寺王天阪大日十三月七年四十和昭)
 (むしせ狂熱を余萬五に實衆聽るせ集參に堂)



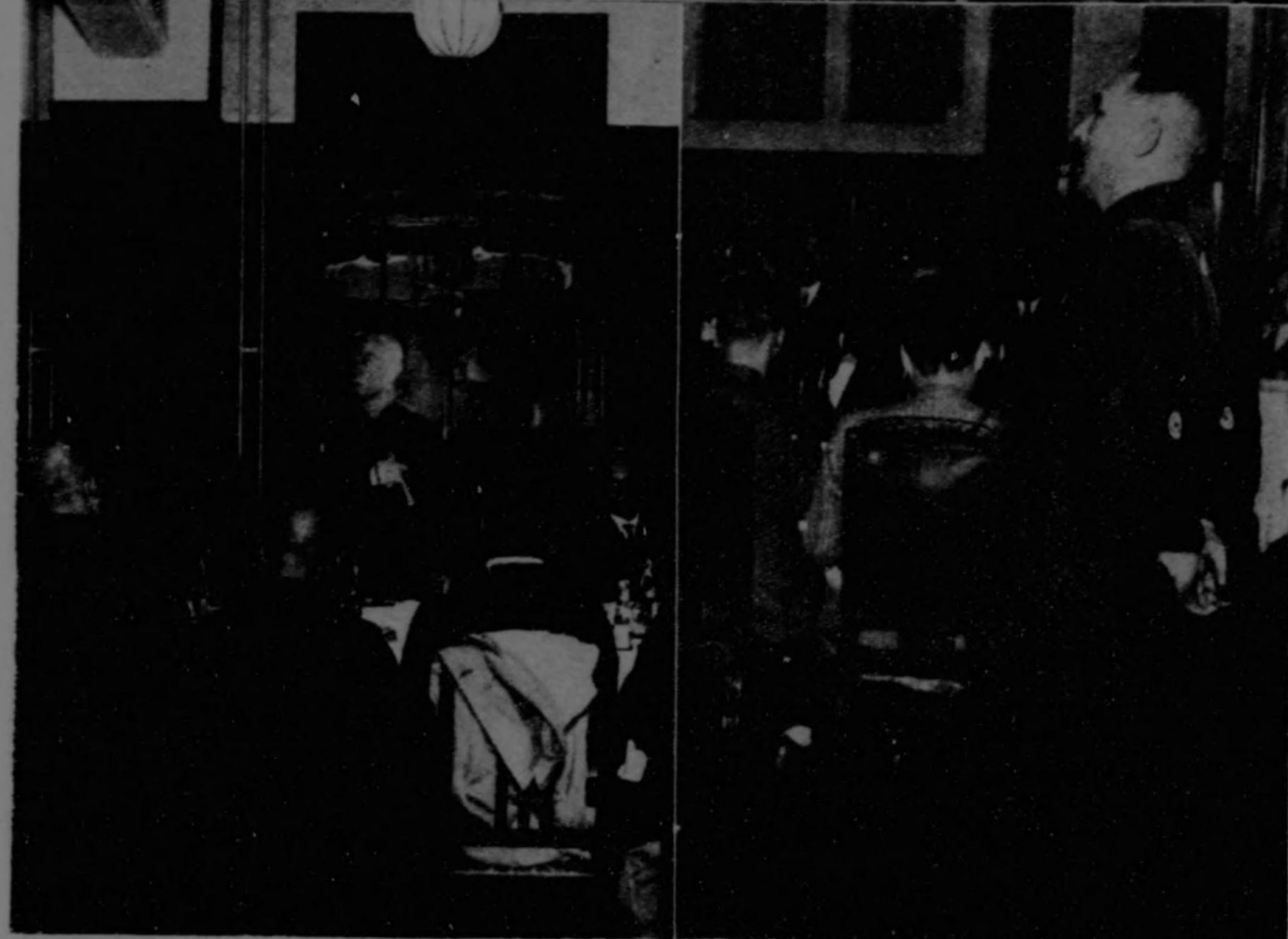
黨員章



黨員略章



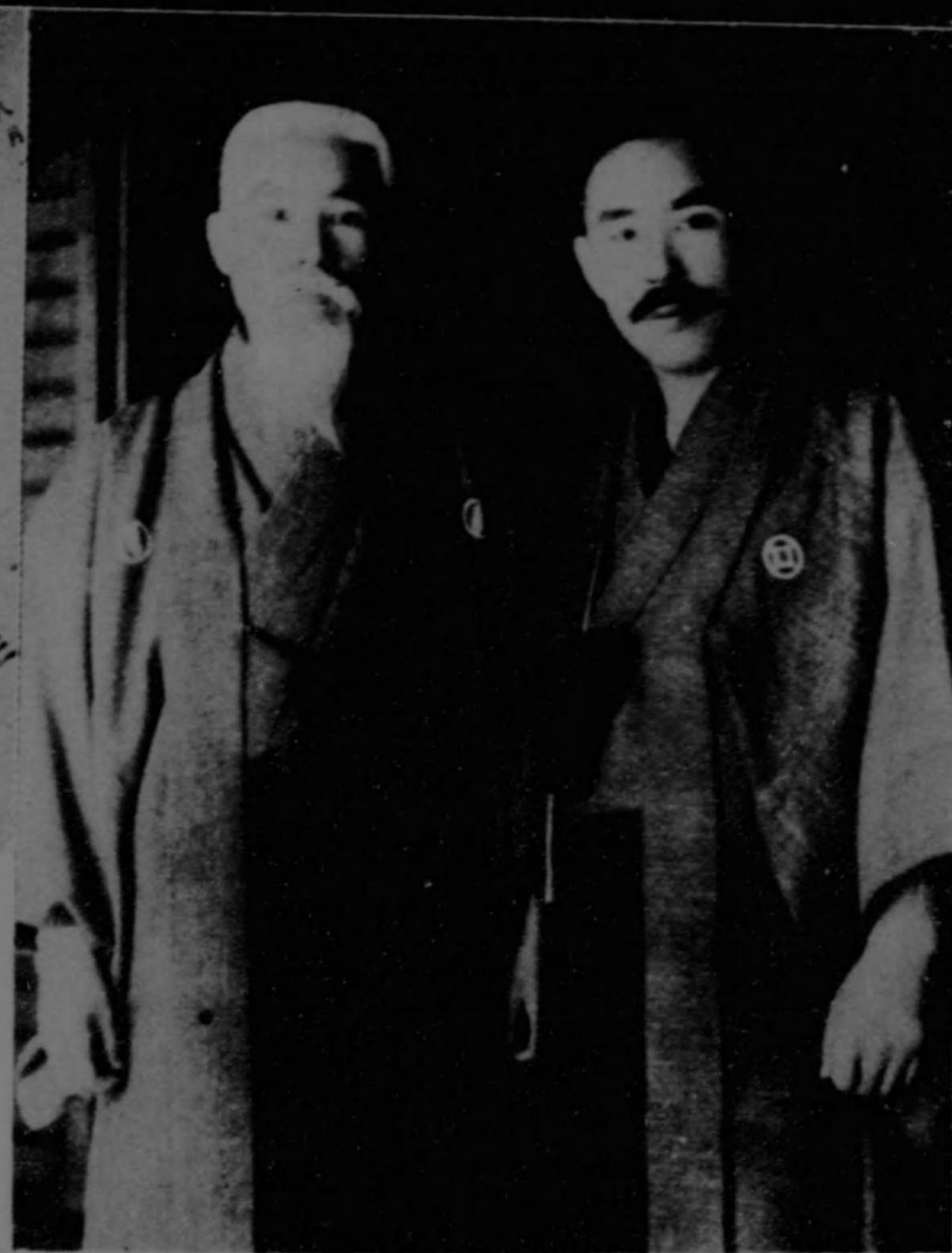
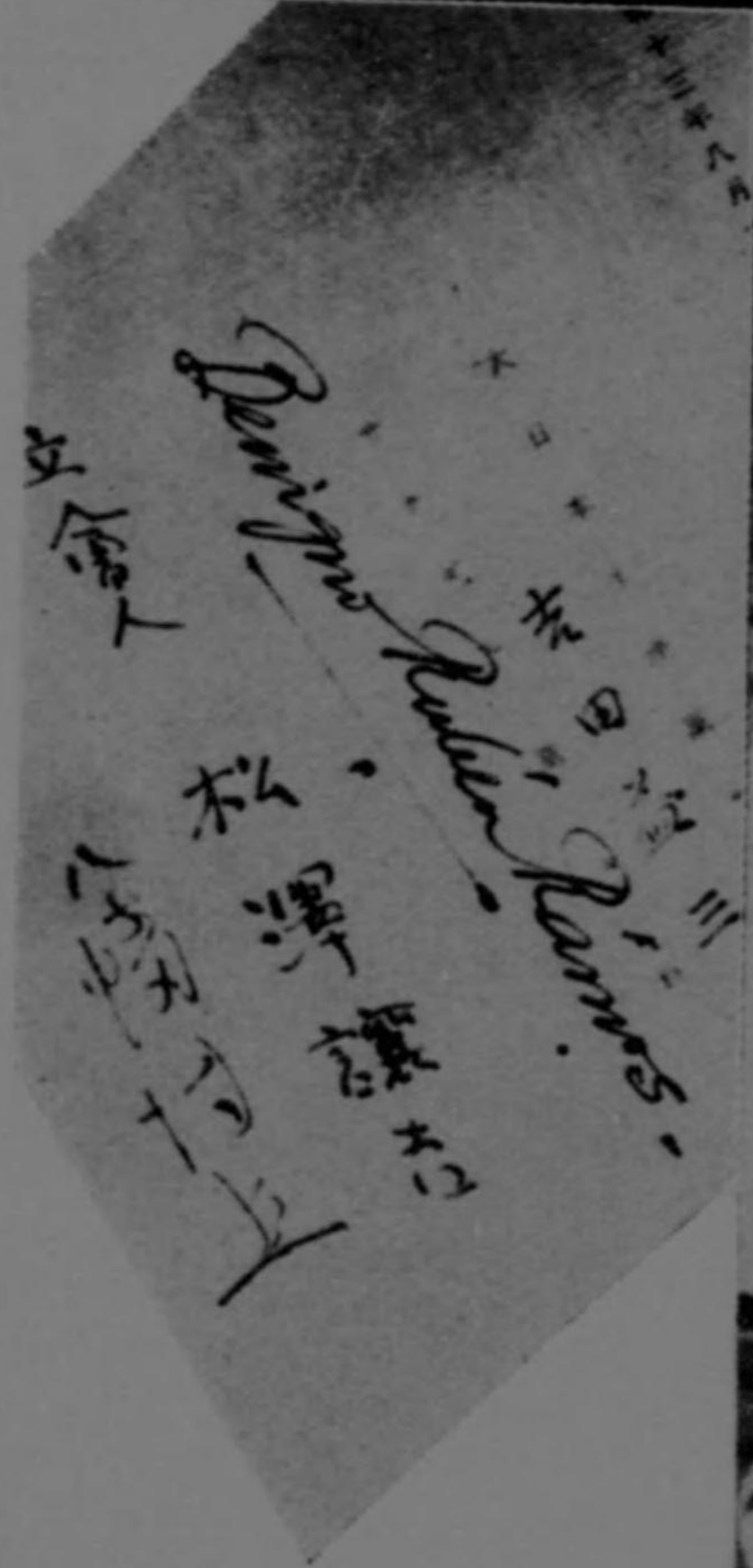
青年隊士腕章



三月一十年六和昭) 祖黨田内く説を策政てに會大國全回一第 (上)
 裁總現と祖黨の拶挨てに會備準成結 (下) (堂會三阪赤日十
 之中阪大日五月七年五和昭) 右 (社交清阪大日三十月六年五和昭) 左
 (てに堂會公島)

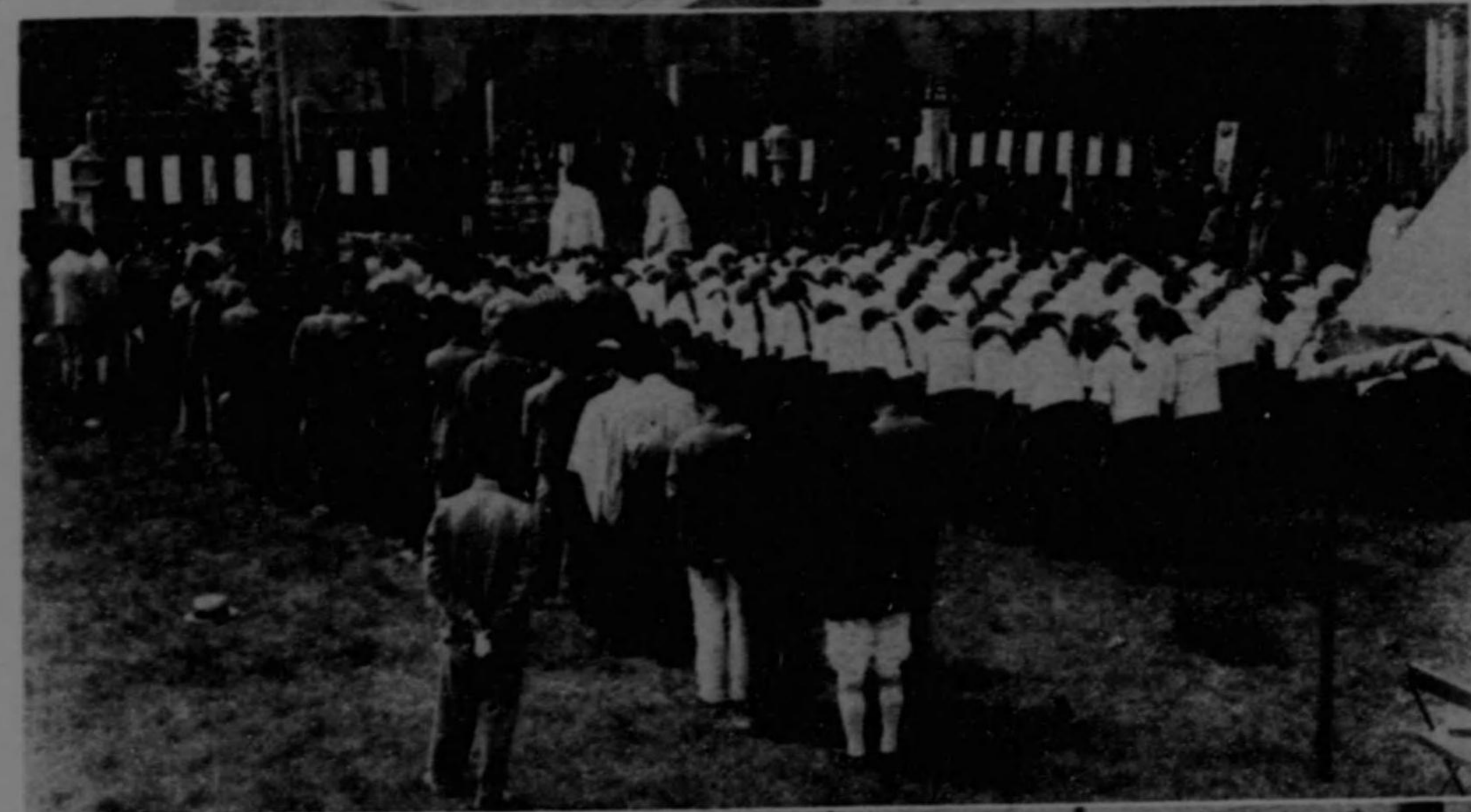
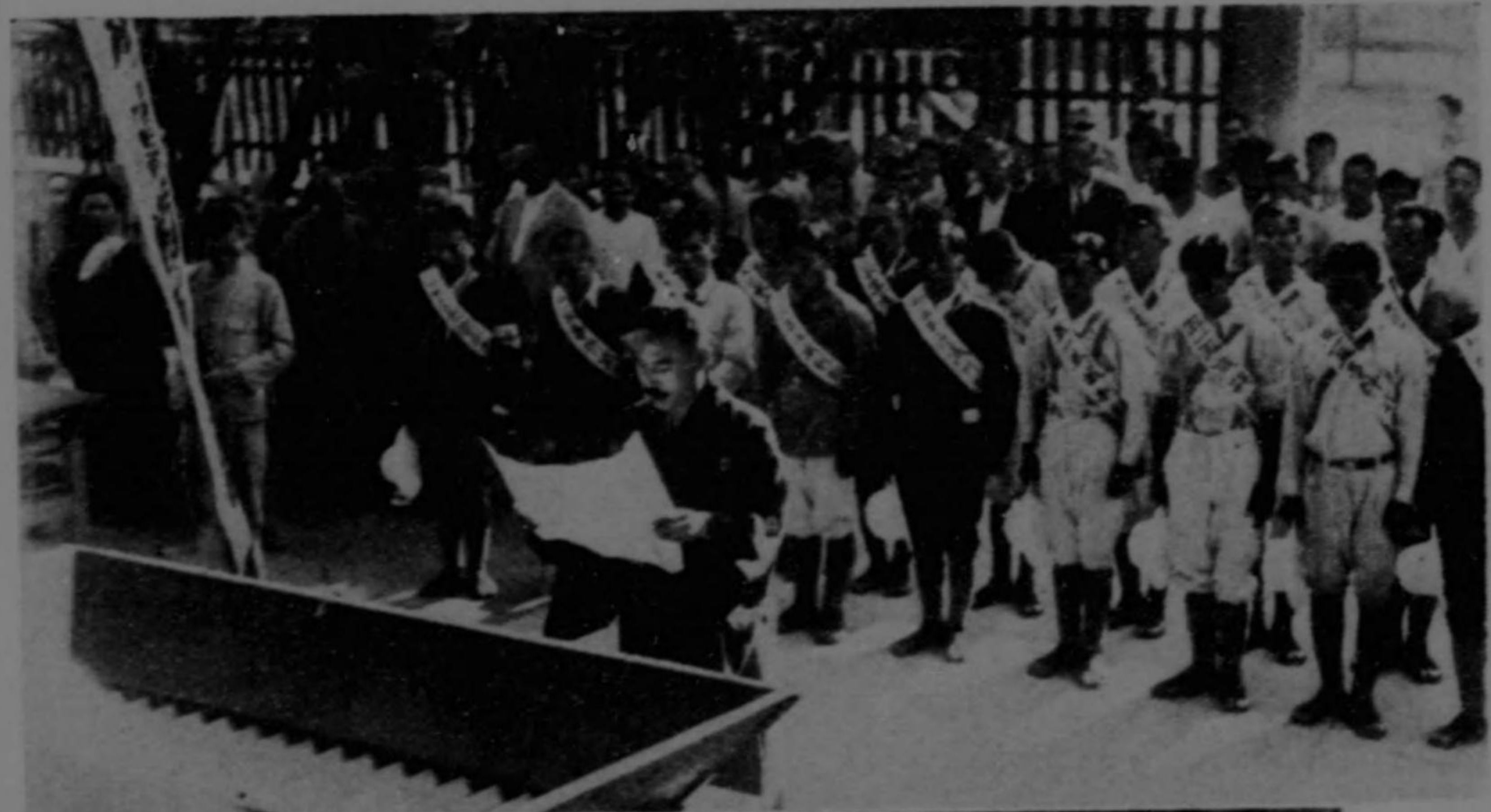


裁總田吉てに場式 (上) (日二月二十年五十和昭) す成結隊年青
 ふ向に場會に頭先を旗隊 (下) (寮紘八宮神原樞) 辭訓の



領首兩才交を手握き固り成約るす援支を動運立獨のソピツリイフ (上)
祖黨、日るあ 出ひ 思 (下) (日六十月八年三十和昭) 書約盟の其と
(裁總田吉右 生先田内祖黨左) てに關玄邸別部服 = てひ訪を

五、一五事件減刑嘆願徒歩上京隊
は出發に際し、生國魂神社に祈願
す (昭和八年九月一日)



滿洲事變戰歿將士慰靈祭を、大
阪真田山に舉行す
(昭和八年九月十八日)



建國祭に於ける自動車デモ
(昭和八年二月十一日)



大日本生産黨十年史



(上) 昭和五年六月二十八日 結黨十周年記念全國大會
(下) 昭和四年六月二十八日 全國代表幹部大會 (會場は赤坂三會堂)

序

國を擧げて壽ぎ奉る曠古の聖紀、皇紀二千六百年の佳き歳に當り、我が大日本生産黨も立黨十周年を迎へた。地下に在りて祖内田良平先生、顧問頭山滿先生、總裁吉田益三先生はもとより、黨幹部以下全國黨員の喜びは譬へるに言葉無き最大級のものである。

我が大日本生産黨が、昭和六年六月二十八日大阪中之島中央公會堂において結黨式を擧げたころの社會情勢は、今これを回顧しても慄然たるものがある。滿洲事變を「帝國主義戰爭」だと斷定公表されても、それを怪しむものも少なかつた時代であつた。政黨と財閥が結託して、皇國日本の生き血を吸つても憚らなかつた時であつた。政界の腐敗、政黨の墮落はその極に達し、財閥の横暴は金權を以て政治を支配して個利追究に餘念なく、國民生活の窮乏は愈上深刻化して失業者續出、飢えに泣く者、職を求め、食を求むる者は巷に滿ち、怨嗟の聲は天下に充満、國民思想は極度に混亂して共產主義運動は燎原を行く火の如く熾烈を極めた。また多年に亘る歐米追従外交の結果は遂に憲法を無視したるが如き國辱的軍縮條約を締結して國力の低下を來し、國防の缺陷は英米ソ支の乗ずるところとなつて幾多の毎日事件を惹起、國威は愈上失墜し我が特殊權益は隨所に蹂躪され、現存條約は空文化して遂には我が生命線たる滿蒙の保全すら危殆に瀕する状態にまで立ち至つた。國を愛する者の深愛は言語に絶する有様であつた。しかしして維新運動が最も必要な秋であるにも拘らず、維新運動の成長に最も不適な秋であつたのである。」

我が身をば忘れて物を思へどもつきぬは國の憂ひなりけり

我が國を我が身とぞ思ふ心より我が身ありとは思はざりけり

なきにしもあらざらましを我がごとく國思ふ人のありやと疑ふ

國を思ふ涙に染し我が文を讀む人ありやなきにしもあらじ

折にふれて

大和魂失ひ初めて日の本の國の光りは薄らぎ行くも

黨祖内田良平先生は頭山南先生の支援を得て維新救國の大旗を立てられ最後の御奉公として激起狂風怒濤荒れに荒れる非常時局の眞ツ只中に立たれたのであつた。黨祖を補佐する萬生能久氏現總裁吉田益三先生はじめ先輩の苦勞辛苦は並大抵のものではなかつた。かくして天下を擧げ國體恢復の道へ急ぐとき大日本生産黨は毅然と皇國體防護の大旗を掲げて昭和六年六月二十八日、荊棘の道へ敢然と挺身邁往の第一歩を進めたのである。

我が黨に向けられた試練の報は嚴しかつた。阿久津村事件に示された未睡の慘辱、神兵隊事件による組織の動搖、加へて不世出の偉人内田總裁の逝去等は、その最も大なるもので、此ほか大小幾多の諸事件は本黨を百鍊の鐵に鍛へ上げた。我が黨と略

々發聲を同じくした國家社會黨、神武會、愛國勳皇黨すでに無く、後續して生誕した愛國政治同盟、愛國労働農民同志會、總聯合、新日本海員組合、勳等奉公聯盟等また枕を並べて解體した今日、ひとり我が大日本生産黨のみは十年一日一つの黨旗を一貫した思想を護り續けて來たのである。一口に十年といふは易いが、一貫した思想と組織を護り續けることは容易でない。大黨が狂瀾を衝き、強風を衝き、強力なる現狀維持の防波堤を破つて、しかも十年を閱せる今日なほ健在なる所以は神明の御加護によるは勿論であるが、皇國體の原理に立脚した思想と行動、皇道に徹した優秀なる指導者の存在、同志の屍を隨えて報酬と名利を求めず果敢に巨道本務の實踐に挺身した黨員の奮闘が興つて力があつたのである。かくして本黨の有機的な鐵の結末は固められ、維新陣營の中核的存在にまで發展したのである。

立黨當時より今日に至るまで十年間にわたる我が黨の歴史はまた我國における維新陣營史とも稱さるべきものである。本黨が主張する廟堂の士を擁護し、國民にうつつたへ來りたる警世の大文字、獅子吼はこれすべて肯綮に當り、着々と實現され、具象化を見つゝあるのである。既成政黨は既に解體し、資本主義經濟は正に消滅の域に臨んでゐる。併しながら、我々はこれをもつて足れりとするものでない。更に陣を進めて國內の維新斷行を實現し奉り、修理固成の天業、天壤無窮の皇統、八紘一宇の國是を一貫する世界維新への挺身隊たらんとするのである。

本年は立黨十周年の佳き年に今一つの大きな喜びを持つた。それは昭和十五年十一月廿七日第二任總裁に吉田益三先生を擁戴したことである。内田先生逝いてより四年の間、魂の結合により内田精神一本を中心に團結して來た我が黨員に、現實的な中心を見出させたのである。全黨員は内田精神を繼承せらるる吉田總裁統率の下に新しき御奉公の道へ振ひ起つた。この「大

「日本生産黨十年史」は本黨飛躍への一甲隊である。新總裁統率の下に政策を再検討し、機構を整備し、未曾有の國難克服、突

破へ奮進する本黨の使命こそ、輝やかしくも又た重大である。
故きを温ねて新しきに備ふるは不易の眞理である。我が黨は立黨十周年の喜びを迎ふると共にこの十年間における奮闘の跡を基礎に將來への躍進を期し、昭和十五年十一月二十七日の合同幹部會において「大日本生産黨十年史」編纂の議が決められ、即日久野一雄、柴山滿、小部英男、佐橋尙政、白井爲雄、影山正石、千葉友次郎、大田岩穂の入名が編纂委員に任命され、吉田總裁統率の下に爾來三ヶ月間編纂の業に當り本書を製作したのである。本書は立黨前の社會狀況から立黨に至るまでの経緯に始まり以後年別に本黨の動勢を巨細洩らすを蒐録したものであるが、能率向上の見地より一、立黨前の社會狀況から結黨（昭和六年）まで（擔當、小部英男）一、昭和七、八年（擔當、白井爲雄）一、昭和九、十年（擔當、柴山滿）一、昭和十一、十二年（擔當、佐橋尙政）一、昭和十三、十四年（擔當、千葉友次郎）一、昭和十五年と年表（擔當、大田岩穂）と分擔して起草、吉田總裁の監閲を経て上梓したのであるが、分擔起草の爲の稍々統一を缺いた點があることはここで深くお詫びしておく。然し却つてこの方が各委員幸吉のあとと思はれ、また個性が發揮されて興味があるのではないかと考へてゐる次第である。本史編纂に當り資料の提出、助言の好意を寄せられた編纂委員田宗一郎、本黨評議員大曲三郎、飯塚豊一氏らはじめ各位に厚く御禮を申し上げます。

「大日本生産黨十年史」編纂委員會 識



結黨するまで

【昭和五年・同六年】

結黨前の慄然たる内外情勢

若槻民政党内閣震災手形法案取扱ひ

の不注意から財界恐慌を惹き起し、遂に遺憾のため總辭職を行ひ、終に閣は社會の豫想を裏切り田中義一大將大命を拜し組閣したが第五十四議會において民政黨の不信任案提出により議會を解散昭和三年二月二十日、普通選挙法による初の總選挙が執行された。既成政黨が臭氣紛々たる泥合戦を到る處に展開しつつあるとき新興勢力なりと自稱する労働農民黨、社會民衆黨、日本農民黨等が出現、社會主義、虛無主義を掲げ國民が既成政黨の腐敗墮落ぶりに嫌惡の感情を抱けるに迎合し特權階級、財閥、既成政黨打破のスローガンの下に、政戦渦中に飛び込み思想的に働きかけた結果、我が國最初のしかも國民思想進化の基礎を確立せしめた無産黨議員八名を獲得したのであつた。この總選挙の結果は政友、民政相伯仲する議席を獲得し民政黨を中心とする田中内閣打倒の運動が起され第五十五特別議會は政府對野黨抗争の修羅場と化し、國政を議せず徒らに政争を事とし遂ひに言語同斷なる議員辯論戦術まで生むに至り帝國議會への國民の信頼はまつたく地を拂ふにいたつた。このときに當り濟南事件突發し議會の上下騒然とし國民また政府の軟弱を非難攻撃、その無定見を痛罵する聲は滿天下に充滿した。越へて七月二十日にいたり支那南方政府は日支通商條約廢棄を宣言、爾後は無條約國待遇臨時辦法を適用する旨を通告し來つた。日清、日露の戦役における巨額の國帑と十數萬の生靈により贏ち得たる我が權益はここに全く蹂躪せられんとするに至つたのである。我が國論は愈々沸騰し支那南方政府の傲慢無禮を責め王正廷、蔣介石を攻撃し、或ひは民政黨の對支聲明を賣國的なりとし、或ひは田中外交の拙劣を難し學者、政治家、各種團體等は一齊に駭起、國內は喧々囂々を極めた。我が國が常に英米追従外交

に終始し、日支親善、共存共榮を唱へ姑息退讓なにごともなし得ざりしことは支那人に日本與し易しとの念を抱かしめ遂に南

京事件、漢口事件、濟南事件等天人俱に許さざる暴舉を敢て爲さしめ、條約廢棄通告とまでなつたのである。

東亞の盟主とは何んぞや。最大の國辱を受け且つ追従外交に甘んずるならば國車の必要もなく國民の後援も無用である。事茲に至つては國際信義も向文同種もなんの遺蹟もあらう。すべては武力の解決に俟たねばならぬ、よゝ往時の三國干渉が再演さるゝとも玉碎を覺悟して起たねばならぬ。國民にこの決意があつてこそ東亞の平和は確保され國家を磐石の安きに置くことが出来るのである。狐疑遊巡は最大の敵である。野然たる態度を持し兵火を辭せざる舉國一致の結束さへ示せば鼎の輕重を問はれる如きことはない。この條約廢棄通告に對する田中内閣の強硬態度と經濟界が排日排貨を覺悟し終始一貫、強硬態度を示した結果が南方政府に硬軟兩派を生ぜしめた一事でも判る。軟弱外交の本家たる民政黨が當初より對支強硬の愛國的聲明をしてゐたならば事態はここまで進まず日支の紛争は解決されてゐたはず。この際我が國は徹頭徹尾、飽くまで強硬な態度を持し支那が前非を謝し條約廢棄通告を取消し濟南事件はか二つの不祥事件を解決せねば關稅自主も治外法權擁護も一切交渉に應じてはならぬ、濟南の暴舉も斷じて撤退すべきにあらずといふ國民の強硬により田中内閣は野黨の非難を一蹴し南方政府が條約廢棄通告を取消せざる以下斷じて新局向の展開に應ぜぬ方針を確立、この旨を中外に聲明し大いに積鬱強硬の氣を吐いたが、野許もなく東三省に青天白日旗が飄り、又南方政府に對する態度を緩和するに至り再び日支間に暗雲叢生の時代を招來した。かくて對支懸案は何日解決さるべくもなく加へて南北支那の排日排貨は日と共に旺盛となり我が對支貿易は殆んど停頓の状態となつた。ここにおいて國內には田中外交をもつては到底この難局を收拾する能はずとする者多きを加へ、またこのとき滿洲

に於て重大事件があり、不戰條約文問題が何やく喧擾を極め、田中内閣の覆政は覆よべくもなく第五十六議會においては、滿洲軍費大事件、張學良勳共事事件等、多の難關に逢着、敢て拾すべからざる状態を現出したのである。

國民は政黨の醜劣を悉く見せつけられ、憤懣の念に駆られこの感情に付け入り共産黨、社會主義、無産黨の運動は燎原を行く火の如く熾烈を極め國民生活の窮迫よりする怨嗟の聲は天地に滿ち、悠久無限なる皇國體の將來さへ憂懼されるに至つた。國を憂するものの深望は言語に絶する有様だつたのである。當時内田良平先生が此を決し最後の御奉公と決然奮起されたる心懷はこの憂慮すべき世態に發するのである。世相の悪化、綱紀の頹廢、道義日に沈淪し、一髮千鈞の危機また臣敷するに由なかるべく思はれ、血誠坐視傍觀を許さざるに至り、身を挺して一億同胞に奮舞を振ふべく昭和五年六月十三日、大阪清交社に近邊有志を招き座談會の形式の下に國家の現状、國家の前途に對する深刻な憂國の至情を吐露された。その言々句句を悲壯を極め、その舌端火を吐く熱情は参習者の胸臆を強く衝き、皇國をして光輝あらしむる者、それは内田先生あるのみ。須く内田先生によつて新黨を結成し八紘一字の御遺訓に副ひ奉るべし、吾等また先生の國尾に隨ひて微力を致さんと誓ひ合ひ、遂に大日本生産黨誕生の第一歩が進められたのである。

立黨準備進めらる

我が大日本生産黨の結成當時の状況は前記の通りであるが、

内田良平先生は頭山翁、萬生館久、吉田益三氏らと共に未曾有の困難に處し身を以てこれを防衛すべく奮起された。内田先生は黒龍會主幹として生涯を對露問題に、對支問題に、或ひは外交、思想、經濟問題等内外の非常時局を説き、國難來を

叫ばれたのであるが、當時國民はなんらの關心を寄するものがないのに鑑み、切かに黨結成を企圖され頭山翁に謝られると共に最も信頼の置かつた當時の黒龍會副支部長吉田益三氏へ黨中を傳へられてから俄に具體化し、まづ大阪を中心に結黨準備が進められた。大阪の地が選ばれたのは内田先生が準備會席上ではれた如く、由來大阪の地が我が國政發祥の地なるが故であるが、一面その準備が吉田益三氏を中心に行はれてゐた由因にもよると思はれる。當時吉田益三氏はその中心となつて東洋西走日本主義運動に理解なき數百の人と折衝これ努め新く立黨の運びとなつたのであるが、既成政黨華やかなりし時代であつた爲め、その折衝は非常に難澁を極め舌痛そのものであつた。何にしろ現在全國に存在する多數の日本主義團體は殆んど總べてが滿洲事變以後、時流に乗つて結成されたのに反し、我が大日本生産黨は立洋社、黒龍會、生産黨と古き歴史を有する傳統があり、且つ滿洲事變以前に結成されたのであるから、準備會時代には人知れぬ苦心折衝があつたことは勿論である。この記録は大體纏りのついた最初の會合から記録することにした。

六月

六日 朝來東京より内田良平先生が來阪され吉田益三、立花良介、岸本重任氏等と準備事項に關し數次の打合せを行つた。
十三日 午後六時より大阪北區堂ビル清交社に於いて内田良平、末永一三、吉田益三、立花良介、岸本重任、三木重次郎、

宇田實一郎、那城遺一、馬淵吾一、井上周、黒山高慶、小田末道、村田虎之助、宇津七郎、岡本圭助、石墨行平、明清明、藤野芳司外二千七名出席して「大日本生産黨創立準備相談會」を開催した。吉田益三氏の開會之辭について、直ちに内田良平先生は黨創立の趣旨、並に主義政綱政策等に微細にわたつて説明あり、當日出席者全部を黨創立發起人たる事に異議なく決定した。

七 月

五日 「大日本主義を以つて國家の經綸を行ふにあり」との大旗を掲げて「大日本生産黨創立準備會發起人大會」は午後六時半より大阪中之島中央公會堂において開かれた。

先づ吉田益三氏司會者として開會之挨拶をなし、立花良介氏を議長に推舉の上委員を選舉し、次いで内田良平先生起つて「新政黨組織の急務」なる題下に約一時間半にわたり詳々として説明するところがあつたがその要旨は

我が國における政黨は初めは大日本主義に立脚して起つたものであるが、中途その主義を没却して小日本主義に墮し、以つて今日に至つたもので當初の立黨精神は今これを見ることが出来ない、と先づ政黨及び、政治の沿革を説き及ぶが故に現

在その精神を失ふた既成政黨では、民政、政友といはず又、無産黨といはず到底日本の現状を救ふに足らずとなし、大日本主義に基く新政黨樹立の急務なる所以に論及した後、その第一回の會合を大阪に開いた理由として大阪は我國政黨の發祥の地であり、大阪會議に依り後の自由黨が生れたのであるから頗る因縁が深いのである。

又、豊太閣は大日本主義實行の大先驅であつて、且大阪は經濟の都であるから三項を擧げたが今後は各府縣の準備會を開き今秋結黨式を擧ぐる運びにし度い、更に結黨に至る動機の一端を述べ、次いで別記主義政綱政策組織大綱案を發表、終つて江藤源九郎少將の外數名の贊成演説があつて感激裡に閉會した。

この日の來會發起人約百六十餘名、新聞記者二十一名であつた。

主 義

一、大日本主義を以つて國家の經綸を行ふにあり。

政 綱

- 一、欽定憲法に違ひ君民一致の善政を徹底せしむる事。
- 二、國體と國家の進運に適合せざる制度法律の改廢を行ふこと。

三、政治家及び政治機關を簡易化せしむる事。

政策 十七項目 組織大綱 二十四ヶ條

大日本生産黨を創立せんとして讀める

内 田 良 平

國を生み人を産ませし神業に神習ひして世を救はばや。

産み産みて萬の物を育くまば足らはぬことのなにあるべしや。

二、大日本生産黨創立提案書印刷出来

〔内 容〕大日本生産黨宣言要領（草案）主義政綱政策、組織大綱、提案説明（内田良平）入黨申込書

六日 午後六時より、大阪板屋橋大紙俱樂部において内田先生の「神政復古」と題する講演あり、世界政治國民教育につき力説せらるゝところあつたが吉田益三氏も出席された。

二十日 東京黒龍會本部において在京關係者三十名出席、生産黨結黨準備打ち合せ會を開いて協議するところがあつた。

四 月

二日 大阪府下豊能郡に中學養正塾を經營、その塾長として優秀青少年の指導育成に任じてゐる内田先生は豫て講述せる稿本を纏めて上梓し、我國體の淵源より體系組織を明かにし尊嚴無比の國體觀念の涵養に資すべく「國體本義」と題したる單行本を黒龍會本部より出版した。その大要は左の通りである。

萬邦に比類なき金剛無缺の國體は無缺なるべき天理人道に立脚して組織せられたるものなるが故に無缺なるなり。賈昨の隆なること天壤と窮りなきは、窮りなかるべき國體なるが故に窮りなきなり。何事ぞ、我國に歐米の文物輸入せられてより以來、遽に外國の科學にのみ没頭するもの多く、皇國の國本を學ぶもの少なきに至るや。既に外國の物質科學に没頭す。外國崇拜の極は、遂に自國舊來の文物制度を擧げて非文明野蠻の遺物なりとなし、之れを棄て、顧みず、従つて萬邦の寶典となすべき皇國の聖書を讀まず。讀まざるの結果は、自國の國體國本を解せず、自國の文明を信せず、自國の文明を信せざるの結果は、自國の倫常を解せず、倫常を解せざるの結果は、君父を信せず、夫婦相信せず、自ら自己を信せず、滔々として國民信念の基礎を喪ひ、危險思想此に發生して、國本將に破壊せられんとするは、實に今日の狀態なりとす。

今に於てこれを正しよする處なくんば、金匱無缺の國體も、遂に或は保すべからざる惧あらんとす。余は憂心此に發する能はず、曩に大日本國體體系圖を編製して、我が養生義塾々生に示し、圖解のために古事記を主體として、日本書紀及び諸家の説を引田解釋し、國體の淵源より國體の體系を説明したるが、今その講義録を出版するに當り、これを「國體本義」と題し、廣く青年子弟の國體觀念培養の資に供せんと欲す。

蓋し本書は、本と皇室を中心として組織せられたる我が國體成立の淵源を明かにせんが爲め、古典の解釋を試みたるものにして、古事記や書紀の解釋を目的としたものに非ず。而して古典の解釋は、古今百家の説ありて、各々見解を異にし、史實的なるあり、哲理的なるあり、神祕的宗教的なるあり、混淆錯雜せるあり、後學頗る取捨適從に苦み、荒唐無稽の説となすものあるに至れり。余深く之を憂ひ、研究に従事すること數十年。私かに得る所あり、天御中主神より伊邪那岐、伊邪那美の二尊に至る別天神五柱、神代七代間の記事は、天地創造人類發生の哲理にして我が民族の傳へたる一靈二行、即ち天御中主神の一靈と、高皇產靈、神產靈の火水二行説なりとし、伊邪那岐、伊邪那美二尊以前は無形體神にして、二尊は人類の始祖有形體神の現成なるが故に、無形神時代は、哲理的宗教的に解釋し、有形神時代に入りては史實的教訓的に解釋すべきものなるを認め、天の浮橋は新井白石の船艦なりとするの説を是とし、瓊矛を以て滄海を探らせられたるは卜占を爲させられしものにして、天御柱は二尊が宮殿を造り、中央の柱に天の御中主神、産靈人の祖靈を祭り込められたるもの。天照大神は太陽にあらず、天地萬物を統べさせらるる皇祖に座まし、月讀命は曆を司り、國民の衣食を司らせられたるもの。曆は古

讀み月讀みの轉語にして、大氣津比賣神を殺されたる記事は、須佐之男命なりとする古事記と、月讀命なりとする書紀との兩説あれども、畢竟記事の主眼は、生活様式の變化に伴ひ保守進歩の兩派を生じたる史實にあるものなりと斷じたる等、多く前人未説の解釋を爲せりこれ好んで新説を唱ふるにあらず古典の文字は斷じて期く解釋せざる可からざるを信すればなり。惟ふに我が國體は、神業に出で、和魂を本とし、歐米の文化は、抗爭に發して物質を本位とし、その優劣既に言を俟たざる所にして國初神業の垂蔭は悉く我が國體の淵源と和魂清徳發達の由來とを示されたる聖訓たらざるはなし。茲に我が國體を闡明するに當り専ら古典の研究を要する所以のもの、實にこれが爲めならずんばならず、若し夫れ口述未だ言を盡さず、一説いて詳かならざる點あるは、不文の致す所、敢て紙背の推論を請はざるを得ざる所なりとす。(國體本義緒言より)

五 月

二十四日 午後二時より大阪中之島中央公會堂に於いて「大日本生産黨結黨式第一次準備委員會」を開催した。出席者は内田良平先生以下吉田益三、立花良介、岸本重任、宇田實一郎、三木重次郎、和田彌一、別城遺一外三十八名、立花良介氏を議長に推し前記七氏を常務委員に選定、常務委員代表として吉田益三氏を推薦した。

更に、結黨式日時、場所、方法等につき種々協議をなし、最後に内田先生の思想講演があり午後五時半散會した。
五月三十日 我が大日本生産黨の晴れの結黨式は六月二十八日晝、大阪中之島中央公會堂に於いて開催、引續き午後六時より記念演説會、二十九日大阪天王寺公會堂に於いて記念演説會を開催することに決定を見た。

六 月

二十日 内田先生には既に下阪、結黨準備につき常務員代表吉田益三氏等と種々打合せ指揮するところがあつた。

廿五日 輝かしき我が大日本生産黨結黨式の準備全く成り、大阪市中之島坂の場所に立てられたる新政黨結成の立看板は往々人をして足を止めしめ市民の期待愈々高調した。

廿七日 内田良平先生、萬生能久、吉田益三氏始め入幡博堂、鈴木善一氏等結黨式關係者一同、大阪北濱黨創立事務所へ集りて結黨式當日における役割順序等その他について協議決定した。

○結黨大會の諸準備に日夜忙殺されてゐた内田先生は元氣よくかく語られた。

軍費が出来ないので結黨が延びてをつたが、時局は甚だ切迫して來るとし、頭山翁からも早くしたがよからうと却つて催

促される様な有様で、これは金の有る無しに構つてをれん、眞實の起つ全國の同志と共に、握り飯に草鞋履きでやらにやらんと思つて急ぐ事にした。

幸ひ氣遣は充分熱してをるからお互、ウンと活動しやう、なに僕等老人は青年が動く舞台掛けをしてやればよい、舞台掛けをして置からうと頭山翁と話し合つた。

兎に角茲三四年の内に大變な事が必ず起るから大覺悟をせにやならん。

結黨式を舉行

二十八日午後一時、歴史的感激の日である。初夏新緑の陽光、鏡々として照り輝き熱と希望を醸成するが如き此の日同じく會

場においても、感激と闘志に燃えた場の中に我が大日本生産黨の結黨式は大阪中之島中央公會堂においていと盛大に舉行せられたのである。

この日、午前十時頃には早くも會場に乗り込んだ常務員代表吉田益三氏の指揮の下に會場萬端の準備既に整ふ。黨員が段々と入場する、萬生能久氏の緊張せる姿が見える。正午過ぎる頃にはさしもの會堂もなだやかなる有様である。

前後、大阪府下豊中の内田良平先生別邸に一泊した頭山翁と内田先生が共に紋服で姿を現はすや清場破れん許りの拍手々々の波の渦を以つて迎へ入れられた。

同、當日の式次は左記の順序より進められたのであるが、出席黨員代表千五百餘名會衆併せて五千餘名の盛會であつた。

結黨式順序

- 一、開會之辭 吉田益三
- 二、座長推舉 葛生能久
- 三、結黨理由説明 内田良平
- 四、決議

(イ)結黨之件 (ロ)黨名稱之件 (ハ)主義政綱及黨則之件 (ニ)總裁及顧問推戴之件

(ホ)役員選舉之件

- 五、聖壽萬歲奉唱 發聲頭 山 滿
- 六、閉會

(引續き) 第一回演說會

- 別城遺二
- 鈴木善二

- 八幡博堂
- 立花良介
- 佐々木保次郎
- 林逸郎
- 池田弘

開會之辭 司會者 吉田益三

諸君の御熱心なる御奮闘に依りまして今日此處に新政黨の結黨式を擧げることになりましたのは國家の爲め御同慶に堪えぬ次第であります。昨五年六月十三日大阪堂ビルにおいて創立準備相談會を開催いたしましたして、發起人を決定、次に七月五日創立準備起人大會を開催し創立準備委員を決定し、更らに本年五月二十四日結黨式最後の打合せを爲し熱烈なる同志諸賢の御盡力により本日茲に晴れの結黨式を擧げることになりました。今後は國家の爲め我が大日本生産黨の爲め御奮闘あらんことを切望する次第であります(大要)

次いで座長に葛生能久氏を推舉。

内田先生の結黨理由の説明を求め、拍手裡に内田良平先生起つて（大要）左記結黨理由を滔々と述べられた。

「我國現下の状態は往々に歐米思想を輸入して漸次大和民族固有の精神を失ひつゝある事は誠に國家を憂ふるものゝ状態し得ざるどころである我大日本生産黨は我民族固有の精神に立脚して國民一致の大活動を起こさんとするもので、我國の生産界を振興せしめんとするものである既成政黨はその弊多くして最早國民の信頼するところとはならず新たに國民の興望に起てる我黨は先づ黨内各自の自覺によつて政黨の刷新と選挙界の情弊を断じ以つて國運の進歩に資せんとするものである」と外國模倣の弊と、法律制度の改廢立國經濟の確立軍機問題各問題に對し熱解を以つて説かれた。

次いで議事に入り黨名は大日本生産黨、主義政黨期は別項の如く決定し、總裁に内田良平先生、顧問に頭山滿翁を推挙し致推挙可決し委員百三十名を部長より指名發表した。

議事終つて七百餘通の祝電の内より二三の發表あり最後に、頭山滿翁の發言にて、天皇陛下萬歳を奉唱して結黨式を終了したのである。こゝに無難唯一なる大日本主義維新政黨たる我が大日本生産黨が興興として生産した。

黨費の興費は更に引續いて結黨記念第一回大演説會に移され、辯士別城道一、鈴木善一、入幡博宣、立花良介、佐々木保次郎、林逸郎、池田弘氏等々起つて政治に思想經濟に、教育刷新に又は外交軟弱を痛論駁撃すれば、隨處注意中止の聲浪の中に「我等愛國の士の愛國の叫びを阻止するものは、何人によらず賣國奴なり」と喝破各辯士熱解雄辯を奮ひ演説を絶せしめて閉會した。

この受ある結黨式並に大演説會を、大阪放送局はニュースとして特報したのであるが當時としては異例であらう。

二十九日 午後六時より第一回結黨記念演説會を大阪天王寺公會堂に開催、聴衆二千餘名に満ちたる盛會であつた。

辯士は内田總裁、吉田益三、池田弘、入幡博宣、鈴木善一、林逸郎、櫻谷慶一郎、佐々木保次郎、別城道一

尙この二日間の演説會に感動入黨者四百名餘に及んだ。

三十日 我黨の意義ある結黨圖書は吉田益三氏の名によりて大阪府警署へ提出された。

三十日 顧問頭山滿翁、總裁内田良平、常任委員葛生龍久、關西本部常任委員長吉田益三の諸氏以下幹部十數名は結黨第一歩を神戸須崎字津七郎邸に運び阪神間の有志三百餘名を集め座談會の形式にて二時間にわたり皇國の現情同窓の感起結黨の理由を述べ多大の感動を興へ直ちに入黨者二十數名を得たり。

七月

一日 内田總裁黨本部へ來所されて遊説部擴張設置の件が確定された。

六日 第二次日本生産黨首腦部佐野等四十三名の公報にあたり、官場黨長は彼等被官の主張を容れて結黨會を開か

しめた。公報廷において被告等に主義綱領を演説せしめることは神聖なる公報を侮り蹂躪するものであり日本人とて坐視する能はずとして敢然起つて阻止するに決定、午前九時東京支部において緊急幹部會を開き、特別委員として、萬生能久、池田弘、小山田劍南、佐々木天山、八幡博堂、鈴木善一氏をあげ同日牧野大審院長、小山檢事總長、金山檢事正、西郷裁判長等を歴訪し、嚴重なる警告を發し同時に裁判所側の處置を監視することにした。

▼八日黨報第一號（結黨式報告號）が七日々附で始めて發刊された。

關東、東北遊説を行ふ

内田總裁は八幡博堂、鈴木善一氏等を從へ關東、東北地方を遊説した。

七月十五日 東京市本郷區佛教會館における回天時報社主催の滿蒙問題解決演説會に出席講演。

十六日 東京市淺草區統一閣における同社主催の演説會に出席講演す。

十七日 東京市本所區公會堂における主催の演説會に出席講演す。

十八日 新潟市北濱社主催滿蒙問題講演會の爲め出發、十九日同市劇場において講演、二十日歸郷。

二十一日 東京市上野精養軒において滿鮮問題有志大會主催の開胃の辭を述べ。

二十二日 東京市深川小學校一個所における相愛會主催の演説會に出席講演す。

二十三日 東京市赤坂區青山會館における滿鮮問題國民同盟主催の演説會に出席講演す。

二十四日 滿洲より上京せる滿洲青年聯盟代表者を陶々亭に招待談話す。

二十五日 東京市淺草區開成座における國民同盟主催の演説會に出席講演す。

二十六日 甲州上野原に赴き人類愛善會主催の演説會に臨み講演す。

二十八日 東京市芝公園協同會館における國民同盟主催の演説會に出席講演す。

二十九日 東京市本所公會堂における國民同盟主催の演説會に出席講演す。

萬寶山事件で起つ

十六日萬寶山における我滿鮮人同胞に對する支那官民の言語に絶する迫害事件に

端を發し暴支膺懲、軟弱幣原外交絶對反對、鮮南問題の根本解決を叫んで、午後一時より東京赤坂三會堂に内田良平、佃信夫、高山公通、萬生能久、小山田劍南、外百十數名參集「鮮南問題國民同盟發起人會」が開かれ鮮南問題有志大會を開くことに決定した。

二十一日 人類の歐東洋平和の擁護者支那を討てと「滿鮮問題國民同盟」は午後五時東京上野精養軒に、内田良平、林春聲、井上清純男、五百木良三、萬生能久氏等六百餘名參集宣言決議をなし、小山田劍南外七氏を訪問委員として、若槻首相、幣原外相、南陸相、原拓相の各閣僚を訪問最後の決意を要求した。

なほ引き續き二十三日より東京市内六ヶ所に、輿論喚起の演説會を開催したが黨よりは小山田劍南、林逸郎、萬生能久、鹽谷慶一郎、池田弘、鈴木善一等が熱辯をよつた。

八月

米間諜飛行家を糾弾

十二日

日本官憲の許可なくして勝手にナコースを遊んで飛來し、然かも津浦要港の偵察圖を撮影した米人飛行家、バングボーン、ハーンドン兩名の我航空法、要港地帯法違反事件は幣原外務大臣に頼むに足らずとなし、健全なる國民の總意を代表して、東京支部に於いて幹部會を開いて、協議の結果林鴻郎委員を古田次席檢事と會見せしめ、間諜的犯人は、嚴重懲罰せられたし又、軟弱外務省、米國等の鼻息を窺ふことは絕對無用に願ひ度き旨を嚴重警告をなした。

又、十三日内田總裁の名を以つて司法省並に關稅當局に對し長文の警告文を發した。】

東北、關西、九州遊説を行ふ

内田總裁は八幡博博、鈴木善一氏等を従へ東北地方を遊説した

八月一日 東京出發山形縣に向ひ、二百米澤着、昭和青年會會式に臨み講演。午後七時半より人類愛善會主催の講演會に出席講演す。

三日 米澤を發し、赤湯に到り、同地有志の希望により午後一時より講演、終つて山形市に赴き人類愛善會主催の講演會に出席講演す。

四日 新庄に赴き同會主催の講演會において講演。終つて旅館に歸り座談會を開く。

五日 酒田に赴き同會主催講演會において講演す。

六日 酒田を出發し宮城縣石巻に到り、同地有志會の主催にて講演す。

七日 仙台に到り公會堂において同市の主催せる講演會に臨み講演す。

八日 仙台市役所樓上において催されたる座談會に臨みて講演をなし、終つて大本教支部に赴き信者一同に講演し、午後十時三十分發夜行列車にて歸郷す。

十七日 内田總裁、吉田益三委員は京都府農工商會議所主催の農工商公會堂における講演會に出席、總裁は「國家の現狀に對し國民の自覺を促す」と題し二時間半に亘り熱辯をふるつた。

十八日 内田總裁、吉田益三委員は京都府下井戸町玉川劇場において「新政黨樹立の急務並に生産黨立案の意義、時局批評」の熱辯をふるひ大なる感動を與えた。

二十日 内田總裁、吉田益三委員外隨員一名控同、九州遊説の途に就いた。

二十一日 内田總裁、吉田委員等は佐世保市佐世保會館において講演、總裁は「神政復古と國民の覺悟」なる題下で熱辯を

ふるつた。

二十二日 午前八時内田總裁、吉田委員等は佐世保海軍工廠長の依頼により、海軍工廠において講演、總裁は「滿蒙問題と國民の自覺」なる演題下に軟弱外交と國民の奮起を促して大なる成果を擧げた。

午後總裁一行は吉田益三委員の庄園の地佐世保市外松浦町有志の歓迎會へ臨み、更らに佐賀市へ向ひ佐賀公會堂において「滿蒙問題と國民の自覺」の題下に大雄辯をふるつた。

二十三日 福岡縣大牟田市へ向つた總裁、吉田委員等は、三井炭坑を視察し、夜大牟田市一公會堂にて「滿蒙問題と國民の自覺」の題下に大講演をなした。

二十四日 内田總裁、吉田委員等は戸畑市戸畑公會堂において「滿蒙問題と國民の自覺」の題下に講演をなした。

二十五日 總裁、吉田委員は若松市公會堂において「滿蒙問題と國民の覺悟」の題下に熱辯をふるつた。

二十六日 内田總裁、吉田委員等は直方市公會堂において「滿蒙問題と國民の覺悟」について熱辯をふるひ感銘を與えた。

二十七日 内田總裁、吉田委員一行は午後七時より八幡市公會堂において滿蒙問題と國民の自覺を促す講演をなした。

二十八日 總裁、吉田委員等は午後二時より福岡縣田間町公會堂にて「滿蒙問題と國民の覺悟」なる講演をなし同日夕、小倉市公會堂においても同じく講演をなして大なる感動を與えた。

二十九日 内田總裁、吉田委員等は福岡縣香月町小學校講堂にて「滿蒙問題と國民の覺悟」なる熱辯をふるひ、國民の奮起

を促し更らに同夕、門司市基督教青年會館においても同じく大講演をなした。

三十日 九州各地に大遊説をなした内田總裁、吉田益三委員等一行は大なる成果を収めて元氣に歸阪した。

九月

三日 夕内田總裁は吉田委員等と帝都へ向ひ京都日出會館において「切迫せる滿蒙の現状と我國民のとるべき決意」と題し且講二時間講場の熱氣を感激奮起せしめた。

東京に支部を置く 七日 東京支部を東京市永田町黒龍會自由俱樂部内に置き事務を開始して組織連絡の運動を始めた。

十日 午後五時より東京青山會館において、兎懸支那に對して滿蒙保障占領を行へと、口論一致と、この機運指導、共同闘争を行ふべく民間七團體主催の下に「滿蒙問題聯合大會」を開いた、黨より内田總裁熱辯をふるはれた。

十一日 別城遺一委員が大阪府會議員改選に當り第三區より出馬に決定、立候補をなした。

二十二日 別城遺一委員選挙應援のため、内田總裁は東京より來阪、市内各所において熱辯をふるつた。

何、各委員、青年部も連日應援に出動した。

満洲事變現地調査員特派 二十三日 満洲事變突發により實情調査の爲め滿洲特派員として徳田宗一郎、岡市正大兩委員を特派觀察の途に就かした。

二十四日 内田總裁は二十一日より引續き別城委員のため市内各所の演説會へ出演應援された。木曾重義委員は福岡縣々會議員改選に立候補中のところ美事當選した。

總裁一委員は福岡縣々會議員改選にかねて立候補中のところ當選決定した。

内田總裁、吉田益三委員は大阪清交社において、滿洲問題に對する講演をなした。

二十六日 大阪府々會議員改選に立候補當選中の別城委員は途に惜敗した。

「日本經濟界の實勢」を發刊 三十日 實情調査部において調査編輯中の「日本經濟界の實勢」第一巻發行した

内容 一、産業大綱圖表 五枚 二、金融大綱圖表 三枚

三、財政大綱圖表 一枚 四、日本經濟界の實勢(圖表説明一冊)

同書は我日本の「國策資本主義經濟機構、金融、財政、産業に對する精密にして徹底的なる調査書である。」その内容は左の通りである

一、産業大綱圖表(五枚)

第一圖 貿易總額および會計總資產年比較圖及統計表

第二圖 産業界の趨勢圖

第三圖 重要生産品の貿易及生産狀態趨勢圖及統計表

第四圖 重要商品の生産と貿易狀態趨勢圖及統計表

第五圖 貿易界の趨勢圖

二、金融大綱圖表(三枚)

第一圖 金融運用資本構成と運用狀態年比較圖及統計表

第二圖 金融資本運用狀態の推移と金融界趨勢圖

附圖 銀行資本運用狀態の推移と金融界趨勢圖

三、財政大綱圖表(一枚)

一般會計支出各省經費年比較表と一般會計運用狀態及通貨政策趨勢表

四、日本經濟界之實勢(圖表説明書)一冊

黨勢山梨に伸ぶ 大日本生産黨の旗の下に一切の國争と組織を展開しようと山梨縣支部結成準備會發會後、大久

保善三氏等は日本國民黨結成準備會を發展的解消して五千人名簿獲得に猛運動、その第一聲を南府市に擧げた。本部よりは内田總裁、小山田劍南、入幡博堂、津久井龍雄、鈴木善一委員等が應援して熱辯をふるつた。

十一月

二 日 昭和八年第一回國民黨準備會議に於ける準備代表顧問として活躍した堂前孫三郎氏が吉田益三氏の紹介で入黨した十七日 第一回黨大會準備に關し午後一時より東京赤坂三會堂に於いて「黨大會準備委員會」を開催した。出席者は内田總裁、吉田益三、萬生龍久、小幡虎太郎、池田弘、小山田劍南、入幡博堂、鈴木善一、堂前孫三郎外東京、大阪、京都他全国各地より百餘名の同志を募集した。先づ開會の挨拶に次いで吉田益三氏経過報告をなし、萬生氏を議長に選び、内田總裁より大會に諮るべき政策案を作製したる精神に付詳細の説明を聴き、終つて政策案則案の審議、大會舉行に關する諸般の準備事項を協議し午後四時過散會した

第一回黨大會

二十日 我が大日本生産黨第一回全國大會は國民生活は愈々窮乏し、然か

も滿洲事變に緊張しきつた雰囲気の中に、午後一時より東京赤坂三會堂において嚴肅、且つ盛大に舉行された。定刻前、東京府市を始め大阪、京都、兵庫、中國、九州、關西、新潟、長野、栃木、群馬、山梨を始め全国各地府縣よりはるばる上京した千餘名の代表黨員を以つて會場は埋められ、ついで頭山顧問、内田總裁、吉田益三氏等幹部諸君拍手歡迎裡に入場着席する。

演壇正面には大日本生産黨旗が掲げられ、大書せる政策草案が貼り出され更に兩側の窓には黨本部苦心の調査になる大餘の財政統計圖が數多掲揚されて黨員の眼を惹く。午後一時二十分開會の振鈴と共に意義ある黨大會は左記の順序により進められて行つた。

大會順序

- 一、開會振鈴
- 二、國歌合唱（一同起立）發聲 佐々木保次郎
- 三、開會挨拶 司會者 池田弘
- 四、議長、副議長選舉 議長 萬生龍久
副議長 吉田益三

五、經過報告

吉田益三

六、合同及參加各團體誓言

七、議事

(イ) 内田總裁演説 (ロ) 黨政策決定の件 (ハ) 本部ヲ東京ニ移シ大阪ニ關西本部ヲ置

ク事 (ニ) 黨則第一條改正ノ件

八、各代表演説

九、聖壽萬歲奉唱 聖壽内田總裁

十、散會

大會役割

一、顧問 頭 山 滿

一、總裁 内 田 良 平

一、議長 萬 生 能 久

一、副議長 吉 田 益 三

(司會者) 池田弘(大會書記長) 八幡博堂(書記) 鈴木善一、片岡駿、飯塚豊一、山本昌彦、大曲三郎(統制部) 松田福輔、小幡虎太郎、小山田淑助、佐々木保次郎、林逸郎、隈谷慶一郎、堂前孫三郎、坂井六輔(庶務主任) 鈴木善一(交渉係主任) 齋地磐夫(進行係主任) 池谷源一(會計主任) 知野秀次

先づ佐々木保次郎氏の合圖を待つて満場起立、莊重に君ヶ代を奉唱し次いで、司會者池田弘氏起つて開會の挨拶を述べ、

「總裁内田先生は多年國難來を編叫言論に文章に實際運動に時難匡救の任に當つてをられたが、時局は逆に憂を加重するに至つたので茲に親ら渦中に身を投じて、局面打開をなすべく一黨を組織されたのである。黨は日淺きに不拘、總裁に黨員の活動により多數の入黨者を得つゝあるのは日本國民が我黨へ期待する所大なるからである。現今滿洲事變勃發して日清日露以上の非常時を痛感する。

今こそ支那を膺懲する機會である。既成政黨に何も期待出来ぬ。現状に鑑みて日本の國難を打開してこれを匡救し得るものは我生産黨以外他に絶對ないと思ふ」

と述べ終つて議長選挙が行はれ、議長に萬生能久氏、副議長に吉田益三氏選ばれて着席す、更に本部經過報告の爲、吉田益三氏登壇。

「昭和五年六月十三日大阪清交社における創立準備相談會より、黨創立準備發起人大會、結黨準備委員會、結算式迄の經

満を詳細に報告し、更らに結集後總裁は七月近畿地方に、八月上旬東北方面に遊説され、又下旬には九州各都市を遊説され、て賞讃大に非常なる成績をあげられた。關西地方においても青年遊説部を各班に分ち各所に演説を買開くと共に黨員有志、青年黨員等が市内各所戸別訪問をなし黨員獲得に務めて大なる効果を収めつゝある。

情勢を報告、演説拍手を以て之を承認す、次いで合同並に支持宣言に移り、先づ日本國民黨を代表して八幡博堂氏起り。「信州高原の一角から大日本主義獨自の方針を確立し、祖國改造の大精神に燃え立つ無名青年同志により結成された信州國民黨は更に飛躍して日本國民黨を生誕せしめた、爾來全國的統一黨を目標として、師父たる頭山、内田兩顧問の絶へざる指導演説と全黨員の健闘によりあらゆる苦難と闘ひ遂ひに愛國派戦線の統一と強化が現實に戦ひ取られ、先驅的役割を遂行して茲に全黨員と共に本黨に發展的契約を行ふものである。」との合同宣言を朗誦し、讀いて

大阪印刷職工組合代表(小部英男氏) 大阪三木組代表(三木重次郎氏) 大阪北濱自行車會代表(磯野方司氏) 大阪市電自動

車親友會代表(大西良平氏) 洛北青年同盟代表、關西十團體代表

等宣言書を朗誦し各嚴肅なる支持宣言を行ひ、講壇に入るに先だちて先づ。

内田總裁の立憲精神並に政策大綱についての演説に入る。内田總裁答覆(大拍手起る)

内田總裁の演説(要旨)

模倣を排して大日本主義確立へ 日本は今や非常なる危機に際會してゐる、その原因は歐米文明を善惡邪正の仕方なく取り入れた。教育に政治經濟に總て模倣文明による、茲に東西文明を咀嚼消化して、新日本を造り出す必要に迫られた。かるが故に我黨は大日本主義を精神とする。日本は國家を家とするところの親子主義を以つて成り立つてゐる。祖先あつて自己あり我あつて祖先がある、この萬世一人格なるが故に過去現在將來に責任を有つてゐる。是か萬世一系の皇室を戴いてゐる所以である、こゝに日本固有の國民道徳が發生し四海同胞の道徳が發生してゐるのである。西洋の權利や自由思想は自己本意であり排他的になり家庭破壊となる。

親子夫婦相反すれば家庭道徳が紊れ、又經濟も破壊される、之國家においても同じである。斯く西洋の個人思想主義と日本人の思想とは全然違ふ、萬世一系の皇室を戴き萬世無窮なりといふ實體を戴いてゐる我々日本人は皇室を見つめてゐればよい、君臣分子一體となり道徳經濟不二一體なる國は日本以外にはない、これ我々の日本主義を發揮して起たなくてはならぬ所以である。

社會制度の根本的改革が急務 日本は現在國家政治上にもおいても社會設備の上においても根本的健全の必要がある、なんとすれば善惡混淆、財政經濟滅茶滅茶でこれを甦生せしむべき政治家がない、日進月歩といふ言があるが、今日の機械にしても明日は古くなる、事業を爲すなら早く建設費を償却して新しき設備をなし餘りを貯蓄すべきである。

我が日本は官業民業といはず少しも資本償却といふことを爲さないで悉くを株主、重役へ配當して、我國富めりと喜んでゐるがその欠損はどれだけあるか、百五十億以上もの大損をしてゐることを知らない、假りに、濱口内閣が金解禁して經濟縮少の政策を執つたが結局物價が下落する、三百億以上資金を投せられざる事業は、一つも資金を返してをらないのであるから、大欠損が生じて來るのである。何等準備なく行つた政策により物價は三分の一に下落した。三百億の資金は實に二百億といふ莫大なる損をした事になる、かくの如く日本は既に破産して利子で喰つて居る様な状態である故に茲に道德經濟不二體の日本主義に立脚して國內經濟の再生を計らなくてはならぬ。

金權を國家の手に回収せよ 先づ我が生産黨の爲すべきことは制度法律を片端しから建直しねばならぬ。これを爲さねば現在の經濟組織、金融組織の變更は出來ない。日本が資本主義の弊に陥つたのは、金權即ち貨幣を公正に分配する所の權利を國家が勝手に人に與へたといふ所に生じてゐる。

勝手に個人が銀行を拵へて行けば當然、三井、三菱、住友等暖簾と信用のある所に金は集る、その金を握つて己の事業に傍系會社に己の便利な連中にだけしか金は貸さない、茲に日本の資本主義といふものが出來たのである。

然して事業資金は固定して丁ふ、然かも現在日本の各銀行は大損をして獨りで立ち行く銀行はない様な有様である。これ資本家を呪ふより國家が一番大切な金權を蓋りに人に與へたといふ根本の弊害がある、故に貨幣分配の權利は國家が握るべきである。

資本主義に代るべき我黨の政策

我が生産黨は早く結黨したに不拘、華々しき活動に入らなかつたのは今迄日本の財政状態、金融状態、産業状態、貿易状態等細密なる調査を爲し、實體を示して國民總てに訴へる外ないと存じ數的準備中であつたが、ここに動かすべからざる數的調査を了へ、それによつて我黨の經濟對策を樹て得たのである。未だ殖民政策、社會事業政策等も必要であるが今や、國民は總べて厭えてゐる、破産してゐる。財界が危いといふよりもそれを通り過ぎてゐる。故に經濟問題に重きを置いて今日諸君に政策を決定して戴き度い、この政策を掲げて我々が起つ以上は既成政黨といはず如何なる政府であらふとも意見の相違といふ譯にはいかぬ、我黨の主張するところは議論にあらずして實際である。我々はこの政策を以つて擧つて命がけで働かう。

而して非常時國家を支へ更生せしめねばならぬ、諸君の一大決意と御健闘を希望する。

と熱烈宣擧なる演説を拍手裡に終了、續いて議長は政策案二十五項を上程し、全會に諮り満場異議なく可決す。

さらに本年六月結黨以來大阪にあつた本部を東京に移し大阪に關西本部を置く件を可決し、これに伴ふ黨則第一條改正の件を附議し、これ又一可決して議事を終了した。

次いで大日本生産黨と共同闘争を誓ふ、友誼團體よりの祝辭、祝電の披露ありて各代表の演説に移り。

鈴木善一(本部) 別城遺一(關西) 佐藤程壽(栃木) 伊藤博允(福岡) 赤羽 稔(長野) 堂前孫三郎(關西) 小山田剛甫(本部)

等の各氏起つて熱烈なる演説を賜開し終つて内田總裁の發聲にて「聖徳太子」を三唱し、黨員席より内田總裁萬歳を三唱し午後四時十分光輝ある大會を終つた。

(一) 本部役員

- 一、總裁 内田 良平
- 二、顧問 頭山 滿
- 一、本部常任委員

池田弘、池本源一、岩瀬幸三郎、林逸郎、本間憲一郎、別城達一、堂前孫三郎、知野秀次、小幡虎太郎、小山田淑助、尾形恭造、奥旨足百、小田末造、岡南、和田彌一、吉田益三、立花良介、宅野田夫、宇田貫一郎、葛生能久、八幡博室、松田頼輔、香篠信、佐々木保次郎、齋地賢夫、坂井六輔、三宮雅信、岸本重任、三木重次郎、巽谷慶一郎、巽谷義丸、瀨戸保太郎、鈴木善一

(二) 關東本部役員

- 一、常任委員長 葛生能久

一、常任委員

池田弘、池谷源一、林逸郎、本間憲一郎、知野秀次、小幡虎太郎、小山田淑助、尾形恭造、奥旨足百、宅野田夫、八幡博室、松田頼輔、香篠信、佐々木保次郎、齋地賢夫、坂井六輔、三宮雅信、巽谷慶一郎、巽谷義丸、鈴木善一

二、理事

池田弘、八幡博室、齋地賢夫、坂井六輔、鈴木善一

三、書記

鈴木善一、片岡駿、奥旨足百、川崎清司、千葉貞太郎

四、會計監督 知野秀次

(三) 關西本部役員

- 一、常任委員長 吉田益三
- 一、常任委員

岩瀬幸三郎、別城達一、堂前孫三郎、小田末造、岡南、和田彌一、立花良介、宇田貫一郎、岸本重任、三木重次郎、瀨戸

保太郎

一、總務部 (兼會計)

大曲三郎、飯塚豊一、徳田宗一郎

一、書記局

飯塚豊一、富永源一郎、上野虎雄、種子島達人、田川健吾、中村清登

(以下略)

委員

池田弘、池谷源一、井上初太郎、岩瀬幸三郎、井上周、岩田愛之助、伊藤友治郎、伊藤武雄、飯塚豊一、磯部博葉、伊藤二郎、伊藤博允、磯部若司、稻垣善次、林逸郎、林重俊、橋本重雄、丹生純、細井肇、細川信吉、本間憲一郎、朴春琴、別城遺一、頭山秀三、徳田宗一郎、堂前孫三郎、徳田眞壽、富永源一郎、知野秀次、千々波敏太郎、小幡虎太郎、小山田淑助、小田末造、小山清造、大森松四郎、小澤安左衛門、大曲三郎、大野大輔、大崎正吉、大庭武幸、大原鹿雄、大森康一、尾形彦造、奥旨足百、小部英男、小部信次、小澤薫次、岡貞吉、岡崎忠三郎、岡甫、岡市正大、奥村治郎一郎、和田彌一、川口吉太郎、川崎三郎、鶴野市、柿花啓正、狩野巖、吉田益三、吉原源太郎、吉田三郎、吉永八百市、宅野田夫、立花良介、高村謙一、田岡晃、田川健吾、高山嘉一郎、齋河卓爾、根來亮一、永富以徳、中島勝若、中川裕、中西彦太郎

永松治郎、永谷暴吉、村田麟齋、成瀬言彦、宇田貫一郎、梅屋庄吉、宇津七郎、齋岡塚三、上野虎雄、野口欣一、草野勇三郎、熊田貞次、葛生能久、八幡博堂、山里荷行、山本誠一、山本千一、山本數榮、山本倬也、安田兼三、松田頑輔、松井正光、馬淵吾一、前島通博、福富健之、郡喜重、香渡信、後藤再三、五藤切之助、榎本佐市、手島清芳、寺田稻次郎、秋山長次郎、赤羽隆次、齋藤彦左衛門、齋藤幸太郎、齋藤孝一、西郷隆秀、佐々木保次郎、齋地磐夫、三宮維信、坂井六輔、岸本重任、岸本一誠、岸和出勝、木曾重義、宮本巖、三木重次郎、鹽谷慶一郎、眞藤義丸、四宮晃一、柴田麟次郎、重松又次郎、森里武、瀬戸保太郎、瀬尾素治、末永二三、末永節、鈴木一郎、鈴木茂、鈴木善一

大日本生産黨政策

- 一、華族は濫下制となし新に臣民より列することを止め皇族降下の階梯となすこと
- 二、各省の廢合を斷行し冗員を淘汰し以て官吏の能率増進と經費の節減を計ること
- 三、府縣を併合しその組織を改革し地方自治の權能を擴張すること
- 四、地方の財政經濟を徹底的に整理すること

- 五、選挙法を改正し一家を構成せる者は男女年齢を問はず選挙権を附與すること
- 六、國防の絕對的安全を圖り陸海軍をして精銳の武器を備へ最強なる將兵を養成せしむること
- 七、僧兵の義務に附する能はざる者に対し兵役奉公金を納附せしむること
- 八、兵役奉公金は市町村において保管し稀貴なる服役者の家族及び廢兵扶助料並に青年訓練所費に充當すること
- 九、外交官を一新し日本の天職遂行の外交方針を確立すること
- 十、警察權を分離し行政警察司法警察となすこと行政警察は市町村の管轄とし府縣知事をして總監せしむること
司法警察は司法大臣に屬し司法警察總長を置き之れを總監せしむること
- 十一、建國の精神を稱作し日本人の天職を遂行せしむるに足るべき教育の根本方針を確立すること
- 十二、繁雜苛重なる税制を改革し民力を涵養せしむること
- 十三、世襲財産の限度を制定し限度額以上に對しては累進的相稱税を課すること
- 十四、官營事業の範圍を縮少し官民共同事業を擴大すること
- 十五、土地合併の弊を打破し無住無戸の國民なからしむること
- 十六、農民需給組合を組織せしめ地方民衆興の基礎を確立すること
- 十七、「メートル」法を廢止し度量衡法を復舊せしむること

- 十八、生産者保護法を制定し國民生計の基礎を確立すること
- 十九、産業を無資本化せしむること
- 二十、企業の統制經營の改善を期する爲め國家的調査機關を設置すること
- 二十一、不良會計整理に關する監督機關を設置すること
- 二十二、事業資金金融機關を設置すること
- 二十三、事業固定資本の徹底的整理を行ふ爲め強制法を設定すること
固定資本の整理は通貨に依りしむること
- 二十四、債權債務關係補償法を設定し債權債務の整理をなすしむること
整理は債權額の切り下げ、年賦、利拂の停止、切り捨て等を以てなすこと
整理後の債權に對しては保善擔保をなしその不可抗力の損害に對しては國家において補償すること
- 二十五、府縣立銀行を創立し地方産業の金融を普遍ならしむること

大日本生産黨主義政綱黨則

主義

政 綱

- 一、大日本主義を以て國家の經綸を行ふにあり
- 二、欽定憲法に遵ひ君民一致の善政を徹底せしむること
- 三、國體と國家の進運に適合せざる制度法律の改廢を行ひ政治機關を簡易化せしむること
- 四、自然自立の國經濟の基礎を確立すること

黨 則

- 第一條 本黨は大日本生産黨と稱し本部を東京に置き支部を全國各地方に置く
但し全國樞要の地に地方本部を置くものとす
- 第二條 本黨は本黨の主義政綱政策に賛成しこれが實行を期する者を以て黨員とす
- 第三條 本黨の組織は總裁統轄の下に政務、産業、總務の三部を置き各部管掌の事項に對してこれを處理し或は研究並に目的の達成に任ず
- 第四條 政務部は教育、軍事、財務、産業、司法、外務、内務、交通の八局に分ち部長一名及び各局毎に局長一名、常任委員若干名を置く

第五條 産業部は農業、工業、漁業、海運、陸運、商業、礦業、諸業の八局に分ち部長一名及び各局毎に局長一名、常任委員若干名、理事若干名を置く

第六條 政務、産業兩部長は總裁これを任命し局長理事は委員より推薦せしむるものとす

第七條 總務部に部長一名、理事三名を置き總務の全般を統一處理す

第八條 總務部に書記局を設け局長一名及び書記若干名を置き局長は總務部長をを選定す

第九條 總務部長は總裁之を任命し理事は總務部長の選定に任ず

第十條 總務部の要務に關しては政務、産業兩部の十六局長會議を開き之れが協議に附するものとす

第十一條 本黨に總裁一名顧問若干名を置く

第十二條 總裁並に顧問は委員會の協定により衆望ある大徳を推戴す

第十三條 産業部委員會に於て決議したる問題は政務部委員の協賛を経て之を總務部に提出し總務部の決議を経て總裁の決裁を仰ぎ之を實行に移すものとす

第十四條 政務部に於て決議したる問題にして産業に關する事項は産業部委員會の協賛を経て總務部に提出すべく然らざるものは直接總務部に提案し其決議を経て總裁の決裁を仰ぎ之を實行に移すものとす

第十五條 産業、政務兩部間に於て一致せざる特別の問題あるときは原案提出部の提案により總務部委員會に附し可否

決定の上總裁の決裁を仰ぐものとす

第十六條 本黨の重大問題は顧問會に意見を請ひ之を具して總裁の決裁を仰ぐものとす

第十七條 總裁の決裁及び指令に對しては絕對服従すべきものとす

第十八條 政務、産業、總務各部の常任委員會は各部其の部長を以て議長と爲すものとす

第十九條 委員は本部及び各地方本部並に支部より選出し、常任委員は委員中より互選し、委員會は毎年一回之を開きて黨内の庶務を協議するものとす

第二十條 總會は毎年一回之を開き黨務の根本方針に關して協議するものとす

第二十一條 黨員は入黨金拾圓及び毎月金拾圓宛の黨費を負擔するものとす

第二十二條 黨員には黨員章及び黨員手帳を交付するものとす

第二十三條 黨員手帳には黨費の納入或は寄附金及び功勞等に關し其の都度本部或は地方本部並に支部に於て證明記入を爲すものとす

第二十四條 黨員にして本黨の趣旨に反し若くは黨の體面を汚損したる行動ありたるときは所屬本支部委員會の決議により之を除名すべし

第二十五條 委員及び各部役員の改選は毎四ヶ年とす

但し第二回に限り結黨の日より滿一ヶ年とす

第二十六條 黨訓改正の必要を認むるときは委員會の成案に依り總會に附して之を決定すべし

地方黨員歡迎會

十二月二十日大會終了後、午後六時より赤坂三會堂に於いて内田總裁主催の地方

黨員歡迎會が開催せられ黨員約百五十名出席先づ内田總裁より今後の運動方針並に時局に關する訓話あり、卓上五分間演説に移り

松田禎輔、寺田稻次郎、關谷慶一郎、赤羽俊爾、柳省、香渡信、津久井龍雄、鈴木達、中川裕、野口一齋、高瀬兼介、堂前孫三郎、影山正治、別城遺一、狩野巖、山本千一、山田庄司、榎本佐市、吉田益三、池田弘、小山田劍爾、瀨田素治、岩田辰之助、佐藤猛虎、藤田三郎、仙波兵庫の諸氏

起つて信念、決意、希望、吟詩その他各自の赤誠を吐露し午後七時三十分和氣瀧々裡に散會した

二十四日 關東本部事務所を東京市麹町區永田町八十六番地に移轉した。

役員決定す

三十日 東京本部にては内田總裁以下幹部出席、關東本部役員を詮衡決定した。

關西本部においても吉田益三常任委員長以下幹部參集して、關西本部役員の決定をなした。

顧問 頭 山 滿
總裁 内 田 良 平

總本部役員

關東、關西南本部の常任委員を基礎とし設け中

關東本部役員

一、常任委員長 葛 生 能 久

常任委員 池田弘、池谷源一、林逸郎、知野秀次、小幡虎太郎、小山田劍南、尾形榮造、奥戸足白、八幡博堂、松田禎輔

香波信、佐々木保次郎、齋地警夫、坂井六輔、眞藤義丸、隈谷慶一郎、鈴木善一

二、理 學 池田弘、八幡博堂、齋地警夫、坂井六輔、鈴木善一

三、書記局 鈴木善一、片岡駿、奥戸足白、川崎清司、千葉直太郎

四、會計 知野秀次

五、委員 (氏名略) 關東本部は總本部内に在り

東京市麹町區永田町二ノ八六、石川、富山、長野、靜岡以東の各縣及び北海道樺太地方の事務を管掌する。

關西本部役員

一、常任委員長 吉 田 益 三

常任委員 立花良介、岸本重任、小田末造、別城道一、三木重次郎、和田彌一、宇田貫一郎、堂前孫三郎、岩瀬幸三郎、岡甫、瀬戸保太郎

二、總務部 (兼會計) 大曲三郎、飯塚豊一、徳田宗一郎

三、書記局 飯塚豊一、田川健吾、上野虎雄外略

四、各専門部あるも役員省略す

關西本部は大阪市東區北濱、北濱ビルにあり、福井、岐阜、愛知以西の各縣及び朝鮮、台灣、滿洲等の組織事務の管掌任す。

十二月

十三日 内田總裁は滿洲事變の勃發を契機とす。滿蒙獨立國建設問題は全世界の耳目を聳動せしめつつある重大問題であり、滿家の天地は日本にとつて國防上、經濟上、生命線であり、東洋平和保全のためにも必要なりとして「滿蒙の獨立と世界正

字會の活動」と題する冊行本を上梓東京先進社より発行した。

十六日 國學院大學辯論部では奥内に組織されたる全國大日本主義同盟の援の下に國學院大學十講堂において午後一時より「内外時局批判日本主義講演會」を開催し講師として内田綱裁外八幡、鈴木理博が出席講演大なる感銘を與へた。

ナチス提携を申入る

二十日 ヒトラーを盟主として結成されたドイツ國民社會黨員ドン・ガド氏は黨本部を訪れて兩黨提携を懇望するところが更には内田綱裁に會見の申込みがあつたので同夜東京赤坂新町總裁邸において津久井龍雄、八幡、鈴木理博等も出席の上、ドイツ國民社會黨及び大日本主義黨の事情につき隔意なき意見の交換、懇談を行つた。

勞農大衆黨と衝突す

二十三日 午後一時栃木縣支部生産黨員五名は勞農大衆黨宇都宮市會議員・貫大入方を訪れ反戦スローガンの撤回要求をなしたところ居合せたる五名の暴力團はいきなり、かねて用意の竹槍、木刀等を以つて暴行行爲に出で火鉢や沸る熱湯を浴せかけるなど凶暴狼藉、かくと聞きつけたる生産黨應援隊は急行、大貫等と猛格闘を演じ徹底的破壊魔をなした、急報により宇都宮署員約百名は兩派の總檢束を行ひ更に兩派の對抗を憂ひ非常警備をなした。黨本部にてはその實情調査と善後策に鈴木常務理事を特派した。

昭和七年

〔皇紀二千五百九十二年〕

維新への過程は狭き道であり、苦難の道である。昭和六、七年の交は維新陣營にとりて文字通り血と牢獄の試練の年であつた。

滿洲事變を目指して世界維新の契機なりと斷定し、その積極的支持をなしたのは軍と維新陣營のみではなかつたか、政黨は自己の功利的觀點から左翼はマルクスの戰爭觀から滿洲事變の眞義を大呼して否定し續けた。この様な反國體的亡國的狀態は遂に昭和七年一月に至つて、皇國史に拂拭し得ない一大汚點を刻印した。想起するに、いまわしい櫻田門大逆事件は昭和聖代に生を享けた全國民が負荷すべき重大責任である。試練はそれのみに止まらなかつた。櫻田門事件の翌日には本黨史上特記すべき未睡の狂亂阿久津村事件が発生した。更に一月には血闘關東事件が生起し、それと一聯の脈絡を持つ五・一五事件もまたこの年の出來事であつた。今此等の諸事件を通じて當時の客觀情勢を思考するに、それは明治維新以來西洋文化によつて歪曲された皇國日本の正常化の時代であつた。維新の再燃期であつた。皇國の危機を防衛する神氣の躍動期であつた。記憶を跡付けて筆を執るには餘りにも切迫する生々しい史實である。怒と涙をこめて本黨創業期を回顧して行かう。

阿久津村事件 【勞農大衆黨と衝突し殉黨者を出す】

即ちこの事件は種々歪められて流傳されてゐるがその眞相は滿洲事變は帝國主義戰爭だと斷じて反戰運動を起した勞農大衆黨に對して、本黨が日本主義的立場から其非國家的思想に反省を促したる事が其因をなし、其對立感情が、たまたま生起した阿久津村農村問題を巡つて激化し、遂に昭和七年一月九日早朝に至つて身に寸鐵を帯びざる非武装の本黨二十數名に對して、靈銃、拳銃、日本刀、眞槍、竹槍等によつて武装したる勞農大衆黨員、百數十名の集團的襲撃が決行され、鬼首に等しき殺戮によつて本黨側は即死四名、重傷者十數名の尊き犠牲者を出すに至つたのである。本事件は本黨史上特筆すべき事件である。

栃木縣爭鬪顛末書（要旨） 本月九日早曉本黨栃木縣支部より同縣下阿久津村において支部黨員が

全國勞農大衆黨員の襲撃を受け多數の死傷者を出したる旨の急報に接したるにより、本部にては即時幹部會を開き幹部八幡博、齋藤警夫、坂井六輔、鈴木善一、池谷源一、四氏關西本部からは徳田宗一郎、久野一雄、小倉某氏を急派し、現場調査と緊急處置とに當らしめたるが、その顛末報告次の如し

衝突の原因は思想上の絶對反對と大衆黨の兇暴振りに對する本黨の糾弾、戰爭反對を稱ふる彼を糾明せる點、本黨の黨勢擴張運動阻止に關して陳謝狀を提出せしめたこと等が端緒として遂に阿久津村小作爭議事件を契機として爆發せるものなり。

阿久津村における小作爭議は從來多年に亘り繰返されるところにして、野澤氏外五名の小地主（小作取り二百四十俵）一戸、他は二百俵、百俵、六十俵、四十俵）と農民組合との係争にあり、その争點は元來同地方における田地一反歩の小作料は米四斗俵、五俵乃至六斗俵（石乃至一石四斗）の收穫を基準とし、それを地主小作人の折半（一石乃至一石二斗）

とする責備なりしが全無、大衆に使喚せらるゝ組合小作人等は昨秋阿久津村内なる石末小作人組合より野澤氏外五名の地主に對し従来の小作料の二割減、一割貸與(貸與といふも實質的には四割減の意味)を要求し野澤氏外五名の地主側にて協議の上回答の旨を約したるにその條前記大屋政夫が來り、改めて五割減の要求を促したれば、地主側にてはこれに關し一切の交渉を野澤氏に一任したるが野澤氏は最初より自己試作の経験より一昨年及び昨年度の減收一割乃至二割なるに鑑み二割減は無理なる主張にあらず、殊に生計困難にある小作人自身の事情より出でたる相談ならんには四割五割の減額はやむを得ずとする所なるも、唯共產主義破壊主義を信條としてこれが實現を期せんとしつゝある大衆黨の脅嚇的非法なる強要五割に對しては自分一人となるも断じてこれに聽従せざるの決心を爲しつゝありしに、大屋は重ねて極端なる脅迫文句の下に入割の(二)石收穫のものは地主二斗小作一石八斗)を主張し一月四日内容證明郵便を以て野澤氏方に送附し來りたれば野澤氏始め地主側にては其不法に呆れ居たるに、大日に至り大屋は一人の兒分を伴ひ來り最後の談判のため脅迫中を本黨支部員の爲めに引致し去られたるものとす。

阿久津村争議に關し特に留意すべきは同村大地主瀧久吉と大屋政夫等大衆黨幹部との惡關係にあり瀧久吉は多額納税者にして現在小作米約千俵を有し、縣下有數の大地主なるが彼は最近の成金に保り専ら高利貸を專とし惡業を以て遠く縣内外に非難され、從來多數の小作人に對しても出鱈目の断引を以て小作料のせり上げを圖り、その他代表的強欲非道なる惡地主を殺陣しつゝあり、本黨員との對立は愈々深刻化せり。

九日午前五時半頃(人の間隔ろげに見ゆる頃)警備中の本黨支部員杉田清作氏は野澤氏宅附近の途上において農婦と邂逅したるが、相距ること數十間に及びたる頃、農婦は手を舉げあはたしく繩様の物を打ち振ふよと見る間に、北方及び西方の兩山影より突然一發銃聲起り飛彈は身邊をかすめ去りたるため、杉田氏は其の不意に驚き直ちに身を胸め疾走して急を以所に報したり、一方倉庫の警戒より野澤氏宅に集中せる黨員十五名は此の銃聲を聴くと同時に出て前方を見れば兇徒は約數百の大群を爲し抜刀隊を先頭に、續て銃隊、眞鍮、刀、竹槍隊を従へ、隊伍を組み先頭指揮者の號令の下に威嚇をあげながら發砲しつゝ押寄せて來りたれば、本黨支部員等はまづ野澤氏宅の危險を避くるため、敵を門外に導くの方を取り、門前を離れて南方の田圃に進み、兩者は直に合して重圍に入り奮迅の勢ひを以て奮戦力むる所ありたるも、支部員等は前述の如く僅に四尺の杉棒を手にするに過ぎざること故、其の接戦に於て銃強刀槍に對する者前後六七名に及びたるが、此時倉庫警戒の交替として中所より來りたる十名の黨員は途中銃聲を聞き準備の急を知つて飛ぶが如く馳せ附け味方を動かし、途には路上の石塊を抛ちつゝ敵に當りしが、精銳なる武器の前にはこれ亦如何ともする能はず、死傷相次ぎ戦闘に堪ゆる者僅かに三分の一を殘すに過ぎざりしかば、最早これ迄なりと兇徒と睥み合ひの姿勢を取りつゝ一齊に呼聲を吹きたるに、兇徒はこれに驚き一時に四五間を退却したるが、折しも支部事務員野口航洋氏等十名の一隊は後輪せに駆け付けながら「東京から四人許り應援が來たぞ——今、奴等を殺しにするから一步も退いては可かぬぞ——」と大音聲に叫び味方を激勵したるに兇徒は俄に退却を開始したりしかば、支部員等は其間に、一部は圍ひ、一部は死傷の同志を負ひ或は扶けて約十町の田圃を

越へ、天神坂下なる假屯所に運び出し、同村の醫師縣議員菅又藤氏を招き應急手當を施したる上、通り懸りの自動車(ト
ラック)に託してこれを宇都宮に送りたり。

この衝突中における黨員の猛烈勇敢なる奮闘に至りては實に特筆すべきものあり。その或は敵群中に躍り込み忽ち敵弾に
撃たれ、怯む所を頻より冒袋に達する約一尺の縦刀削を受け即死し(相馬留吉氏)或は銃撃を受けながら棍棒を以て真剣と
渡り合ひ、敵の眉間を打ち刺り敵の落したる日本刀を奪はんとせる際敵各に圍まれ、その亂槍に斃れたるあり(嶺岸善九郎
氏)或は死すとも警備の任を棄てずと突撃して銃弾と刀槍とに斃れたるあり(木戸辨吉氏)或は全身に五ヶ所の銃削を被り
て屈せず尙奮闘を續けたるあり(金田森重氏)全員決死の覺悟を以てこの絶對不利なる状態の下に大敵と對戦し敢然一步も
退かず總員四十一名(内十六名は連れて屯營より駆付けたる者)中三人の即死者と十四人の重傷者(内一人は入院後間もな
く死亡)を出しなから遂に退却せしめ、然もその残存者等が相扶けて時を移さず死傷者を收容し得たる勇猛沈着は實に驚嘆
に堪えざるものあり。而して兇徒の行動に至りてはその兇暴且つ卑怯なること既に言を俟たざる所なるも、本黨側の死者と
重傷者との状態を見るに、先づ銃弾を以て打ち倒したる上に銃、劍、刀、槍、棍棒、鈍等を以て亂刺亂斬を加へたるもの
にして、死者重傷者は全身胸の如く斬りさいなまれ、その醜態は醫師も尙正視に堪へざるものあり。現場田面の如きは流血所
々にたまり附近に遺棄せられたる竹槍の如きは全幹鮮血に塗れてその穂先は竿帯の如き狀を呈する等、その残忍なること實
に滿洲馬賊の兇暴を忍ばしむるに足るものありたり。

この衝突において死傷したる者死者四名(内一名入院後死亡)重傷者十名(外一名數日後退院)にしてその宇都宮に送ら
るゝや、直に縣立病院に死者三名、重傷者三名他は悉く神野病院に收容したるが、その氏名左の如し。

(イ) 死亡者

一、即死 渡邊靜一(當三十九歳) 現住所 栃木縣河内郡城山村下駒生、原籍 茨城縣猿島郡五雷
村、職業 石材店従業員監督、遺族 夫人、母(茨城)

九日事件直前城山村へ歸る可く巾着を出發せんとしたるに、偶々白轉車に故障あるを發見し修理中車變起り應援にかけ付
け勇戦の結果斃る。

二、即死 相馬留吉(當二十四歳) 現住所 宇都宮市大宮町二二六〇、原籍 同、職業 書店を員、遺族 父君、令兄、令姉
郷思ひの同氏は、七日支那の勳員を受け、父君と話合ひながらお供へ餅を食へ、何處で死ぬのも同じなりと、元氣よく八
日阿久津に赴かれたる柔道は一段の猛者。惜しき青年同志。

三、即死 嶺岸善九郎(當五十二歳) 現住所 栃木縣河内郡城山村、原籍 宮城縣、職業 元公友會城山書記長、遺族 母
堂(宮城縣)

同氏は陸軍少尉、日露戦役に金鵄勳章の拜受者。五、六年前より城山に來り公友會を創立したるが舊曆二十一日生靈黨に
入黨したる勇敢なる同志。

四、入院後縣立病院にて死亡、木戸辨吉(當六十五歳) 現住所 宇都宮市歌の橋九、原籍 山梨縣甲府市、職業 藥行商、

遺族 夫人、女兒

老いたりとも、前衛隊の幹部として農業食糧の整備責任者たりしに、黨のために何時でも死ぬと口癖の如く洩らし居たる熱血の老闘士。

(口) 重傷入院者

重傷入院者(加藤長次郎、小山兼吉兩氏は特に重傷)今二郎(宇都宮)、別府勝垣(桐生)

加藤長次郎(宇都宮) 金田盛重(委川村) 長岡菊造(宇都宮) 宇智神由次(城山村) 前田勇夫(宇都宮) 小山兼吉(桐生) 小林石松(城山村) 伊藤西吉(桐生)

(ハ) 参加黨員

(△印死亡、○印重傷)

現場に居合せたる黨員は左の如し

一、衝突の時最初より奮闘したる黨員

△木戸謙吉、△磯原善九郎、宮腰一男、小池金四郎、早山清、△相馬留吉、植田正男、渡邊武次、○金田盛重、岡田吉真、○宇智神由次、杉田清作、○長岡菊造、阿部九一、○小林石松

二、未明交番に赴きたる黨員

伊藤留吉、唐澤一男、西村二郎、大野龍吉、○前田勇夫、木山常吉、佐藤徳次郎、○加藤長次郎、入江重二郎、大室員三、中野より現場へ急行せる黨員野口航洋、渡邊元二郎、高橋信吉、○小山兼吉、△渡邊静一、風間三郎、佐藤巳之吉、高倉

徳太郎、古田武雄、○別府勝垣、豊原増一郎、渡邊善吉、○佐藤西吉、和田文雄、柳省、木村喜一

兇徒の來襲に先立ち黨員等にして直に野澤氏の屋敷内に據らんか其周圍には防壁に供すべき鐵磚物壁内には刀劍或は短銃等武器の相対抵抗するに足るものありたるべしと雖も、黨員等がこれを避けて争闘し其の最も不利とする平坦なる田圃に誘ひ出したるは蓋し兇徒等がよもや實強を以て射撃すべしと迄は思ひ到らざりしと同時に、主として野澤氏宅に被害を與へんとしたるによるものなりとす、これに關し野澤氏は暗涙を吞んで曰く、「黨員諸君が暴徒の自分宅を目標したるに對しこれを他方に誘ひ出されたる心懸けは、自分宅に取り幸に福難を免れたるは黨員諸君の奥床しき心懸けの賜で感激の次第なるも諸君において彼が如き大不幸を受けらるゝに至りたるは衷心御氣の毒の至りに堪へず」と、亦以てこの混雜突撃の場合において黨員等が如何に周到なる用意の下に活動しをりしかを知るに足るべし

兇徒側が使用したる武器にして當局より押收せられたるものを詳聞するに大凡左の如し

拳銃(七、八挺) 青年訓練用劍付銃(二、三挺) 獵銃(二千四、五挺) 竹槍(百六十本) 日本刀(五、六十本) 眞鍮(五、六本) 短刀、灰の目潰し(封筒に入れ或は卵に入れたるもの) 棍棒、自轉車チエン、電球、鉈、鋏、鎌

該兇行は大衆黨の純然たる計畫的暴動にして神人俱に許さざる事件なり事件勃發するや本黨栃木縣支部では萬全の対策を講じ翌十日聲明書を発表し、その態度を明かにしたり。

共匪暴虐事件に關する聲明書

光輝ある我國體の破綻に狂奔し長くも我皇室に對し毒り計劃的不敬行

爲を爲す共産黨、全協およびその亜流たる全國勞農大衆黨に對しては一日もその生生活動を許す可きに非ず、國家と國民の名において不逞資本家階級と共に斷乎として掃蕩すべきものなることは論を俟たぬ。難波大助は元より、今亦大逆不道の行動に出でし李奉昌と雖も、悉くこの憎みても餘り有る非國民的共匪の一部である、然るに最近合法政黨の影に隠れて共産主義思想の大衆への浸透を謀畫しつゝある全國勞農大衆黨は共産黨日本支部の類屬的煽動に狂憤し大衆黨こそ正統共産黨なりと誇負するに努め、ボルシエウイキの暴力革命を以て我國體の變革を企圖し、鐵砲、拳銃、日本刀、竹槍其他の兇器を蒐集して、常に無辜の農民労働者を威嚇脅威し頻々たる彼等の毒牙に泣く無辜良なる國民大衆は全國的に幾何なるかを知らざる有様であること各地における共産主義者の暴動の件、反職場動、争議暴動化等々大類を見よ、斯くの如き國民大衆の實生活とは全く懸け離れた狂暴不逞の赤色テロこそ我日本社會運動の正當なる發展を阻害し日本國家と國民とを赤露の奴隷たらしめんとする賣國行動に外ならぬ、この憎むべき共匪大衆黨執行委員長藤生久の最大無一の根據地たる栃木縣においてもまたこの例に洩れず、彼等不逞なる幹部黨員の良民に對する脅迫擄奪、放火、暴行は數ふるに暇なく、國體主義に立脚して皇室を絶對に尊崇し奉り、全國民を正國の資本主義の桎梏より解放せんとす我大日本生産黨の運動に對しても狂暴なる彼等は數年前より惡辣なる暴力を以て對立妨害し來つたが、我黨はこれに對し今日まで能く限りの隱忍を持し來つたものである、然るに舊黨我黨が演説會場として借り受けたる宇都宮市外横川村の家屋所有者に對して家屋の破壊と放火を以て契約の取消を迫り、或は拳銃を突き付けて生産黨佃地主を脅喝し、我黨員よりこれを押收され陳謝狀を提出したる等の事件は一

二に止まらない。然るに彼等は黨内極左共産分子の秘密指令を受け、本春早々宇都宮市外阿久津村において小作料八割値下運動を動機として暴動に入る計畫をなし鐵砲拳銃各數十挺、日本刀、竹槍、その他の兇器を準備し、無賴の暴力團を全縣下より動員して威嚇的示威運動を行つてゐたのであるが、我生産黨においてはこの恐る可き共産分子（全縣系）の妄動を探知し、小作人を彼等共匪の暴動意圖の犠牲より免れしめ、正當なる争議の解決を目的として、地主小作人間に奔走中であつたしかして我黨は八日阿久津村において演説會を開催したが、翌九日午前三時半、遂に共匪大衆黨員數百名は、突如小作米倉庫および村内警備に任じつゝありし生産黨員三十名に向つて鐵砲と拳銃の一齊射撃を以て來襲した、この赤色テロの狂襲のため何等武裝を持たざる生産黨員三名即死し後一名死亡、十三名は危篤の重傷を蒙り、多數の重傷者を出すに至つたのであるが、然も彼等は銃丸に斃れたる我同志に對し日本刀を以て滅多切りを行ひ、或は突き刺し或は肉を削ぐ等、その慘忍性に至つては支那の兵匪も猶ほ及ばざる有様である。

我黨栃木縣支部は、まづ斯くの如き國家の賊國民の類たる共産主義合法黨たる全國勞農大衆黨を、祖國愛に燃ゆる我縣民大衆と共に本縣より徹底的に掃滅し、更に全國同志の血盟を以て、我國に彼等共匪の影を止めざるに至るまで死を賭して戦ふものなることを固く誓ふものである。右聲明す

昭和七年一月十日

大日本生産黨栃木縣支部

九日午前急報に接し、内田總裁郎において開かれたる緊急幹部會により、死傷者慰問と此件の状況調査の爲派遣に決定したる池谷、坂井、八幡、齋地、鈴木、奥戸其他合せて九名の一行關西本部特派の徳田、小倉、久野らは午後一時二十分上野駅の列車にて直に垣根阿久津村に急行實情を審さに調べ一部を歸京せしめ内田總裁に報告させたり。

齋地、坂井、池谷、片岡四氏歸京するや、直に内田總裁郎に到りこれを報告する所あり、左の決定を爲したり。

- 一、總裁代理を派遣し死傷者及支部その他に對し慰問慰勞を述べ且つ用慰料及び見舞金を贈ること
- 二、死者は殉黨者として栃木縣支部黨葬によりその葬を用すこと

十一日池田理事より右の決議に基き總裁代理として坂井理事外一人共に宇都宮に赴き佐藤支部長を伴ひて遺族の自宅並に神野病院及縣立病院を訪ひ、遺族及負傷者に對し各々内田總裁の旨を傳へて輿ろに用慰及び見舞金を贈り又善後處置に付縣知事及び警察部長等を訪ひ、重ねて懇談する所あり、轉じて阿久津村に至り同村民及び消防組長、青年團長、在郷軍人分會長、管刀醫師等を麻訪して厚く感謝の意を表したり。

翌十二日同地の形勢を見るに大衆黨は頗々檢舉されつゝあり、永久的方針の下に關谷郡支部聯合會及び阿久津村分會を設立し警備隊は引揚げたり。

宇都宮に残留したる鈴木、奥戸、白井、千葉四氏は翌十三日職務として負傷者の治療が過を各主任醫を訪問調査し、終つて白井、千葉兩氏は關京へ鈴木、奥戸兩氏は總裁代理として佐藤支部長、城山村幹部杉山氏等と共に城山村の殉黨者海邊一

氏の遺族を訪ひ、總裁よりの用慰金を手交し種々慰問懇談して引揚げたが、黨本部にては二月二十六日午後二時宇都宮支部司祭の下に殉黨者の黨葬を宇都宮公會堂において神式により執行することに決定したり。

昨年七月労働大衆黨の成立するや同黨は赤色共産黨の指導精神を信條としたる無産各派の合流に出でたるものにして其の目的は帝國の國體並に現在の組織制度を根本的に破壊するにあり。即ちその即立に先だち綱領において資本主義制度の根本的改革（現制度の根本的破壊を意味す）及び「スローガン」において一切の帝國主義的軍備撤廢帝國主義戰爭絶對反對、樞密院貴族院の廢止、軍政、戒嚴令及び緊急勅令の廢止、帷幄下奏權の廢止、參謀本部海軍軍令部の廢止、憲兵制度、軍法會議の廢止その他各種の項目を決定したるが、當局の削除命令と本黨同志等の當局糾纏とにより同黨にては表面これが改竄若くは上議を見合するに至りたるも、また以てその根本精神の奈邊にあるかを知らべく、更にその近因に至りては

- 一、労働大衆黨の戦争反對標榜を撤回せしめんとしたる編纂二十四日の宇都宮における本黨支部員との喧嘩事件。
- 二、本黨支部の黨勢擴張運動が縣下各地方に進展し労働大衆黨の陣營に脅威を與へたる事。
- 三、阿久津村小作争議に關し本黨支部員が大屋政夫を連行謝罪せしめたと同時に労働大衆黨がその生命とする争議の實體を破壊せられんとするの恐怖を抱きたる事等にあり。

本事件は目下當局において専ら兇徒の檢舉と善後の處置に關し極力從事中にあり、本黨は暫くこれが監視の方針に出つべしと雖も、いさししくもこの兇惡なる側面の赤嵐に對しては、國家の大局に顧みらるも今回の事件を機會とし、斷乎たる決意を

以つて徹底的にこれが一掃を望むと同時に、栃木縣支部に對しては飽く迄不屈不撓の精神を發揮して公明正義の利刃を揮ひ盡つて其の目的を貫徹し、以て諸士殉黨の英靈を慰めんことを冀ひ、併せて我黨の前途益々重大なるに鑑み全黨員の發奮を望む所なり。

以上が阿久津村事件回顧末書による事件の真相であるが、當時の勞農大衆黨の真相が今日から回顧しても、如何に反國體的であつたかが分るであらう。

本黨ではさらに殉黨四烈士の黨葬を一月二十六日午後一時より宇都宮縣公會堂において莊嚴に執行した。この日本部よりは沈痛な決意を認められた内田總裁以下、萬生、林、松田、大崎、小山田氏その他の長老、幹部黨員をはじめ、關西本部徳田、久野外敷名、九州、長野その他の各縣支部、代表約百五十名出席、出席支部幹部及青年黒シャツ隊の整然たる出迎へを受け、相合して黨旗十數旗を押し立て、驛前から公會堂への幹道を徒步行進をなした。市民は沿道に歡喜して一行の入宮を迎へ、生産黨の旗は完全に縣民大衆の憧憬の對象となつた。

遺族席には木戸未亡人、渡邊未亡人が白無垢姿で愁然と控へ、相馬氏嚴父、令姉、嶺岸氏親族その他多數着席、重傷を受け入院治療中の同志も全部御帶姿で列席、支部書記局渡邊春治、野口航洋氏及び鈴木善一氏を進行係主任として、十名の神官司祭の下に式は嚴肅に始まつた。

葬儀委員長佐藤猛吼氏式辭のち内田總裁は墓前に近づき、莊嚴な口調で殉黨は殉國である、諸氏の英魂に對しては後日必

ず酬ひ奉る決心であると約四十分にわたり赤誠を披瀝され満場寂として聲なき有様であつた。それより宇都宮支部關係者の用辭、各府縣代表者の用辭あり、用辭用電の披露終つて遺族立つて靈前に玉串を奉奠したが、實に涙なしでは見られない状態であつた。次いで總裁玉串を奉奠され、祭主、参列員代表の奉奠の後奏樂裡に撒餞、送魂詞の終ると共に意義深き黨葬は終つた當日は頭山顧問、内田總裁、渡邊明氏其他より御神、花輪を多數敬供され、向頭山顧問、佐塚敬宏、山根恭一、田島金一、小山貞助、加藤萬次郎、熊部てふ、高橋孝義、中村直彦、前島通博氏等本部關係諸氏及び支部關係諸氏並に阿久津村在郷軍人分會、阿久津村消防組、阿久津村役場地主會、阿久津村青年團、洛北青年同盟、全國大日本主義同盟、京都神洲報國會、野澤茂堯氏等より多大の香料を頂き葬儀委員長初め支部黨員、遺族は感泣した。

なほ阿久津村の野澤茂堯氏一家では殉難死現場に忠魂碑と神社を奉設し、之等勇士を永遠に祭ることに決定した。

急進愛國黨の本黨入り

全日本愛國者共同闘争協議會を通じて果敢に闘争しつゝあつた急進愛國黨、急進愛國労働者總聯盟の代表者にして日本社主義研究所の代表たる津久井龍雄氏及び氏と死生を共にして奮闘しつゝある日協前衛隊長伊地知義一氏は愈々決意を固めて全同志と共に本黨に入黨することに一月十四日の大會において決議し正式に合同を敢行し直ちに本黨南葛支部を結成した。役員は左の通りである。

支部長 津久井龍雄 評議員 尾形榮造 主事 伊地知義一 書記 市原壽、荒井男三郎、高岡守太郎、松下正雄
委員 岸幸藏、成川三郎、栗田善三郎、青木重平、岸留八、村岡芳太郎、石川吉明、宮澤武一

二月

六六

この日は日本主義運動史上特異すべき月である。即ちいはゆる血盟團一統の先驅的實踐として先づ小沼正君による井上準之助の射殺、若沼五郎君により國琢磨の射殺が敢行された。この事件は萬能の根元たる政黨、財閥、特權階級の腐蝕を掃拂り動かしたものであつて、これより後は、日本の誤れる支配階級（政黨、財閥、特權階級）はその專横も消極的となり、日本主義運動は次第に昂揚するに至つた。かくして血盟團事件は維新への飛躍的契機となつた。

本黨最初の選舉鬭争（衆議院議員）

第六十議會はその民政黨内閣の時、擔當者としての不十分から遂に一月二十一日解散の止むなきに至つた。本黨は次の掲ぐるが如き鐵旨の下に、大阪第三區から吉田益三氏を公認し立候補せしめたが、既成政黨の奸策と選舉民の無自覺は正日本主義者の選舉を阻止し遂に一千四百四十五票を得て落選の止むなきに至つた、而しこの經驗は決して無駄ではなかつた、日本主義運動の將來に多大の示唆を與へた。

左に本黨の選舉對策を掲げる。

選舉根本方針

- 一、本黨は議會萬能主義を絕對的に排撃するも黨勢を擴大強化する好機會として選舉戦に臨む事
- 二、本黨は黨第一主義を以て終始すること。
- 三、本黨より候補者を立て得る地方においては候補者を擁立し極力當選を期すること。
- 四、本黨より候補者を立てざる地方にして黨の主義、綱領、政策に賛成し又はこれに近き候補者有る場合は人物其他の事情を考究の上應援を惜しまざること。
- 五、本黨より立候補又は推薦應援し得る候補者無き地方においては選舉廓清運動を通じて黨勢の擴張を計ること。
- 六、其他の場合においては選舉政策委員會の指令に従つて行動すること。

聲明書

祖國を繞る内憂外患の頂天的逼迫を前に、第六十議會は遂に解散せられ、こゝに我が大日本生産黨は立黨最初の選舉鬭争に臨むこととなつた。我が黨は素より議會主義萬能を本旨とするものではないが、而も國民の政治的關心の激動的に昂揚せる選舉期を通じて、我が黨の精神と主張とを最も大膽に天下に聲明し以て黨勢の擴大強化に努むると共にその自然なる結果として議會に可及的多数の代表を送り込まんことは、もとより我等の深く庶幾するところではなからぬ。

曩に民政黨内閣滔天の積惡によつて潰え、新たに犬養内閣の出現を見たが、その本質の依然たる金融大財閥の走狗たる點において前者と何等の相違あるなし（中略）我等は斯かる國賊的不逞内閣を殲滅せしむるために斯の選舉戦を最も勇敢に闘

争しなければならぬ。

選挙闘争における我等の敵はひとり政民兩黨にのみ止まらぬ。公然合法共産主義を呼號し、對支敗北主義を強調する全國
等農大衆黨あり、社會民主主義の本質を日和見的國家主義の擬裝を以て扮飾する社會民衆黨あり(中略)我等は最も無慈悲
なる闘争をこれに向つて敢行し、飽くまでもその粉砕を期せねばならぬ。

觀し來つて政民兩黨既に信す可らず、無産政黨亦た恃むべからず、君國の重きに任じ國民の寄托に背かざるもの、天下た
ゞ單り、我が大日本生産黨あるのみ我等はその使命の重大なるを意識し、慎重計を練り再奮事に膺り、以て國家と我黨とに
とり重大なる意義を含む今次の選挙戦を最も効果的に闘ひ抜かんと欲するものである。

第六十議會解散の日に當り些か我等の所信と決意とを披露し、以て光榮ある初陣に臨むの辭とする。

昭和七年一月二十一日

大日本生産黨本部

政 策

政治 一、國體觀念を欠如せる政治家の根絶 二、金融寡頭專制政治打破 三、金融財閥の寄生虫、政、民兩黨排撃

四、國賊共産黨、全商、亞流共産主義黨(全國勞農大衆黨)、社會民主主義黨(社會民衆黨)擊滅 五、國民共存共榮政治
の建設 六、大日本主義政權に立つ強硬外交展開 七、滿蒙獨立國家建設促進、滿蒙權益の國民化 八、支那の誘導開發

九、侵略的日人勢力の驅逐、新興亞細亞の建設 十、精銳なる國防機關の充實、實國的軍縮、排撃

經濟

一、亡國的資本主義經濟組織の根本的改變 二、生産者立國の國家統制新經濟政策確立 三、我的金融資本
家打倒、金融機關の國家管理 四、産業の國家本家的統制 五、勤勞國民大衆の生活保障 六、労働權の保障、耕作權の確
立、居住權の保障 七、生活必需品に對する消費稅撤廢 八、一切の大衆負擔稅の輕減撤廢 九、生活必需品(瓦斯、水道
電氣等)供給停止反對

社會

一、一國一家主義の徹底 二、一切の階級的利己主義排撃、家族的國民道德高揚 三、不合理なる社會的制度
の撤廢 四、日本の労働組合法の確立 五、一切の労働者に對する失業、疾病、災害保險制度の確立 六、隠れる一切の現
行爭議調停法の根本的改正 七、施設施設の徹底 八、徵兵其他公務奉仕による失業災害並に窮乏家族保障制度の確立
九、教育の機會均等、建國精神に立脚する國民教育の徹底 十、宗教、教育の營利化禁壓 十一、自主的愛國青年團建設
十二、移植民政政策の確立

標語

一、國を蝕む寄生(既成)黨！ 一、無産！國、生産立國！ 一、魯西亞は共産黨、日本は生産黨！ 一、守
れ！祖國、進め！滿蒙！ 一、金融管理を國家の手で！ 一、凶作農村を直ぐ救へ！ 一、寄生(既成)黨、霧散(無産)
黨、狂慘(共産)黨！ 一、眼覺めよ日本、守れよ生産黨 一、破壊は無産黨、建設は生産黨 一、一國一黨生産黨！ 一、

下ル購買財開打ち倒せ！ 一、産業は國民本位に！ 一、蒙經營は國民の手で！

七〇

地方分營報告

▼長野縣 北信地方においては丸山、馬場、中野氏等が中堅となり、長野市を中心とする北信地方支部の結成を目指し猛烈なる準備運動を展開中であり、南信地方においては原貞造、伊藤勇伯郎氏等中心となり存郷軍人會の支持を得てこれ亦支部結成を促進しつつある▼富山 石川縣方面では金森喜與之、大山俊雄、鶴後、佐藤氏等主導となり兩縣に亘つて果敢なる組織戦を展開してゐる▼栃木縣 一月二十七日には真岡町増淵利一氏を中心として芳賀分會の結成を眞盛座において盛大に舉行し、更に三十日には小林憲氏が中心となり藤井村分會を結成した▼東京關東地方 先に支部設會を擧げた南葛支部では二月一日に寺島町第三小學校において支部結成記念演說會を開催し、聴衆千五百名を募集本部より内田總裁以下幹部總出動して多大の成果を擧げた。

三 月

血盟團事件の餘波本黨に及ぶ

井上、團射殺事件後、血迷へる支配階級の日本主義陣營に對する暴壓その際、本黨鈴木重一理事は不法拘禁二十日に及び、更に三月八日府下吾橋町において開催された本黨

葛支部主催の總選挙批判、亡國既成政黨打倒、昭和維新促進の大演說會は百名餘の警官を以て會場を包圍し、次ぎ次ぎに登壇する鮮士全部に中止を喚ばせ、尙且黨員三十有餘名を不法にも拘禁した。黨本部においては常任中央委員會を開き對策を協議し十四日左の如き聲明書を発表すると共に池田、青地、入澤、津久井、白井、奥戸、永富、伊地知、千葉、小野の十氏を訪問委員とし、首相、内相を訪問し嚴重なる抗議をなした

〔聲明書〕

去る三月八日市外吾橋町において行はれたる本黨南葛支部主催の演說會に際し數百の警官は、口紙を以て會場を包圍し、次いで解散後穆かに歸途に就かんとする黨員三十數名を何等の理由なくして不當なる拘束留置を行ひたるは人權蹂躪の甚だしきものといはざるべからず、是れ過激の井上、團兩氏射殺事件に血迷へる政府當局が是等事件を發生せしめたる社會的根據の究明を忘れ、只管強壓政策の強行に言進せるの結果に外ならず。吾人は最近井上事件の發生以來官廳の暴壓に遭遇したること既に一再に止らず、今又我黨に對する不法拘束、暴壓事件に會し、最早や到底黙認し難し。茲に斷然その非違の糾弾に向つて猛進せんとするものである。

昭和七年三月十四日

大日本生産黨本部

三井大財閥の陰謀五大電力統制案を葬れ

本年度に入つて五大電力會社の統制は急速に具體化した。金融大財閥と政府當局の非國民的陰謀の實體を徹底的に調査せる結果、國民負擔の加重によつて金融大財閥を國家が救済せんとする五大電力統制案を絶對的に粉碎することに決定し五大電力統制問題の真相に對する調査資料萬枚を印刷して各方面に配

布し同案の反對運動をまき起した。

運動報告

▼金澤支部の結成進む 石川縣金澤地方においては湯殿入囃理事、千葉常任書記等出張し同志大山、金森、佐藤、奥村、鶴巻の諸氏と支部建設に付奔走中であつたが去る三月十三日内田總裁が金澤市兼六公園において舉行された四宮殿下軍務要職御就任感謝大會に出席せるを機會として急速に進展し總裁を中心し演說會、懇親會を開き市内南町五五大山氏方に石川縣支部結成準備會事務所を設置して將來の活動を期してゐる▼關西地方の組織戰 總選挙後大阪市内各區より入黨申込激増し既に新設支部は三十有餘に及び、先に陸軍労働組合一千二百有餘名の参加を見たがその他の労働團體も参加する状態で大いに組織戰が進展しつつある▼東京府南葛支部の言論戰 三月八日及び二十九日寺島吾嬭兩町に上國政治排撃、昭和維新促進の演說會を開催して多大の感銘を與へた。

四月

地方組織規定成る

従來の運動においては地方組織上、名ばかりの支部を設ける弊

風が行はれた。然しなから大衆を基礎とせざる支部が幾ら發生しても黨組織の強化は絶望である。本黨の支部は一定量の黨員を絕對的條件とせねばならぬ。この意味において本黨では次の如く地方組織規定を決定した。

大日本生産黨地方組織規定 (一)支部、分會、班

第一條 黨員五百名以上を有する地方(市、郡、大都市各區)に支部を設置す。定員に充たざる間は支部組織準備會を設くる事を得。

第二條 支部に左の機關を置く、一大會 二、支部委員會 三、常任委員會 四、幹部會

第三條 支部に左の役員を置く。一、支部長一名 二、理事若干名 三、會計一名 四、書記長一名 書記若干名 五、常任委員若干名 六、委員若干名

第四條 支部役員は支部大會において選任す。

第五條 支部の會合は支部長これを招集す。但し委員三分の二以上の要求ありたる時はこれを招集するを要す。

第六條 各支部の下(市及郡内町村、部落、工場)に分會を置きその定員數を五十名以上とす。定員に充たざる時は分會組織準備會を設くることを得。

第七條 分會に左の機關を置く。

一、總會 一、委員會 三、常任委員會

第八條 分會に左の役員を置く。

一、分會長一名 二、書記長一名、書記若干名、會計一名 三、常任委員若干名 四、委員若干名

第九條 分會の役員は分會の總會において選任す。

第十條 分會の會合は分會長これを招集す。但し分會委員三分の二以上の要求ありたる時はこれを招集するを要す。

第十一條 各分會の下に班を置きその定員を十名以上とす。定員數に満たざる時は班組織準備會を設くることを得。

第十二條 班に左の機關を置く。

一、總會 一、委員會

第十三條 班に左の役員を置く。

一、班長一名 一、書記若干名 三、委員若干名

第十四條 班の役員は班總會において選任す。

第十五條 班の會合は班長これを招集す。但し委員三分の二以上の要求ありたる時はこれを招集するを要す。

第十六條 支部、分會、班を設置する場合に黨員名簿に所定の入會金及黨員一ヶ月分以上を添へ所屬機關（分會、支部、支部聯合會、地方協議會）を経て届出で本部の承認を経るを要す。

第十七條 支部、分會、班は黨費の十分の四を所屬機關を経て本部に納入するを要す。

(二) 支部聯合會 第十八條 二府縣、大都市に於て二箇以上の支部ある時は支部聯合會を組織し所屬支部を統轄す

第十九條 支部聯合會は左の機關を置く。

一、大會 一、委員會 三、常任委員會 四、幹部會

第二十條 支部聯合會に左の役員を置く。

一、常任委員長一名 二、書記長一名 書記若干名 三、理事若干名 會計一名 四、常任委員若干名 五、委員若干名

第二十一條 支部聯合會の役員は支部聯合委員會において選任す。

第二十二條 支部聯合會の會合は常任委員長これを招集す。但し委員三分の二以上の要求ありたる時はこれを招集するを要す。

(三) 地方協議會 第二十三條 同地方に數箇の府縣聯合會ある場合は地方協議會を設くる事を得。

第二十四條 地方協議會は、當該地方選出の中央委員、支部長、支部聯合會常任委員長を以て構成し、所屬支部聯合會を統轄す。

第二十五條 地方協議會に左の機關を置く。

一、大會 一、委員會 三、常任委員會 四、幹部會

第二十六條 地方協議會に左の役員を置く。

一、常任委員長一名 二、書記長一名 書記若干名 三、理事若干名 會計一名 四、常任委員若干名 五、委員若干名

第廿七條 地方協議會の役員は地方協議委員會において選任す。

第廿八條 地方協議會の會合は常任委員長これを招集す。但し委員三分の二以上の要求ありたる時はこれを招集するを要す。

第廿九條 地方協議會、支部聯合會、支部、分會、班の地方組織各機關の規定及役員は本部の承認を経るを要す。

第三十條 地方組織各機關は黨勢擴張の必要上擴張部(組織)統制部、宣傳部、調査部、教育出版部、青年學生部、財政部、婦人部その他の専門部を設けることを得。

運動報告

▼關西本部 四月一日は神戸、同日は京都、同五日は伊丹町で各友誼團體又は有志の主催演說會を援けて内田總裁、吉田委員長、堂前常任其他の關士が出演したが、大阪時事新報社の不穩記事に關し屋井、山本、藤井諸氏が同社と争鬪中當局の彈壓を蒙つたが、結局同社の宮武某の解雇と和解條件の成立でケリが付いた。又吉田委員長は持前の奮發精神を發揮して、當局の交通取締令のため一ヶ月も失業餓死に瀕しつゝあつた北濱露天商人を當局と斡旋救済し、四月一日より従前通り營業し得る様奔走したので、勤勞階級感謝的のとなつてゐる▼京都地方 四月二日京都青年會館において、神州報國會主催大日本生産黨關西本部後援を以て「國難打開演說會」を開催、内田總裁、吉田常任委員長、堂前常任委員長、外敷氏出演盛會を極めたが、翌三日京都支部結成準備會を開催、内田總裁、吉田常任委員長、堂前、草野兩常任、西村委員外五十四名出席、内田總裁より黨の全般的狀勢に就て、吉田氏より黨の組織狀態に就て各説明あり京都支部設置の協議に入り先づ支部結成準備會を設けることに決定し、準備委員長を西村力氏(現京都市議)委員に生谷市議横江商工會議員、柴山

醫師、柴田、小林氏等を推薦可決したである▼栃木地方 四月十七日は阿久津事件で共賊勢大黨員のため慘殺された木戸辨吉、渡邊靜一、嶺岸善九郎、相馬留吉四氏の百ヶ日に相當するので宇都宮市出雲神社において百日祭を執行した、尙賣國的反響運動に憤激して大衆黨市議里澤、大貫等を脅慍した高橋、杉山、古田、風間、眞家、大野、小池、山井、富樫氏等は豫審終了後釋で出所した▼横濱地方 横濱市を中心とし、自治革新黨を組織して活動し來つた鶴島三郎氏、兒玉兼吉氏、清水留吉氏等は同志十數名と共に生産黨本部に來訪、内田總裁、入幡、津久井、鈴木理事等と會見したが、解黨して生産黨へ合流を決行することとなり、來る五月初旬盛大な支部發會式を行ふ豫定で猛準備中である。

五月

五・一五事件起る

血盟團事件によつて進發した昭和維新の行動は五月十五日に至つて、より廣汎な組織的な武装蜂起が生起した、所謂五・一五事件である。その目標とするところは昭和御維新を祈念しての搶石的行動であつた。本黨では緊急幹部會を開き左の如き聲明書を出して當局と社會に反省と對策を求めた。

聲明書

大養總理の殺害、帝都の爆彈騒ぎが白晝而かも軍人の手によりて、陛下の内閣の首班として、天下の大

政を擁護する總理大臣を殺すと云ふは、未曾有の重大事件といふべく、陛下に對し奉り誠に恐懼にたへぬ次第である。大臣が公然と殺された前例を強いて求むれば遠く蘇我の入鹿か、王座の下に殺されたことある以外には今回の如き性質の暗殺は決して史上に見出す事が出来ないものである。何故にかゝる大變を生ずるに至つたか、その原因を尋ねれば、民衆が國家を害した公憤の激成に外ならない。

斯の如き重大事が發生した以上、最早議論の餘地はない。速かにこの前後を讀らぬ處置を執らなければならぬ。其の處置として政、民兩黨の議員は一切の政治的責任を負ひ政界より引返し新内閣は全然政黨員以外のものより組織せしむることとして天下の憤りを休めるより外に道はないのである。政、民兩黨が從來取りきたつた如く種々なる理屈を列べ依然政黨内閣を維持する様なこととなれば國民の憤激は益々昂まる許りで收拾すべからざることになるであらう。

今回變の善後策としては以外道はない。此の變を單に帝國軍人の憤りと思ふことは大間違ひであつて國民全體の憤激の現はれであること考へなければならぬ此の事變に對して政黨者は引責することが最も賢明にして必須なることである。これと同時に國家の老臣達も深く考慮して責はなければ救ふ可からざる破壞が現はれるであらうことを衷心に憂ふるものである。敢て天下同憂の士に應ふ。

昭和七年五月十八日

大日本生産黨

運動報告

▼五月一日東京府下寺島町において南葛支部主催で内田總裁、津久井、伊地知兩常任委員の時局批判、

日本主義講演會を開催、演題は「日本主義と滿蒙問題」内田良平先生、「國家社黨主義と日本主義」津久井龍雄氏「愛國労働運動と時局問題」伊地知義一氏で各一時間半にわたり熱辯を振ひ、聽集約五百名に多大の感銘を與へた▼横濱支部の結成
横濱支部の結成は豫ねて自治革新黨幹部鶴島三郎、兒玉兼吉氏等に依つて準備中であつたが愈々その時期到來し去る五月一日午後六時より伊勢佐木町新壽クラブに於て内田總裁を始め本黨及び大日本青年同盟幹部等多數出席の下に興業一千餘名選集非常な盛況裡に支部結成式を終了した▼府縣選に本黨公認を出馬せしむ 五月二十日より六月十日に亘り府縣議員の選舉を行ふが、本黨ではこの府縣選に、東京府より南葛支部主催伊地知義一氏、神奈川縣より横濱支部長鶴島三郎氏を公認することに決定した。その結果は伊地知義一氏（一八三票）鶴島三郎氏（八三三票）で惜しくも落選した▼滿洲國に代表を派遣 中央常任委員津久井龍雄、堂前孫三郎兩氏は内田總裁より滿洲國執政溥儀氏及び本庄關東軍司令官に宛てたる滿洲國建國に對する祝詞及び謝詞を捧呈し勞々諸般の連絡、視察調査を行ふべく五日夜東京驛發渡滿の途に就いた▼演説會、日時 五月二十五日午後七時、場所、東京市本所公會堂、會名、重大時局批判大演説會、主催、大日本生産黨關東本部、辯士、内田總裁、鈴木、奥戸、伊地知、三宮、香渡、池田、八幡の諸幹部、聽衆二千名、關東本部會計監督知野秀次氏を病臥の處、五月二十一日午後三時四十分迄に逝去せられた▼宇都支部の舌戰 五月三日午後六時より宇都呂市縣公會堂において「亡國政治排撃、昭和維新促進大演説會」を開催、本部よりは内田總裁を初め八幡、鈴木、奥戸、伊地知の諸幹部出席辯を振つて盛況裡に終了した。

非常時經濟對策を發表

最近に於ける農村及び都市労働者、中小商工業者

俸給生活者、職人の窮乏を打開すべく本黨に於ては後記の如き緊急對策及び根本方針、當面の整理要項を發表した。

非常時經濟對策

根本方針

一、金融國營を斷行し資金の分配を普遍なわしめ、産業の統制と振興を期すること 二、重要産業は私營を廢すると共に國營主義を排し自治體、各種組合等を中心とする民業的公營組織に改めること

當面の整理要項

一、國債地方債の整理斷行 (イ) 國債、地方債は官營事業並に官有物の拂下げを以て整理の第一着手とすること (ロ) 窮乏國民の負債は強制法を設け極めて短期なる支拂猶豫期間を限定しその期間内において債權額の切下げ、金利の引下げ等をなし年賦償還によつてこれを整理すること 二、事業界の整理斷行 (イ) 事業界の負債は強制法を設け整理を徹底に行はしむる事 (ロ) 事業界の負債は固定資本の値下りより生じたるものなれば減資に依つて整理をなさしむること (ハ) 減資するも尙不足すべき負債は債權額の切下げ利拂ひの停止、切捨て等をなし年賦償還法を定めしむること

失業對策

一、國家は各種の公營事業を起さしめ失業者無からしむること 二、國家は一ヶ年五十万人以上の人口を滿蒙に移すべき大農場を建設すること

應急對策

(一) 國家は全都市町村役場をして市町村住民の窮乏に應じ生活必需品たる米糠味噌衣服等の配給及び醫藥の施療を行はしめこれを救濟すること (二) 國家は農村殊に小作農民には生産用必需品即ち肥料及び農耕用品等一切を併せ配給せしむること (三) 國家は以上に必要なる物資を各製造販賣業者より公債を以て買上ぐる (四) 國家は窮民に對し一定期間を定め地方税の免除を行ふこと (五) 國家は家賃、地代、電燈、ガス、水道料金の半減を斷行せしむること (六) 以上の救濟實施期間は窮民生活安定方法確立迄を原則とす。

戰線統一の礎石、國難打開協議會生る

大日本生産黨に於ては、日本國家社會黨、神

武會、勳皇維新同盟の三派と非常時局に際して、共同闘争を敢行することに六月九日の常任中央委員會で黨議をまとめ、即日右三派との會合を開催し「國難打開聯合協議會」を組織したが、井團の第一着手として十四日午後一時から上野公園自治會館に於て「滿洲新國家即時承認、國民窮乏打開國民大會」を大々的に行ひ、日本社會運動界に特筆すべき共同運動を捲起した。

梅雨に災された當日午前の黒雲は正午より時々晴れ渡り定刻前早くも會場に押寄せた二千の會衆に身動きもならぬ有様で潮員のため場外に溢れる大衆無慮數百名の盛況である。宮澤上野署長の指揮する各異動員になる數百の警官隊は場内外に警戒の網を作つて物々しい。先づ司會者赤松克廣氏(國社黨)熱烈莊重に開會の辭を述べ、次いで議長に金内長嘯氏(神武會)選ばれ副議長に入幡博堂(生産黨)今村等(國社黨)石渡山達(維新同盟)の三氏を選任、書記に千葉直太郎(生産)飯本正義(國社)山本泰久(神武)の三氏を任命、議事に入り、左の宣言を望月源次氏(國社)朗讀、決議を津久井龍雄氏(生産)朗讀、兩者共演場熱裡に可決し、左の決議文手交實行委員入幡、鈴木(生産)小池、今村(國社)狩野、宇都宮(神武)三浦、大森(維新)の諸氏は折開會中の衆議院に齋藤首相代理柴田書記官長と會見し、國民大會決議の實現を要望する來意を首相に傳達芳依頼し大會々場に引上げ、實行委員を代表して今村氏報告を行つた

大會議事終了後陶山篤太郎氏を司會者として演説に移り、生産黨内田總裁を始め各派の關士交々立つて熱辯を振ひ、藤岡文六、新田氏等の後をうけて起つた伊地軒義一氏の如きは署長の中止命令に抗議し演説を續けた爲め突如檢束行動に出でた警官隊と司會者側との猛闘を演じた。然もその間に「我等の要求祈願のため二重橋前へ」といふ緊急動議を出した白鳥廣近、望月源次兩氏共に中止となり、こゝに亦又警官隊との衝突起り、會場の空氣はいやが上に殺氣立つたが折柄議會から馳せ付けた鈴木正吾、風見章、小池四郎の三代議士の演説があり、最後に司會者陶山氏の閉會の辭も中止となつたので會衆は總立ちとなり壇上は物凄い鬨闘場となり司會者始め十數名檢束され國社黨の青年關士の如き顔面に裂傷流血を見たが、大衆の執拗果敢なる事暴露しつゝある。

抗議によつて檢束者は釋放され、灼熱した空氣の中に午後三時半盛會裡に「天皇陛下萬歲」を三唱して散會した。

宣 言 今や新米麗に瀕せる資本主義日本は、遂に收拾すべからざる混亂を表面化し來り、之を打開匡救するの

途、一にたゞ新興國民大衆の直接的總躍起に俟つのみとなつた。齋藤内閣は、所謂舉國一致を呼號して我等の前に現はれ來つたが、その本質は舊き支配階級の機會主義的野合に過ぎず、現前の國難日本を打開する上に、何等の抱負と實力を有せざる事を暴露しつゝある。

我等は斯の現狀に痛憤しこゝに新興日本を表象する最も代表的なる諸勢力を糾合して、國難打開聯合協議會を結成し、現在日本における當面焦眉の急務たる新滿洲國の即時承認及び國民窮乏の徹底的打開を旗標とする一大國民運動の展開に向つて敢死的闘争を決行せんとするものである。

本大會は即ちその第一烽火たるもの、これを契機として全國民の一齊奮起となり、以て大河の決するが如く一舉に皇國維新の斷行を實現するに至らんは我等が身命に賭けて所期するところである。

全國民諸君、來つて斯の畫期的國民運動を嵐の如く支援せよ右宣言す。

昭和七年六月十四日

決 議 大は全國民の名において政府に對し左の諸項の即時斷行を要求す

一、滿洲國を即時承認し、日滿兩國の軍事、經濟同盟を締結すべし
 二、國民生活困乏打開のため左の諸政策を實行すべし

(イ) 全國に赤痢する失業者に即時且つ完全に職を與ふるため諸種の事業を起すとともに、滿洲に大農場を建設し、毎年三十五萬の移民を送るべし(ロ) 向一ヶ年間、全國町村をして住民の窮乏に應じ、生活必需品たる食糧、被服、肥料を無償に配給すべし(ハ) 一千圓以下の買價の三ヶ年間支拂給付を認むべし(ニ) 國債、地方債、農村買債、諸事業買債の徹底的整理を斷行すべし
 以上に要する費用は公債を以てし、金利制限、物價統制、爲替管理を行ひ、物品本位貨幣制度による金融國營を斷行し、全産業の國家的統制を期すべし
 右決議す

昭和七年六月十四日

新滿洲國即時承認國民生活困乏打開 國民大會

運動報告

▼演說會の展開 ◇(日時) 六月九日午後六時半(場所)兵庫縣西宮市公會堂(會名)時局批判大演說會(主催)大日本生産黨關西本部(辯士)吉田委員長、堂前、山本、榎本、狩野、小部英、新毛、梶原の諸幹部(聽衆)六百

名◇(日時) 六月十七日午後六時(場所)大阪府藤手村公會堂(會名)時局批判演說會(辯士)吉田委員長、堂前、徳田、山本、梶原、狩野、鹽見(聽衆)三百餘(主催)大日本生産黨關西本部◇(日時) 六月廿日午後六時半(場所)大阪市玉造小學校(會名)時局批判演說會(辯士)吉田委員長、山本、榎本、堂前、小部、新毛、狩野、徳田、住田、小野の諸氏(主催)大日本生産黨關西本部(聽衆)三百餘名◇(日時) 六月廿一日午後七時(場所)大阪市福島岡松寺(會名)大阪借家人協議會生産黨加盟演說會(辯士)吉田委員長、堂前、新毛、河村、山本、榎本氏(聽衆)三百餘名(主催)大阪借家人協議會◇(日時) 六月廿七日午後六時(場所)大阪市西淀川區浦江聖大筋五介百貨店(會名)時局批判演說會(辯士)吉田委員長、久保、梶原、内藤、狩野、小部信、堂前、徳田の諸氏(聽衆)七百名(主催)大日本生産黨關西本部◇(日時) 六月廿三日(場所)東京府寺島小學校(辯士)津久井、伊地知、永富、千葉、影山、市原(主催)東京南島支部◇(主催)長野縣支部聯合會(日時) 六月廿六日夜七時(場所)松本市建國座(辯士)内田總裁、八幡、津久井、鈴木、伊地知、影山、赤羽俊、赤羽權◇(主催)大日本生産黨關西本部(日時) 六月廿八日午後五時(場所)大阪市天王寺公會堂(會名)國難打開演說會(辯士)内田總裁、吉田委員長、内藤、青野、住田、宮城、久保、梶原、松山、村田、小部、澤村、狩野、草野、鹽見、徳田、榎本、小部英、堂前、川口、山本(聽衆)一千五百餘名▼大阪市電都島車庫電車連轉手を以て組織せる交通クラブ本村三郎氏以下全員入黨した▼栃木縣足利地方は日本國民黨時代より杉山、郎氏等によつて固められ來つたが、生産黨へ合流するに及び山内克天氏、梶橋朝雄氏等が杉山氏等と協力、栃木縣支部聯合會佐藤程壽、柳省氏等の應援で六月十九日午

後一時より足利市市春館において結成大會を舉行した。本部よりは内田總裁、津久井、鈴木理事等出席した。大阪府布施第一小學校において中河内郡第一分會發會式を六月十日舉行した。關西本部辯論部が編成された。特別班 吉田、中村、堂前、草野、柿花、成瀬、川口、大西、筑地、立岡、友永、西村、生谷、横江、柴田、柴山、澤村、第一班 山本、狩野、宮城、小部信、新宅、木村、青野、岸和田、内藤、時崎、種ヶ島、安藤、第二班 榎本、梶原、久保、住田、小野、岡市、笹井、村田、小部英、河村、黨員 宮坂哲洲氏は横濱支部長鶴島三郎氏の懸賞戦に應援辯士として派遣せられてゐたが、鶴島三郎氏夫人の元の情夫の情痴に狂ひし界及に仆れた。宮坂哲洲氏は鶴島三郎氏の身代りとして仆れたのであるが、熱と力の闘士を失つた事は全く遺憾であつた。關西本部の青年闘士は顧維鈞入國反對の檄文を大阪全市に撒布して檢束された。本黨結成滿一ヶ年記念國難打開演說會の開催に先立ち黨旗の入魂式を大阪市生國魂神社において舉行した。滿洲國使節招待懇談會を關西本部主催で大阪市中區島公會堂において六月三十日午後八時より開催した。當日の次第は左の如し。

(開演の辭) 榎本佐市氏(歡迎の辭) 吉田益三氏(答辭) 于靜遠氏(通譯) 夏文輝氏(辯士) (日本) 中村雅治氏(滿洲) 小澤開東氏(日本) 土屋寛氏(滿洲) 近藤義晴氏(日本) 堂前孫三郎氏(滿洲) 鯉沼忍氏(日本) 永島義高氏(栃木縣支部の大夏事件(阿久津村事件の一原因)に就き六月八日判決の結果、支部黨員九名は宇都宮地方裁判所中村裁判長より左の如き判決言渡しを受けた。

△德役十ヶ月杉山 一郎△同八月小池 四郎△同大野吉吉 二同渡邊春治△同西家勝 二△同宮澤勝男△同風間三郎△同古田

武勇△同六ヶ月(但し三ヶ年度執行繪像) 高橋信吉△同山井清作。

七、八月

請願戰術で臨時議會に對處す

齋藤内閣は臨時議會を召集して時局匡救案を立て七、八、

九の三ヶ年間にわたり國費負擔五億圓、地方費負擔約一億圓以上合計七億圓以上を支出して土木事業を中心として各省の救済事業を以ふこと、その七年度分は國費一億五千萬圓地方費を合して二億、千五百萬圓を計上してゐるが、かくの如き豫算を以つては到底今日の生活に窮しつゝある國民を救ふに足らない。然も政府はその資本的性質を遺憾なく發揮し、金融資本家救済のための不動産資金化の費用として五億圓(三ヶ年間)を貸出さんとしてゐる。この五億圓融資の損害額は國家が其の損失補償に任ずることになり結局金融資金救済のために國民が血税を搾られることになるのである。かくの如き無能無誠なる政府の政策を以てしては、時局の匡救とはならず、却つて將來に禍根をのこすものである。政府の政策にしてすでにかくの如し然も國民無黨無派黨を通じて現行に即せる打開の具體方策を有しない。今日國民の間に最も痛切に要望されつつあるものは根本的打開方針に立脚する應急政策である。こゝにおいて大日本生産黨においては、非常時局打開に關する方策を決定して廣く天下の批判を求めつつあるが、各要路及び國民の熱烈なる支援あるに鑑み、これを以て一大請願の國民運動を展開すること

となり、各支部に指令を發した。請願運動は國民的運動である。そして公然許された合法的な大衆運動である。

國民がその欲する所、求むる所を掲げて、國民多數の賛成署名を求め、その總意を政府及び議會に向つて披瀝し、これが實現を迫るものである。署名は出来るだけ廣く、多く、軒から軒へ、知友から知友へ、同業者から同業者へ、職場から職場へ、學校から學校へと、あらゆる方法を以てこれを求めなければならない。

請願の要旨は國民全部に共通な生活問題である。故に黨員たると非黨員たると又他黨員たるとを問はずこれに賛成せしめ署名の幾何級數的擴大につとめねばならない。一縣において五十萬の署名を得ることは決して難事ではない。この運動は國民多數の總意を政府者に又一般に知らしむることであり、生活の向上、改善の要望を實現せしむる有力なる大衆的運動形態である。請願の趣旨が、如何に多數國民の署名を以てしても、直に政府に採用されるものとは思はれない。だが、それだからといって決して無駄ではない。結局は時の問題であつて、此切々たる請願の要旨は實現せられざるを得ないのである、それは社會全體が洪水の如く流れる方向である、その決河の時を早め、改革の時期を促進することが大切である。又一面において請願運動は最も効果的な黨勢擴張の手段である。各階級、各職業の人士に共通なる生活打開の具體案を以て署名を求めめるのであるから何人にも遠慮なくこれを勧誘し得るのである、その署名勧誘運動の中に、自ら黨勢擴張の運動が含まれてゐる。

又生産黨の請願事項は、純粹なる日本式改革の方向を明かにしてゐるのである、即ち従來の英米流の資本主義的傾向を否認し、その建設方針においては共産主義的、社會民主主義的傾向を排斥し、日本國家に最も適合せる諸制度を採用すべしと吟味を盡くしてゐる點に特に注意すべきである。更に左の如き聲明書を發表した。

聲明書

外には迫る戰爭の危機と、内には國民大衆の飢餓とを前にして、第六十三議會は將に開會せられんとす。竊際内閣の本質に就ては我等の夙にこれを剔抉せるところ、既成政黨に獨占せらるゝ帝國議會の内容については今更らば要せず、之等兩者の猿多居に過ぎざる今次議會が、國民にとりて何等關心の對象たり得ざるは固より當然である。見よ現内閣の提示せる非常時匡救政策の如何に不誠意不徹底なるかを。準與黨たる既成政黨の内部においてすら鞭を鳴らしてその非を難じつゝある現狀に非ずや。非常時救済豫算全額僅に一億六千萬、而もその使途の大部分は、土木、鐵道等の地方事業振興の美名の下に政民兩黨の黨勢擴張の具に供せらるゝに過ぎず、國民中最も深刻なる生活苦難に喘ぐ貧民、勞働者、中小商工業者の救済に關しては殆ど全く拱手して顧るところがない。我等は現下日本の經濟國難を救ふ途は一に我黨の政策を實行する以外に途なきを信じ、非國民的内閣と議會とを超越して、新興日本建設の國民的大衆に向つて一路邁進せんと欲するものである。

昭和七年八月二十一日

大日本生産黨本部

海員協會の授職規定に反對す

阪神地方に於て海員協會の改正授職規定に對し反對運動を行ひつゝある失業海員代表である堀口、繁浪氏は關東本部に來訪し失業船員協會の苦惱を訴へ、今回改正されんとしつゝある授職規定の中「下船後（失業後）二年半中に達したる者は就業申込資格を失ふものとす」の條項は失業船員の前途を暗くするものであるから是非これが通過阻止に細力願ひ度いとの申入れに對し、本黨より協議の結果池田、八幡、津久井の三理事を代表として選

信局を訪問し談話した。

海の争議を有利に解決す

去る八月二十七日東京汽船株式の所有になる相模丸の繋船により乗組員十五名(内同盟員六名)解雇、更に三十日には解開乗組員十四名中十名(同盟員八名)更に祝丸の繋船は乗組員十七名(同盟員五名)の生活を脅かすに至り、ここに東京海員同盟は漁民大衆の生活擁護のため起つて戦ふべく強硬な聲明書を送ると共に本黨關東本部の白井、伊地知常任が指導者となり即日争議に入り一方本部理事池田弘氏等の奔走により一時緩和を思はせた争議は数日にして會社の好意の態度により解雇者には四ヶ月分相當の手當支給、新造船ある場合は今回の解雇者に就職の優先權を與へる等有利な條件で解決した。因に東京海員同盟の役員は左の通りである。

東京海員同盟役員

(顧問) 頭山南、内田良平、松永材、津久井龍雄、池田弘、八幡博堂、鈴木善一、伊地知義一(評議員) 白井爲雄、宇山丑松、鈴木喜太郎(會長) 欠員(主事) 近馬六二郎(書記長) 大河原一彦(書記) 黒川信太郎、佐野千太郎(會計) 佐野鶴治(常任委員) 網代進助外九名(委員) 近間耕平外十三名

野村中將の米國派遣に反對

最近における日米外交の尖鋭化に鑑み、我黨が此の種の不安状態を除去する爲に軍事參議官海軍中將野村吉三郎氏を米國に派遣し直接米國を務省及び日本海軍省當局と折衝して諒解を求めんとする態度に對して、本黨では目下日本において米國の暴慢無禮なる態度を打たんとする強硬なる國論の沸騰せる今日かくの如き迎台内閣外交は徒らに皇國の國威を失墜し國際間殊に、支那關係に惡影響を與へるものとて八月三十日午前十時池田、鈴木、香

渡、齋地氏等の諸幹部は外務省、海軍省、軍令部を訪問し反對意見を開陳し反省を促した。

運動報告

▼青年運動、總運動の展開 大衆運動と中核運動は有機的關聯性を以て並行して爲されねば、本格的運動は出來ないのである。本黨は常にこの理を知り専らその運動を展開しつゝあるが、最近各幹部の中核運動は熾烈となつた左に掲げるものはその主なるものである。

(青年運動者) 鈴木善一氏の主唱になるもので専ら總運動を主として青年運動を進めてゐる。(勤勞青年塾) 津久井龍雄、伊知地義一氏の發起になるもので講義を主として青年運動を展開せんとする意圖であつた。(講師) 内田良平、林葵夫、權藤成郷、大川周明、近藤榮藏、赤松克麿、津久井龍雄、石川準十郎、神水文三、下中彌三郎、佐々井一晃、小栗慶太郎、今村等、鈴木善一、松永材、八幡博堂、片岡氣介、金内良輔、日置昌一、長野朗。(獨立青年社) 本黨常任委員兒玉譽士夫氏が代表となつて青年運動の推進機關。(國民同志會) 京都柴山兩氏による青年運動の推進機關。(愛國勤士團) 北海道大鹽地方の山下清八、松村幾馬氏等の奔走によつて八月二十八日北海道大鹽町大鹽座で發會式、(民族時代社) 千葉直太郎、山本昌彦氏の主唱により文化運動の機關を擧げ、生産黨の支持を蒙るもの

演說會一束

◇(日時) 七月五日午後七時 (場所) 大阪市西成區今宮第三尋常小學校 (會名) 時局批判演說會
◇(日時) 七月二十七日午後七時 (場所) 大阪天王寺公會堂 (會名) 家賃半減即時斷行大演說會
◇(日時) 七月廿八日午後

六時半(場所)大阪港區市第五小學校(日時)八月一日(場所)大阪都島第一尋常小學校(日時)八月六日(場所)

一 大阪浪速區難波稻荷小學校(會名)時局批判演說會(日時)八月十九日午後七時(場所)大阪森小路古市尋常小學校

◇(日時)八月二十日午後七時(場所)大阪北區茶屋町濟美第一小學校

△吉田委員長御母喪逝去する 豫わて郷里長崎縣佐世保市相浦町において病氣加療中の吉田委員長御母は八月一日迄に華石效なく御永眠なされた。黨より花輪を贈り深く敬弔した。

△鈴木善一氏重傷により禁錮六ヶ月に處せらる 輿論新聞に執筆せし鈴木善一氏の論文中に朝憲紊亂、刑事被告人責値のかどがあり禁錮六ヶ月三年執行猶豫に處せられた。

△大日本青年同盟の新役員決定 本黨の前衛部隊として敢闘しつつある大日本青年同盟では中央常任委員會の決定により左の如き新役員を發表し、將來の發展を計つた。(顧問)内田良平、吉田益三、松永材、狩野敏、八幡博堂(會長)津久井龍雄(書記長)鈴木善一(書記次長)影山正治(書記)山本昌彦、小野義徳(常任委員)白井爲雄、奥戸足白、伊地知義一、川崎清司、千葉直太郎、市原壽、永富兼徳、小澤繁次、影山正治、山本昌彦、佐橋尙政、早玉要十夫、田中近衛

九月

世界史に大書すべき滿洲國正式承認の日滿議定書は九月十五日滿洲國首都新京において日本全權武蔵大將と滿洲國全權鄭孝胥氏との間に調印を完了した。

回顧すれば去年九月十八日滿洲國の突發以來、新興滿洲國の噴育強化に努力した皇國日本の苦難は筆舌に盡し難きものがあつた、漸くにして滿洲國は雄々しく發聲した。世界維新の前提たるアジア維新はここから發足した。アジアに寄生する白人帝國主義の毒牙は決して滿洲國の正しい成長を黙過するはずがない。内田外相の「焦土外交」を文字通り決意して東亞の安定を計ることが日本の當面せる重大問題である。

既に國際聯盟はこの滿洲國の誕生による東亞の新状態に構槍を入れんものと奮動しつつある。滿洲國の必然と滿洲國の聲を靜かに想ふ時、皇國日本の前途には數知れぬ障礙が山積してゐる。

大阪驛構内立賣人爭議有利に解決す

大阪驛構内立賣人爭議は會根崎署特高係主任野上丈作氏が調停に乗出し爭議團代表および本黨關西本部吉田委員長ほか數氏と水了軒、瓢家兩店主と會見、種々折衝の結果爭議團側の要求十三ヶ條を殆んど全部承認することになり解決した。解決條項は左の通りである。

水了軒側 一、解雇手當動額六ヶ月以上は、二十日以上一ヶ月を以て毎に一日分支給すること、他十二ヶ條に

對して鐵道關係の都合もあり紳士口約に依り二ヶ月以内に實行することになつた

瓢家側 一、現在食費拾七圓の中五圓を引下げる事、妻帯者に對しては一ヶ月五圓の手當を支給する事、一、解

雇手當は水了軒に推する事、一、季節に依つて歩合の値下げをなさない事

全國鐵道構内立賣従業員同盟の結成

大日本生産黨關西本部に屬する全國鐵道構内立賣従業員同盟は、
 最悪な労働條件の下にあえいで居る全國各線構内立賣人一萬の生活權の擁護伸張を目標として過般大阪に結成され、直に大阪府を始め各縣構内に構内立賣公會要求のアドピラを撒布すると共に各所に公共的營業の美名の下に巧妙なるカラクリとインキキによつて鐵道當局と乗客及一般國民大衆を隔着して十數年來不當なる利得をむさぼつて來た大阪に於ける代表的立賣營業者たる水了軒、浪速商會、團家の内容暴露の演說會を開催し大衆的支持を得右三商店に

一、團體交渉權の承認一、解雇及退職手當の制定一、賣上歩合は種類により三分乃至五分に増加すること一、從業時間の短縮退職者に對し歸國旅費の支辨一、妻帯者の家賃補助、一、食費被服費の撤廢、一、年一回の賞與支給一、販賣監督は從業員中より選出すること一、醫務部の設定等

十ヶ條にわたる待遇改善の要求書を提出した。

運動報告

▼凱旋將軍前關東軍司令官本庄中將に對し國民的歡迎を表示するため本黨關西本部では緊急黨議を以つて飯塚書記長、柿花理事外十名を代表として神戸埠頭に出席へ赤誠をこめたる感謝狀を將軍に呈上し、更に大阪埠頭に本黨加盟の六十餘團體つて出席へ本庄將軍に感謝の意を表した。

▼演說會 ◇(日時) 九月七日午後六時半(場所) 大阪天王寺公會堂(會名) 全國鐵道構内立賣従業員同盟能業報告員演說會(聽衆) 二千五百名(辯士) 吉田委員長外廿名◇(日時) 九月十日午後六時半(場所) 大阪櫻宮小學校(辯士) 吉田委員長外十名

委員長外十名(聽衆) 五百名餘◇(日時) 九月十七日(場所) 東京京橋公會堂(會名) 滿洲事變一周年軍大時局批判演說會(聽衆) 五百名(辯士) 八幡、鈴木、伊地知、小野、窪田、阿部、小松崎(日時) 九月十八日(場所) 大阪天王寺公會堂(會名) 滿洲事變一周年記之演說會(聽衆) 一千五百名(辯士) 吉田益三氏外十名 尙當日は演說會に先立ち滿洲事變一周年記念自動車行進を行ひ、自動車の後方には、東亞永遠の平和確保・舉國一致の賜物 皇軍を擁へ・日滿融合一體成る・青年躍起の秋なり日滿親善・正義は不退轉・平和の曉鐘高鳴る等の標語を掲げて大阪市中を巡回し市民に多大の感銘を與へた◇(日時) 九月二十日午後六時半(場所) 大阪眞田山小學校(會名) 時局批判演說會(聽衆) 一百名(辯士) 吉田委員長外十名

十 月

リットン報告書反對運動

本年十一月の國際聯盟總會の重要なる議案となる「滿洲國承認問題」の準備のため國際聯盟はリットンを支那調査團長に任命し、滿洲事變と滿洲國の真相調査にあたらしめてゐるがリットンは初めその調査を完了せしめその内容こそ全く牽強附會捏造の極みであつて、その全面に皇國日本の建設的なるアジア進出をねた

む白人帝國主義が充溢してゐる、今や「抗日的リットン報告書絶對反對」の聲は、國の日本主義陣營の合言葉となり、各派夫々の立場から猛烈なる反對運動を捲き起しつゝあるが、本黨の前衛隊たる大日本青年同盟においては「リットン報告書絶對反對」「白人帝國主義打倒」「戦争の危機に直向して國內改造の斷行を急げ」「維新大日本建設萬歳」「滿洲國の理想内哺育強行」等のアデビラ三萬枚を東京市内白木屋、三越、松坂屋の屋上より撒布した尙聲明書は左の通りである。

聲明書

今回發表せられたいはゆるリットン報告書なるものは、滿洲國建設の歴史的社會的必然性とわが日本の正義的生命的行爲を理解せず、事實を曲げて東洋の自主的和平を無視し去らんとするものである。その主旨が憎むべき白人帝國主義の利害の主張と擁護に存することは最も明らかな事實である吾等はいかゞの如き劣悪なるリットン報告書に斷乎反對する、さらに吾等はいかゞの報告書を作製せる國際聯盟を絶對に排撃するものである。凡る意味において國際聯盟なるものは白人帝國主義諸強相互の利害關係機關であり、アジアをして更に永き抑壓の鐵鎖の下につなぎ止めんとする監視組織に外ならない。アジアを救ふものはアジア人のみである、日本はアジアの敵、正義の敵、國際聯盟を即時脱退せよ支那を自覺せしめ、フィリッピン、インド等の獨立を援け以てアジア聯盟の結成に邁進せよ今や日本は内外共に未曾有の國難の時局に當面しソヴェートロシアとアメリカと而して國際聯盟の攻勢は我國をして刻々世界第二次大戰の渦中に捲き込みつゝある、正に國民總奮起の秋である烈々たる愛國の至誠に立つて、あらゆる非日本の組織運動を撲滅し以て、國內改造を強行し難産新日本を建設し來る可き危機に具へなければならない。さればリットン報告書を弾り國際聯盟を脱退し進んで之れ

が粉砕に努めよ、錦旗革新の達成に邁進せよわが大日本青年同盟はあらゆる苦難と迫害を越へて一路目的貫徹に進撃するものである。右聲明す

青年分子共動機關大同俱樂部生る

豫て大日本生黨、神武會、日本國家社會黨、洛北青年同盟等の青年分子によつて準備されてゐた大同俱樂部は數度の會合により遂に十月十六日行地社本部においてその發生を見、市内西幸町幸ビルに事務所を設け果敢なる運動展開に備へた。ちなみに世話人は左の通りである。

大同俱樂部世話人 鈴木(善) 平田、鈴木(歎) 藪本、杉田、磯原、中川、菊池、大石、川俣、西郷、吉元、大森、藤村 影山、田川の諸氏

大毎赤化記者の糾弾

今秋の特別大演習に参加すべき大毎よりの軍事通信記者候補者の内石橋某なる者が他の六名の社員と共に共産黨員として檢舉されたので、本黨西本部では由々しき問題として重大視し緊急幹部會を開催、共産主義の淵床大毎新聞の火の手を逸早く上げ、關西本部においては當事者たる大毎に嚴重なる抗議を續け、市内において數回の十毎糾弾の口論戰を開し、又一方東京においてもこれと呼應し、參謀本部、検事局、警保局、憲兵司令部を歴訪し嚴重なる申入れをなした。同事件は同年十二月三日大毎側の謝罪によつて本黨側に凱歌が揚り遂に落着を見たものである。

【決議】大阪毎日新聞社は曩に三・一五事件に依り二十一名の共産黨員を出し、更に十月六日記者石橋長七郎、職上西島忠男、椿野重一、梶田重雄、南勝良、和田秀吉、新野巖以上七名の赤色分子は檢舉せられ、更に又十月十九日には經營を同ふ

する東京日日新聞社よりは、十九名の赤色青年同盟員を出すに至れり(中略)吾人は茲に奮然起つて赤色大侮を膺忍し、新界の革新を期す。右宣言す。大不敬國賊共產黨の暴行大阪毎日新聞社の徹底膺懲を期す。右決議す

大日本生産黨 關西本部

大毎朝の凶罪文 謹啓初冬の候御益々御隆昌の段奉欣賀候、陳者過般弊社員中より左傾思想を有する疑ある者を出し殊に同人が假令一時的なりしと言へ陸軍特別大演習記者候補者中に加へりしことは誠に恐懼に堪へざる所にして本社衷心より深く遺憾とする所に有之候、御黨に於ては右事實に對し特に御深憂相成り御決議を以つて一再ならず御忠言を賜はり候御盛情の程厚く奉感備候、御黨が夙に御首唱遊ばされ居候大日本主義を高調して共產主義を撲滅せんとする御趣旨は本社とても全くその概を一にし居り候次第に御座候へば今後一層の注意と努力とを以つて國家本位の主義を鼓吹しその目的の達成の爲に一路邁進するの決心と覺悟とを有し居り候間幸に御諒承の上尙今後とも倍舊の御高援助はり度伏て仰願仕候
右御禮勞奉得貴意候也

昭和七年十一月一日

大阪毎日新聞社 秘書課長 山田潤 二

關西本部 御中

總務部を新設

本黨では總本部の下に總務部を新設し總務部長に萬生能久、總務に吉田益三、小幡虎太郎、松田頼輔、池田弘、立花良介の諸氏が就任し全國の統制をはるかに主つた。

國際聯盟に内田總裁の巨弾

大日本生産黨内田總裁は、今回の對國際聯盟國民大會開催に先立

つて、主催團體の意圖を代表し、リットン報告書問題に對し國民的決意のある所を明かにし、聯盟並に米國の考慮反省を促すため「滿洲問題に對する日本國民の決意」と題する一文を草し英文は既に滿洲問題學界一致各派聯合會の手を通して聯盟並加國委員及び米國を加へたる政府當局、主なる政治家、新聞社に發表したが、同文は「日本國民の決意日本の滿洲に於ける特殊關係、滿洲の排日、不確の前兆及び九・一八日事件の勃發とリットン報告、聯盟及米國の抗議と事件の擴大、支那の排日とリットン報告、滿洲新國家の成立とリットン報告、滿洲の政治的地位とリットン報告、國際聯盟の使命と運用の誤謬、聯盟の干渉と支那排日の増長、米國の行動と日本」の各條項に分ちて、正確なる批判と認識をもつて構成せられたものである。

運動報告

▼農墾聯合會の結成

大阪金剛産業労働者組合(創立昭和七年九月二十九日、組合員二百六十八人)大

阪借家人協議會(創立昭和七年六月二十六日、會員二千四百六十六人)大阪化學産業労働組合(創立昭和七年十月四日、組合

員五百七十九人)大阪紡績産業労働組合(創立昭和七年九月二十九日、組合員二百六十八人)全國鐵道構内従業員同盟(創

立昭和七年八月九日、人員二百九十四人)の本黨關西本部所屬の産業別労働組合は日本主義陣營における唯一の經濟關係機

關として資本主義經濟の維新的改革を目標に健闘しつゝあつたのであるが、更に活潑なる闘争と、組織の擴大強化を圖るた

めこれが絆制、指導機關として聯合機關の必要を痛感し、遂に十月二十二日大阪借家人協議會事務所において大日本生産黨

職工聯合聯合會を結成した。役員(會長)堂前孫三郎(常任)杉山幸太郎(同、會計)佐原武三(同、組織)吉川與七(同

調査、宣傳、出版)岡田二二(同、事業)大林猪太郎(同、争議)藤田進(同、教育機關紙)天野雅夫(同、聯絡)岡部松之助

▼關東本部常任委員長に池田弘氏就任す

本黨關東本部においては職制の充實改正をなし、豫めて關東本部理事として

健闘中なりし池田弘氏を十月十三日關東本部常任委員長に推戴した。

△演説會◇(日時)十月五日午後六時半(場所)大阪鶴橋第二小學校(會名)時局批判演説會(聴衆)二百名(辯士)吉

田委員長外數名◇(日時)十月六日(場所)大阪石田小學校(會名)時局批判演説會(聴衆)六百名(辯士)吉田委員長外

數名◇(日時)十月八日(場所)大阪玉出第三小學校(會名)時局批判演説會(聴衆)百五十人(辯士)川口、梶原、狩野

中井、青野、鹽見、澤淵、柿花、奥村、種ヶ島の諸氏◇(日時)十月十七日午後七時(場所)京都第二待鳳小學校(主催)

京都支部準備會主催(聴衆)二百名(辯士)吉田委員長、榎本、西村、堂前、草野、柴田、柴山、正田、澤村、忠澤の諸氏

◇(日時)十月二十八日午後七時(場所)大阪中河内郡布施町慈光院(會名)大毎齋愍大演説會(聴衆)四百名(辯士)吉

田委員長外數名◇(日時)十月二十九日午後六時半(場所)今宮第三小學校(會名)大毎齋愍大演説會(聴衆)五百名(辯

士)吉田委員長外數名◇(日時)十月三十日午後六時(場所)大阪櫻宮小學校(第一會場)大阪都島クラブ(第二會場)

(會名)大毎齋愍大演説會(辯士)吉田委員長外十名◇(日時)十月三十一日午後六時(場所)大阪豊崎第三小學校(第一

會場)大阪豊崎第四小學校(第二會場)(會名)大毎齋愍大演説會(辯士)吉田委員長外數名

△擴大協議會 關西本部では十月三日午後六時より大阪中央公會堂において擴大協議會を開き、吉田委員長以下百五十

名出席左の重要議案を可決して盛會裡に終つた。一、月収六十圓以下の生活者にして一家をなすところの階級に三割増給の要求運動を起すこと。二、全黨員は一日一錢の貯金を實行して軍大事に備ふること。三、リットン報告書に對しては堂々と皇國の立場を明かにし國難の打開に努力すること

十一月、十二月

殉國者慰靈祭

五・一五事件農民決死隊の最年少者温水秀則君(廿才)は去る十一月廿七日病氣重りしたため豊多

摩刑務所より芝慈惠病院に移されたが時運く途に十一月一日午後九時卅五分永眠するに至つたので日本主義青年同志は之れが國民的同志葬を行ふ事に決し、大同クラブが中心となり「國家主義各派聯合愛國者葬委員會」を組織しその主催を以て十一月九日青山會館において盛大なる葬儀を行つた。此日靈前には内田良平先生及び大同クラブの幟一對を始め卅有餘の花輪が敬供せられ、参列者は約二千を數へその中には頭山、内田の兩先生の姿も見られ近親の人はその盛儀に只々感泣するのみであつた。ちなみに葬儀委員は葬儀委員長鈴木善一氏、副委員長鈴木敏、柳町茂道氏書記には影山正治、大槻正秋の兩氏が擔當した。

阿久津村虐殺事件の判決

本年一月九日の朝樞木縣阿久津村における全國勞農大衆黨の鬼首に等しき本黨員への虐殺事件はその後宇都宮地方裁判所において実理を進められ後記の如き判決があつたが、極めて法の適正を缺くものがある

つたので検事當局ではこれに不服を唱へて直ちに全被告に對し、檢察控訴をなすに至つた。

- 殺人及び殺人未遂罪（括弧内は求刑） △大塚昌明（無期）十三年△伊藤義廣（無期）十三年△大塚隆一（十五年）五年
- △木村輝雄（十年）十年△櫻井風洲（七年）七年△大塚金次郎（十年）五年△小川傳（七年）五年△大貫大八（五年）三年
- △菅野武光（三年）三年△諏訪銀作（二年）二年△藤田菊松（七年）七年△黒澤幸一（三年）三年

東京時事新報を糺彈

司法部内に起れる一大不祥事件、即ち尾崎判事の赤化事件に對する司法大臣

の責任が云々されてゐる折柄、東京時事新報は十一月十三日の朝刊社説欄に於いて「一判事の赤化事件によつて法相の進退論が云々される如きは一笑に附すべき滑稽の沙汰であり書生論である」と述べ、問題の重大性を否定したので本黨青年部では之の非國民的社説に對し、糺彈の烽火を上げ、十四日午後二時、白井、小西、小野、阿部の四氏は青年部を代表して同社を訪れ、嚴重なる詰問交渉の結果、時事新報社では幹部協議の上、黨青年部の要求たる。

- 一、時事新報は本月十三日朝報の非國民的不敬社説に對して直にその非を悔ひたる「社説」を同紙上に掲載すること。
- 二、時事新報社を説欄に黨青年部の作製せる不敬社説に對する反駁文を掲載すること。
- 三、第二項を容れ左の如き反駁文を十七日朝刊の社説欄に掲載した。

不祥事件の俗論を撃つ

大日本生産黨青年部

時事新報は、十一月十三日の社説欄において「一判事の赤化と其責任者小山法相進退の説に就て」と題し、其判事、其罰

欠

MISSING

【決 議】 一、國際聯盟は速に滿洲國の獨立を認めべし 二、國際聯盟にして眞に東洋の平和を期せんとせば速に滿洲問題より其の手を引くべし 三、國際聯盟の行動にして我が國是に反するものあるときは斷乎反對すべし

昭和七年十一月二十日

對 國 際 聯 盟 國 民 大 會

さらに京都においては大日本生産黨、昭和青年會、洛北青年同盟、猶興學會、新興學會、興國青年同盟、立憲政友會、立憲民政黨、國民同盟、京阪神在郷軍人會有志團、海軍義會有志團が主催となり十一月四日午後一時より、岡崎公園京都市公會堂において對國際聯盟國民大會を開催することになった。當日の出演辯士は左の通りである。

△京都在郷軍人代表陸軍中將藤井源次郎△猶興學會石田眞平△興國青年同盟柴山滿△生産黨代表吉田益三△國民同盟代表福田虎種△陸軍少將杉村勇次郎△生産黨總裁内田良平△海軍中將八角三郎△政友會代表藤田均△民政黨代表中村三之丞

運動報告

▼滿蒙義塾開校す 本黨理事八幡博堂氏の奔走によつて豫ねて準備中の滿蒙義塾は十一月一日、東京市内世田ヶ谷區赤堤町滿蒙義塾大講堂においてその開塾式を舉行した。役員は左の通り。

△名譽塾長内田良平△塾長平岡良一△理事長八幡博堂△理事佐藤止成△同山田善五郎△同渡邊毅雄△同馬男木俊雄△同金子近次。

▼服部茂樹氏の追悼會

皇龍會關西支部の服部茂樹氏は滿洲事變勃發以來滿洲において活動し或は關東軍囑託として特務機關に屬して皇軍のチチハル引揚げに馬占山軍の行動詳報に、又北滿の奥地にあつては、松井大佐と共に蒙古政廳のため

襲撃したが、同大佐襲撃後は片倉參謀の指示を受け内藤古自治軍の總括に努力する等敵軍を幾り是軍に買収したが、その後滿洲國興安總署の廳官に任命され、去る九月二十七日重大任務を帯び板倉機に搭乘チナハルに向ふ途中海難し香として消息不明の所去る六日同乗者八名共にその死體を見られ蘇炳文叛亂の犠牲たる事が判明したが、黒龍會關西支部では新興滿洲國に愛國の忠となつた會員服部氏の追悼會を開くこととなり支部長吉田益三氏、支部監談實連名で各方面にこれが機文を發し十月二十九日午前十一時より東區本町西本願寺津村別院（北御堂）で追悼會を行つた

▼京都支部の結成 豫ねて準備中であつた本黨京都支部十一月三日明治節の佳き日を期して京都三條青年會館において結成式を舉行し、關西本部よりは吉田委員長を始め多數の幹部出席しその門田を祝福した。京都支部役員△支部長西村力△常任幹事柴山滿△同柴田金三郎△常任幹事河上吏朗△同野口源治△同増田止治△同矢羽田勝造

△演説者 (十一月一日)大阪石田小學校(同)田中小學校(十一月一日)大阪梅香小學校(同)實業會館(十二月三日)京都三條會館(十一月四日)大阪伊丹公會堂(十一月二十七日)堺向陽小學校(十一月九日)神戸真陽小學校(十二月十日)大阪中央公會堂(同十七日)堺港小學校(同)赤川町昭和俱樂部

昭和八年

【皇紀二千五百九十三年】

血盟團事件によつて飛躍的に高揚せられた日本主義運動は、五・一五事件によつて更に拍車を加へられ、之等先覺志士による血の犠牲を効果あらしめるために合法部面の日本主義運動も亦熾烈を極めたものであつたが、明治維新後數十年にわたる自由主義、功利主義、民主主義等一聯の反皇道主義の地盤は牢固たるものがあり、一切が未解決、未決定のままに昭和八年の新春を迎へるに至つた。

滿洲事變は世界維新の前哨戦であり、滿洲國の誕生は亞細亞維新の契機である。永い間亞細亞に寄生してその貪慾を充たしてゐた白人帝國主義の桎梏から解決されるにはこの秋を於いて外にない。國際聯盟といふ白人至上主義の機關は、日本による亞細亞維新の進軍を黙過する筈はない。果せる哉豫想通り國際聯盟の滿洲國否認はあらゆる情眼を以て迫つて來た日本の後退は亞細亞の後退であり、世界の悪化である。我等は何よりも先づこの確信の上に立つて一切の生活行動を律して行かねばならない。如何に強大な力を以て對日包圍陣が形成されようとも、日本が進めた世界維新の進軍は一步も後退してはならない勝利は前進によつてのみ望み得られる。

昭和八年度における日本主義運動の展開は果して之等抗日的國際状況にどこまで反響し得たであらうか又國內における反皇道運動をどこまで追ひ詰めたであらうか、その成果を本年度の運動過程において見出さう。

本黨青年部の確立

從來本黨の前衛隊として大日本青年同盟が存在し、本黨の青年分子は殆んどこの組織の中に吸収されてゐたのであつたが大日本青年同盟の動向がやゝもすれば分派的行動に出で勝ちであつたので、この状態では黨内の幹部と青年層本隊と前衛隊との間に充たす事の出来ない大きな間隙が生じ、延いては黨自身の生命力にも影響するに至るものと懸念し、大日本青年同盟内の優秀分子は、屢々この間の聯絡を強調し斡旋に努めてゐたのであるが、その効果なく遂に青年同盟以外に青年部を確立せざるを得ない事態に立ち至つた。

青年部は純然たる本黨の青年黨員によつて組織され、生産黨旗の進むところこれを守護し、本隊の進むところ常にその前衛隊役割を果す黨とは不離一體の機關である。この目的の下に本年劈頭、一月二十日東京麹町區永田町の黒龍會自由クラブにおいて青年部が黨の一部として新しく創設され左の如き規約その他を決定して、新しき闘争に備へた。

青年部規約

- 第一條 本青年部は滿三十歳以下の本黨員を以て組織す
- 第二條 本青年部は本黨の前衛戰士としてその任務の貫徹を期す
- 第三條 本青年部に左の役員を置く
 - 部長一名、常任幹事若干名、幹事若干名
- 第四條 部長は本青年部を代表し部務を統轄す

第五條 常任幹事は部長を補佐し黨本部理事會と緊密なる聯絡の下に部務を掌理す
 第六條 部長は黨本部委員長これを任命し青年部役員は部長これを任命す
 第七條 本青年部に左の機關を設け部長これを招集す、常任幹事會、幹事會、大會
 第八條 その他必要なる細則は別にこれを定む

役員

(部長) 鈴木善二 (常任幹事) 白井爲雄、佐橋尚政、友納早一、花野井彌太郎、小崎一誠、谷丈太郎 (幹事) 小野善徳、小松崎重、阿部克己、橋爪宗治、窪田巖、影山正治、米持格夫、野口一齋、山本昌彦、藤三雄、庄司野利一、小西政治、堺富忠、結城榮一、小林徳松、小島伊助、小林健雄

運動報告

▼阿久津事件追悼法會 栃木縣支部聯合會では一月九日午後六時より宇都宮出雲神社に阿久津事件の殉黨者木戸辨吉、相馬留吉、嶺岸善九郎、渡邊靜一氏の一周年記念追悼會を開催し、出席者は遺族及び黨幹部五十餘名、左の如き宣誓を決議した。【宣誓】 阿久津事件の一周年を迎へ、生々しく共匪の悪虐を想起す我等は赤魔の兇刃に斃れたる同志の尊き血汐を受け繼いで憎むべき國家の敵の絶滅を期す▼長野地方の座談會 本黨長野縣上水内支部では一月八日午後一時より上水内郡桑村田中屋に座談會を開催し本部より白井、山本の兩常任出席し、本年度の組織、闘争方針其他の打合せをなした。更に翌九日は松本支部の座談會に白井、山本兩常任出席し、中央と地方の緊密なる聯絡を計つた▼北海道支部中舌部 加留郡置たる北海道愛國勤王黨では、一月十三日から山下清八氏を議長とし高倉根安造、佐藤精氏等環り抜きこの闘士らによつて精銳遊説隊を編成し、零下三十度の嚴寒雪中を物ともせず旭川市、山部市街新得町帶廣町、釧路市網走町野付牛町川湯温泉宜他十ヶ所に亘つて舌戦を再開し、日本主義運動の昂揚と本黨の組織擴大に努力した。

二月

黨旗入魂式

大日本生産黨、同青年部旗が出来上つたので、黒龍會旗と共に二月十日午前十一時より赤坂氷川神社において入魂の儀を興修した。當日は内田總裁を始め、小幡、中島、池田、八幡、岸本、齋地、坂井、鈴木、佐橋白井、伊地知、永富、川崎、千葉、小島其他青年部員數十名出席左の如き順序を以て嚴肅に行はれ内田總裁の訓辭の後總裁發聲の下に聖壽萬歳を三唱し終つて記を撮影を行つた。

入魂式次第 一、修祓二、神宮祭文三、宣誓文朗讀(池田委員長)四、玉串奉奠(全員)五、總裁訓辭六、聖壽萬歳
 【宣誓】一、本黨員は日本國體を絶対尊信しその守護發揚に血盟献身すべし 一、本黨員は皇室と國家のため何時にても身命を抛つ覚悟あるべし 一、本黨員は不言實行、知行合一を以て、信念の斷行に當るべし 一、本黨員は何時にても妻子營族を括て皇道に殉する覚悟あるべし 一、本黨員は名譽を併し祖國收復過程の人任たらんことを期すべし

懼く我等の黨旗入魂式に當り謹みて右五ヶ條を神前に宣誓し奉る

昭和八年二月十日

大日本生産黨本部

内田總裁訓辭

此の旗といふものは古く東西、何れの國家においても非常に大切なものとして取扱はれて居る旗には神意が宿つて居るのである。陛下から賜はつた勳隊旗が全隊隊の生命であると同様に、黨旗、會旗は最も大切なものである。總裁を中心とするのでなく、旗を中心にして皆が正義の戦ひを行ふのである。總裁などは代る、若い人に代つて貰はねばならない、まして死ねば代るのである。然るに代らず、死せざるものは旗である。諸員の魂を統一して行くものは旗である。不平や不満の起つた時は旗の前で述べるが良い。お互ひの間で不平を言へば不平が重つて不平和となる。故に神體たる旗の前に立つて如何なる大不平でも波瀾すれば立ち所に不平は消滅し霧散する。是等の旗に對する時は、皇室に對すると同様の敬天の赤心を以て對すべきである。今日、内外共に多難なる秋に於て、黨員諸君は此の旗の下に精神を統一して和協一丸以て大事に當られ度い。黒龍會、生産黨、生産黨青年部旗等の入魂式に當り祝辭に代へて御挨拶申上げる次第である。

國際聯盟脫退國民大會

滿洲問題學國一致各派聯合會主催「國際聯盟脫退緊急國民大會」は二月七日東京日比谷公會堂において開催、左の宣言、決議を行つた。

【宣言】 國際聯盟の態度はいよいよ出で、いよいよ錯誤に陥り、毫も誠意を認むべきもなく將に規約第十五條第四項を以て我に臨まんとす。聯盟が現實に即せざるリットン報告に拘泥して毅然たる滿洲國の獨立と我止當なる自衛權とを否認し却て支那の抗日排貨運動を正視するが如きは東洋の平和を擾亂し國際聯盟の精神を自から没却するものにして斷じて承認し能はざる所なり政府は宜しく速に頑迷なる國際聯盟を脫退し直ちに公正なる聲明を中外に宣言し帝國全權をして即時撤退歸朝せしむべし是れ學國民の要望なり

【決議】 帝國は即時國際聯盟を脫退すべし

郵船商船合同に反對聲明

大日本生産黨ではさきに本邦五大電力統制問題につき國家的立場から痛烈な反對聲明をなし五大電力會社の財政的缺陷を國民負擔に轉嫁せしめんとする國家補償案の正體を曝き、非國家的資本主義經濟政策に一大抗議運動を起した。

然るに今日現内閣は更に資本家國家一業制度の建前から、企業合同統制策樹立に勳要努力しつつあるが、該統制策はその經緯を異にする如くなるも、結果において、五大電力統制問題と同様企業會社自體の持つ財政的缺陷を特殊銀行に引受けしめ結局國民負擔に轉嫁されることとなるもので、かゝる政策は即ち金融財閥が自己支配會社を中心としての企業合同を策し、然して自己が企業會社に貸付物資をなし回收不能に陥りつゝある債權及び自己の引受ける社債權確保のため金融業者相互の默契の下に、債務者たる企業會社をして競争防止を名目として合同を勸請し、合同後、合同會社から手を引く如く裝ひ大株主の權利のみを保有し置き合同會社の債務に對しては與銀等の特殊銀行を中心とする融資團を組織せしめて之に肩替はりせんとすの策

謀を皆棄される。その結果、等時殊銀行の引受けたる不良債券が國家補償として國民負擔に轉嫁せらるゝは當然の歸結であつて、かくの如きは國民負擔を倍加するのみならず今日既に破綻に瀕しつゝある國家財政をしてゆ拾し難き死地に至らしむるものである。

近來問題化する郵商合同問題における三菱、住友、金剛財閥の專横關係とその魂膽とするところを具體的に櫻井中島商相の無定見なる企業合同統制案に反對聲明を發した。

國民運動化した本年度建國祭

従來官制化した建國祭を國民運動化し、日本主義の昂揚につとむべくかねて準備中の日本主義陣營においては東京、大阪を中心として全國重要都市で黨職的なる建國祭を展開した。

▼東 京 大日本生産黨、國家社會黨、神武會、勤皇維新同盟等を構成要素とする國難打開聯合協議會、大同俱樂部では同日の指定會場である本所銅系公園に約一千の大衆を動員した。午前十時大野豊彦中將の宣讀文朗讀、次いで宮城を遙拜、紀元節歌を合唱、音楽隊が建國歌の奏樂、司會者の發聲による聖壽萬歳を以て終了、次いで街頭行進に移り、ラッパ隊を先頭に在郷軍人團、青訓、青少年團、續いて國協の順序で建國歌を高唱しつゝ行進、太平町、綠町、兩國橋、濱町、久松町、人形町、江戸町、明和通り、京橋のコースで馬場先門より直進して宮城前に整列、聖壽萬歳を三唱、かくて意義ある第一回日本主義團體の建國祭は午後一時無事終了した。

▼大 阪 大阪における建國祭は、生産黨、神武會が中心となりオープン自動車四十台を以て行はれた。總統制に生

産黨關西本部の徳田宗一郎氏指揮に同黨の榎本佐市氏かなり午後一時、北濱二丁目の生産黨事務所を出發し、午後五時半まで全市各地を示威行進し神武建國の大業を偲び、建國精神に對立する現制度、文化の排撃を神誓した。

夜は午後六時より中之島公會堂に於て生産黨主催「建國紀念輪盟退大演説會」を開催した。聴衆約三千名、青野、村田、梶原、柿花、吉田、山口、山本、榎本、堂前、住田、狩野の諸氏熱辯を振ひ緊急動議により「國際聯盟退決議」を行ひ首相以下各當局に電送した。尙大阪における青年大同運動は、昨年末より「愛國大同クラブ」の結成を通して行はれて來たが、十五日には天主寺公會堂で神武會が司會し、午後六時より大演説會を開催した。司會者宮本純一氏を始め白阪一雄、西郷隆秀、田中義雄（以上神武會）、黒江直光、赤松五百禮（以下國社黨）、大森一豊（維新同盟）、政田清、堂前孫三郎、影山正治、榎本佐市、鈴木善一、吉田益三（以上生産黨）、本木恒雄（愛國青年聯盟）等の諸氏熱辯を揮ひ、三千の聴衆を感動せしめた、その他、川崎、京都、名古屋、濱松、福岡、宇都宮においてそれぞれ盛大に建國祭を了した。

運動報告

▼交通従業同盟結成さる 大日本生産黨關西本部の岡田一二氏は交通運輸労働者を打つて一丸とし、交通労働者組合を組織すべく、黨本部書記局と協力して着々準備を進めつゝあるが、愈々近く結成大會を舉行することとなり去る十六日第一回準備會を港區岡本町岡田準備會主事宅において開催したが、名稱は大日本生産黨交通運輸従業員同盟と正式決定、主義、綱領、主張、當日左の如く決定した。尙十一日の紀元節には關西本部自動車示威に準備會のまゝ参加し果敢な闘争を展開した。▼大阪港區分會結成會 大阪港區第二分會は二月 百港區市岡第三小學校に結成大會を舉行し、引續き

演説會に移り關西本部より吉田委員長を初め諸幹部増大熱辯を振つた。(分會役員)△分會長 齋藤彌三郎△幹事 秋山延一、岡田一二、清水貞二、津田龍一、吉良寛▼日本郵船の赤化船員事件に警告文 日本郵船會社の赤化船員事件に對し、大日本生産黨では船員中の津守秀夫は高松宮殿下御外遊の際、御召鹿島丸のボーイとして御側近に立ち働いた事は社員監督上の重大事態であり、今春習陽宮殿下の御渡歐に際し社員の身元、思想を充分調査すべしとの嚴重な警告書を提出した▼更亞生覺志士憲靈祭 内田良平先生を中心指導力とする滿洲問題學國一致各派聯合會主催の東亞問題先覺志士憲靈祭は二月十一日の紀元節を下し日比谷公園新音樂堂において嚴かに執行されたが、音樂堂正面の大祭壇には、護國の神東亞問題先覺志士一千三百諸靈を祭祀し、左右には朝野の諸名士及黒龍軍を始めとする愛國團體對外關匪商店獻供の大眞體を配し莊嚴の極みであつた。拜禮者は朝來から潮の如く雲集し定刻前、既にさしもの廣い新音樂堂も人波を打つの盛況、當日は大日本生産黨は全黨をあげて此意義ある祭儀に列し、黄緑色の黨服に身を固めた青年部員は整理の任に就いた▼大阪東成第二分會結成 豫ねて結成準備中の大阪市東成區第二分會は二月十七日午後六時より東成區小橋北之町佳月クラブにおいて結成式を舉行、引續き時局批判演説會を開き辯士として吉田委員長外幹部數名各増し聽衆二百五十名に多大の感銘を與へた▼國際聯盟脱退に青年部奮闘す 關東本部青年部では去る一月三十一日國際聯盟脱退の進言書を樞府、政府、軍部の各當局要路、重臣を訪問手交する等猛烈な脱退運動をなしつゝあつたが、二月二十三日は本郷佛教會館に、二十四日は本所公會堂、二十七日は京橋公會堂において「國際聯盟即時脱退演説會」を開催し、又市内各所に數千枚のポスター(經濟封鎖の恫喝に脅ゆる財閥

の盲動を討て、英米言論攻撃論の不良大官を討て、財閥大官の走狗既成政黨を討て)を貼布して國論の喚起に努めた。

三 月

賣鹽事件を撃つ

皇軍の軍神的奮闘と、全國民大衆の零細な献金による援護とによつて極東平和を脅かす外敵掃蕩と、我國際正義樹立のために戦はれて居る今日、突如發覺されし毒ガス原料鹽賣事件は全國民の神経を痛く刺戟し愛國大衆を激昂せしめつゝある。該毒ガスは歐洲大戰後に國際的に嚴禁のものであるが、匪賊的學長が此毒ガスを使用熱河の戦ひに我將卒百餘名を虐殺した記憶と、當時の切齒憤激を今生々しく呼び起すことが出来る。この憎むべき醜態なる毒殺行為によりリットン報告書に盛られし虚構の全てはこの事實の前にいみじくも氷解せられざるを得なかつた。然るに此毒ガス原料が事あらうに日本から賣りこまれて居やうとは何事ぞ!國民的義憤は燃へた。賣國奴、國賊に對する奮激は荒れざるを得ない。大日本生産黨を支持の大阪神州護國黨の黨員榎本佐市氏は十日午前一時、同黨員五名と共に東區高麗橋五丁目なる國賊島徳邸に躍り込み魔邸の大門を大石にて打破り國賊島徳邸と怒號しつつ邸内深く侵入し愛國內亂旗を加へんとせし折柄早くも所轄捕房署より十數名の警官かけつけ檢束し去つたる爲國賊島徳は幸ひにして危難を免れたが、越えて十五日午後一時半生産

富岡西本部の青年有志國防會及同志會の會頭野村氏外十三名は更に「國賊高橋の死を祝す」の甲旗を先頭に、白布をおぼした相桶と「國賊高橋野村」の位牌をかつき弾式デモをもつて馬場になだれ込み警戒中の船場署員と大亂闘を演じ、警員の阻止を突破し愛國奴に用意せし右の相桶と位牌を邸内に投げて解散したが、なほ引續き愛國奴警憲の徹底的な掃蕩を繼續しつつあるが、愛國的热情がなせし崇高なこれらの犠牲的精神こそ全國民の統一的精神の背景を有するもので一般に多大の感銘を與へてゐる。さらに高橋野村事件の取調へに對し厳正公平を期するため本黨富岡西本部青年部では星井眞澄、住田紅海兩氏を代表として十一日午後四時大阪憲兵隊本部を訪問左の進言書を手交した

進言書 時恰も國家非常時に際會し國民は擧つて名譽ある孤立を痛へ敢然として祖國愛に燃へつゝある秋突如社會の耳目を騒動せる愛國事件こそは神人俱に許すべからざる大不遇の行爲にして國民憤激の熱血は頂上に達す茲において當局は嚴なる法の權威を明示しその取調に當り秋事も寬假する所なく更に第二第三の愛國奴高橋の續出を未然に防がれんことを希ひ茲に幸ひに民心に後顧の憂ひなき機微底的に乱明されんこと切望す、右進言す。

さらに東京においては大日本生産黨富岡東本部が三井物産の賣國事件について嚴重なる抗議をなすこととなり國社、神武會、勳皇維新同盟と協力して左の決議文をたつさへ九日三井物産本店に代表二十五名押しかけ大熊、佐々田兩黨勢に面言手交した

決議 祖國日本が未曾有の國難の非常時に直面してゐるとき、三井財閥はさきドル買による非國家的暴舉を敢えてなし全國民の憤激未だ去らざる今日、こゝに又關東州において賣國奴的賣國事件に關係せるは我等の實に默通するあたはざる

事態である、飢えたる國民ですら國難に對し一身もつて殉ぜんの決意ある今日、勞働者と農民を擁護し、中小商工業者を慰しドル買等々、貪欲限りなき手段によつて蓄積せる三井の財産のその如きはこれを擧げて奉還すべきを當然なりとする、然るに何ぞや日支紛争を利用して益々利慾をたくましくせんと毒ガス原料の運支那に對し賣渡し契約をなせるが如きはその賣國的行動これに過ぎるものはない、我等はこゝに三井物産賣國的行動を彈劾し、併せて將來のため嚴重警告をなすものである。右決議す。

昭和八年三月九日

大日本生産黨、日本國家社會黨、神武會、勳皇維新同盟

運動報告

大阪東成區第一分會結成 本黨富岡西本部では既に東成區第一分會を結成したが更に第一分會結成準備なり、三月十一日午後六時より大阪東成區猪飼野町一條通り壽橋筋御幸青年會館において結成式を舉行、分會長に山本徳太郎氏が就任した。引續演説會に移り、吉田委員長始め幹部出演し多大の感動を與へた▼豊野縣北信地方に遠久利分會生る 本黨北信支部では既成政黨及び無産黨の妨害と勇敢に戦ひつつ黨勢の擴張につとめつゝあつたが、十五日午後一時遠久利村間藤館において分會の結成を行つた。(分會長) 巨根山致之助(書記長) 山崎亨(相談役) 尾澤林太、西澤大蔵、瀧澤正男、竹村作美、竹下滿壽恵(常任理事) 吉澤多喜人▼日本新經濟策(前巻)を發表す 本黨編輯岡田良平先生は夙に現下の經濟的行詰りを憂慮しつゝあつたが、今回「日本新經濟策、前巻」二百七十頁の大論策を發表したのであるが、その調査の精密と、方策の妥當性は多大の反響を日本政治經濟界に與へた。▼横濱支部の年次大會 本黨横濱支部の第 回大會は三月三十

日午後一時より横濱市中區富士見館において舉行、新國争方針その他議案を討論し左の如き新役員を決定した。(支部長) 鶴島三郎(書記長)谷丈太郎(理事兼會計)清水留吉(理事)兒玉兼吉、青木金太郎、小島貞藏、木村好文、(書記)堺常忠 結城榮一、駒野金助(常任委員)高島真一、唐澤伸、黒田勇四郎、大野太平、小池勝五郎、服部輝八、大久保文吉、越野 徳次郎、小林徳松、辻田水、弓槻統 ▼總裁武蔵高村謹一氏逝去 本黨總裁秘書並に本黨中央委員たる高村謹一氏は罹病 加療中の處、養生不叶遂に三月二十一日永眠された。

演説會 ◇(日時)三月十三日午後六時(場所)東京瀧野川小學校(會名)時局批判、市政革正大演説會(主催)

瀧野川支部準備會◇(日時)三月十三日午後六時(場所)大阪府住吉區我孫子肆前(會名)時局批判演説會(主催)關西本部 ◇(日時)三月十五日午後七時(場所)大阪市豊崎小學校(會名)非常時局批判演説會(主催)關西本部◇日時三月十七日 (場所)神戸市昭法院(會名)軍大時局批判演説會(主催)神戸支部準備會◇(日時)三月十九日(場所)大阪府中河内郡 瓜破村公會堂(會名)時局批判(主催)關西本部◇(日時)三月二十六日午後六時半(場所)大阪府西野田小學校(會名) 時局批判演説會(主催)愛國勞兵隊◇(日時)三月二十九日午後七時(場所)堺市英彰小學校(會名)時局批判演説會(主催) 堺分會準備會

四月

第一回愛國勤勞祭舉行 (吉田委員長總指揮) 日本主義運動史上に記録すべき第一回

「愛國勤勞祭」は四月二十九日天長の佳節をトして舉行され當日の大衆動員は大日本生産黨系二十二團體、國社黨系十一團體で數三千。定刻前會場中之島公園は愛國者をもつて埋められ、「國メーデー」粉砕、國際勞動買議即刻脱退、國庫保護失業保險制定、第一回愛國勤勞祭萬歳、新日本建設萬歳、生活權絶對保證、天長節の佳節を祝へ等のスローガンを大唱せる長旗及び各團體旗は明日を呼吸するが如く微風にはためかくて定刻に至り司會者藤岡文六氏の開會の辭あつて、市音楽隊の指導で君が代合唱に移り合唱終つて、當日の總指揮吉田益三氏(生産黨關西本部委員長)の發聲で聖壽萬歳を三唱し、各團體代表(本多滋一、松下芳一、狩野巖、正木正之、宮城啓州、山本龍介)の演説を終つて一同「第一回勤勞祭萬歳」を三唱し慈々音楽隊吉田總指揮を先頭に第一部隊長大矢省三氏(國社黨)第二部隊長徳田宗一郎氏(生産黨)に率ひられて隊伍整然愛國行進歌を高唱しつゝサーベルと砂埃舞ふ中をS字型のデモ行進を築いて天王寺公園に向ひ、この意義ある歴史的行進は午後三時、天王寺公園の各團體代表演説後、聖壽萬歳を高らかに三唱解散したが、同夜は天王寺公會堂において勤勞祭参加諸團體主催で記念大演説會を開催した

共産黨討滅を目指し國體擁護聯合會生る

「共産主義討つべし」の論は全日本の愛國者の間に喧々囂々たる有様であるが、かゝる氣運に刺戟されて愛國諸團體は續々躍起して大日本生業黨、黒龍會、明德會、日本新聞社、行山莊、大同聯盟、大衆會、原理日本社、國民戰線社、愛國法曹聯盟、愛國新聞社、神武會、東亞聯盟議會、科學日本主義同盟、大日本護國聯盟、大化會、建國會、愛國學生聯盟、勤王聯盟、全日本愛國同志會、東亞社、對外同志會、大統社、大道社、原理日本軍、帝國新報社、愛國青年聯盟、勤王會、政教社、回天時報社、大日本殉國會、大日本愛國義團、國家東亞聯盟、愛國社、愛國勞動聯盟等の諸團體を糾合して「國體擁護聯合會」を結成し「日本國民は國家が外敵に滅びずして寧ろ内應に亡びるの事實に鑑み、現在の非常時に處するに當り、先づ國本を搖撼する共産主義運動の勦滅を期し、苟くも彼等の非法運動が現行犯に該當する限り、國民逮捕權による合法的實力行使によりてこれを逮捕し、直ちに官懲に引渡す可し」の具體的戰術を樹て、運動を開始した。

關東本部専門部役員決定

關東本部においては四月九日の第十九回常任中央委員會の席上、左記の如く専門部役員を決定し陣營の整備充實を行つた。

- △總務部(部長)鈴木善一(主任)小松崎重△組織部(同)入崎博堂(同)白井爲雄△青年部(同)鈴木善一(同)小野義徳△財政部(同)池田弘(同)川崎清司△政治部(同)津久井龍雄(同)伊地和義一△宣傳部(同)齋地磐夫(同)影山正治△統制部(同)坂井六輔(同)佐橋尙政△機關紙部編輯委員齊地、入崎、津久井、鈴木、山本、白井、影山、千葉、小松崎

運動報告

▼國體擁護聯合會臨時脫退國民大會 四月十四日關西本部所屬の愛國勇兵隊主催による各派共同國體の國體擁護臨時脫退國民大會が大坂市天王寺公會堂において開催され、吉田關西本部委員長を初め關西本部幹部一同並に關東本部より八幡常務理事應援し、當局の無理難なる運歴に抗して大會を續行遂に中止解散となり主催者側幹部数名拘束されるに至つた翌十五日左記決議文を携へて代表瀬戸丸左馬市、岡田二二の兩氏上京各大臣を訪問手交した

◇決 議 齋藤老義内閣は日本が國際聯盟と一體不二の關係にある英佛米資本主義の手先國際勞動會議に對して再びおめおめと代表を送らんとするが(中略)この賣國的態度を全國民大衆の意志において鋭く糾弾し國際勞動會議臨時脫退を主張すると共にその代表派遣の陰謀を速かに中止されんことを政府に對して強く要求するものである。

▼東部府縣第一回大會 大日本生業黨京都府縣第一回代表者會議は四月二十四日午後七時より岡崎公園市公會堂において開催されたが、府警高課及所轄川端署から正私服百名を派して會場を取圍む物々しい警戒振り、この運歴下に代議員二百名出席、國歌奉唱の後、坂本光三郎氏開會を宣し、議長栗田金三郎、副議長河上史郎氏の下に書記林寛治政田清氏を任命して議事に入り左の議案を審議したが、當日は關西本部より吉田委員長、重岡、住田の兩常任出席した。

◇議 案 一、全國大會に提出す可き議案及代議員推薦の件(李榮福) 一、支部組織變更の件(近藤龍兒) 一、區區支部設立確定の件及その區の黨情報告(東山區方面藤村嘉代治) (伏見區方面林寛治) 一、農民勞動者小市民の生活擁護機關に關する件(西本健イチ、高橋利夫) 一、現内閣打倒に關する件(政田清) 一、黨擴大運動としての青年部擴張に關

する件(泉輝夫) 一、亡國極左黨粉砕に關する件およびメーデー粉砕(坂本光三郎) 一、大アデア聯盟促進運動に關する件(忠澤正雄) 一、新市會議員候補者推薦の件(増田正治) 一、愛國犧牲者救済運動に關する件(高橋利夫)

▼前權支部結成 四月八日正午同市八幡神社において壯嚴なる支部旗入儀式を舉行、午後一時よりいは劇場に前權支部結成大會並に記念演說會を開催。瀨下碧川氏議長の下に宣言の決定、経過報告、役員選舉等、一氣に議事を終了し、演說會に移り、支部の瀨下碧川、山崎品道、野口佐夫氏等本部より應接の鈴木善一、伊地知義一、白井爲雄、影山正治、阿部克巳の諸氏内外の客觀狀勢を分析批判し黨の政策方針を説明高調し愛國の氣みなぎり滿堂五百の觀衆に多大なる感銘を與へ午後五時半散會。散會後、本部員及び支部役員代表數十名は懇談會を開き種々慎重なる意見の交換を行つた、なほ當日決定された同支部役員は左の如くである。

△支部長山崎品道△理事長長島伊助△理事瀨下碧川、青木正太郎、本井孫七、藤脇久司△書記長瀨下碧川△會計小野良馬
演說會二 ◇(日時)四月一日(場所)大阪此花區榎香小學校◇(日時)四月三日(場所)阪神住吉吳田青年會館
◇(日時)四月七日(場所)大阪三軒家第三小學校◇(日時)四月八日(場所)大阪市南第三小學校◇(日時)四月九日(場所)大阪第三野田小學校◇(日時)四月十四日(場所)大阪大正寺公會堂◇(日時)四月十五日(場所)大阪安立町青物市場◇(日時)四月十七日(場所)大阪住吉區西寶寺◇(日時)四月十八日(場所)大阪布施町慈光院◇(日時)四月二十五日(場所)大阪發達第一小學校◇(日時)四月二十六日(場所)大阪東雲小學校◇(日時)四月二十九日(場所)大

五月

京阪地方の市議戦に七名公認

本黨關西本部にて大阪京阪兩市における市議戦に對し緊急選挙協賛會を開催し大阪より金森嘉平治(港區)藤崎哲(住吉區)宮崎源藏(旭區)堂前孫三郎(此花區)京都よりは井上正之助(上京區)柴田金三郎(上京區)西村力の各氏を公認し左の如き市議戦對策機關を設置し、選挙期間中における市民大衆の政治的關心と昂奮をねらつて黨の主義綱領を宣傳し黨の擴大強化を計ると共に一面既成政黨無産黨の構構を粉砕するにあつた。

市議戦對策機關

一、選挙總本部を黨本部に置く、一、選挙長は常任委員長 吉田益三、一、選挙長を補佐するため左の委員を置く、三木重次郎、川口吉太郎、岩瀬幸三郎、一、總本部に左の係りを置く(イ)文書係兼庶務係 大曲三郎、飯塚豊一、河村政次、住田紅浪、田中正雄、織田英、八木可生(ロ)情報係兼監督係 徳田宗一郎、狩野巖、小部信次並に各分會長以下若干名(ハ)連絡係、福宮健之、梶原重雄、高山英一郎、星井眞澄並に各候補者より一名專任の事(ニ)宣傳

保、大曲三郎、田川健吾、織田英進に青年部員若干名(ホ)交渉係 小部英男、雷岡晴孝、田川榮信一、櫻島誠、部長
 吉田益三、飯塚一、青野正一(第一班)山本千一、内藤大、野見熊太郎、松浦正一(第二班)狩野巖、小部信次、中井
 秀市、青野正一(第三班)榎原重雄、岡市正大、柿花啓正、中島藤三郎(第四班)小部英男、雷岡晴孝、新形則正、住田江
 浪(別隊)川口喜太郎、堂前孫三郎、榎本佐市、田中、中村雅治、内田誠哉、柴山南、柴田金三郎、西村力、井上、澤村、
 小野、武田喜一郎、高瀬、友永、澤下、吉田部長、永島一、各候補附として選挙本部より左の人員を配属す(此花區)堂
 前候補(藤田)山田克巳外一名(港區)金森候補(安田、小田部)伊藤武男外一名(港區第一分會)(住吉區)櫻島候補
 大西正男外一名(旭區)宮崎候補 産務關係外一名二、京都及一般の連絡係として飯塚豊一、雷岡晴孝兩名を充つ一、京都
 市議候補(東山區)柴田金三郎(左京區)井上正之助(上京區)西村力(連絡)柴山書記長

スローガン 一、本部は黨のスローガンを發表す(三大スローガン)一、政治の簡易化二、金權退一、産業の民衆的
 公營(スローガン)一、既成政黨打倒一、赤化主義撲滅一、地方財政經濟の整理断行一、民力培養制改革一、生産者保護法制定

五・一五一周年記念闘争

五月十五日、この日京市の日本主義、國家主義諸團體では一齊にそれ
 ぞれ独自の立場において五・一五一周年記念闘争を行つたのであるが銀座、新宿、浅草其他市内目抜きビル百貨店、劇場の
 屋上から「記念せよ五・一五一周年!」「逆賊財閥政黨を撃滅せよ!」「愛國犠牲者即ち釋放!」「皇道維新断行すべし!」
 等を印刷せる國民前衛隊のピラ及「血の五月十五日を忘るな!」「血をもつて獄中同志に誓へ!」等を印刷せる青年突撃隊のピ

ラが撒布されたが夜は國主權で記念大演説會が開催され鈴木、永富、津久井、山、伊知地、米持、小松崎、橋爪、赤松、
 大森、毛呂、大川の諸氏注意中止の運動と戦ひつ五・一五事件記念の大騒ぎを戦つたが同夜生産黨青年部淺草班の町田氏
 より「本大會を國民大會に変更し犠牲者釋放方を要路の大官に陳情せよ」の緊急動議があつたが官憲より中止せられたがこの
 頃生産黨青年部の前衛同志が會場の各隅より「亡國政黨、財閥粉砕」「政黨内閣絶對反對」「維新國民政權樹立萬歳」「獄中
 同志の愛國の未誠を生かせよ!」「全國民士奮起せよ!」のスローガンを印刷せるピラを撒布したため警官隊と亂闘となり生産黨、
 青年部山、橋爪、雨宮、長谷川、梅山の諸氏検束されたが演説會終了後所轄署に代表押しかけ検束者を釋放した。なほ當日、
 生産黨青年部では獄中の血闘五・一五事件同志の健康を祈ると共に皇道維新を速かに遂行すべく、皇軍數千の英靈をす頃國
 神社神前にぬかづき鈴木青年部長が一同を代表祈願言葉を述べた。

運動報告

▼城北支部結成 東京城北支部は五月七日豊島區池袋坂下會館において盛大に舉行された。なほ當日決
 定した議案並に役員は左記の通りである。一、宣言、政策、規約決定の件(朗讀)外山恒雄 一、地方問題の件(説明)中
 根伴男 一、支部運動方針確立の件 一、非常時對策の件 (イ、非常時黨費稅即時断行、ロ、利敵賣國財閥資本家嚴罰)
 (説明永富以徳) 一、愛國運動犠牲者即時釋放の件(説明小松崎重) 一、既成政黨政治粉砕の件(説明鈴木正吉) 一、
 共產黨及社大黨撲滅の件(説明中根伴男) 何れも實行方法は満場一致をもつて新任委員會一任に決定し次いで役員發給案
 委員長権健道氏より左の如く新役員の發表があつた。支部長 永富以徳 ▽理事 権健道、中根伴男、清水虎舟、船生利重、

原嘉一、小野惣三郎、本多喜一郎▽會計 樽健道、小川興二▽書記長 保留▽書記 鈴木正吉、外山恒雄▽常任委員 島岡晋次郎、國府田忍、鈴木正吉、小川興一、百瀬彰亮、生田且正次、外山恒雄、磯田常吉、富田眞平▽共產黨討滅國民大會 都下大日本主義六十餘團體を網羅して結成された國聯擁護聯合會主催の「共產黨討滅國民大會」は五月六日正午より芝公園廣場に於て祖國愛に燃ゆる二萬五千の愛國大衆参加の下に開催(一)宣言、決議の件(二)當局訪問の件(三)訪問委員選定の件(四)愛國行進の件を可決し各派代表の演説に移り、更に騎馬隊音楽隊を先頭としたる愛國大行進を行った。この日本黨青年部においては三百名の青年闘士を動員し、行進参加の中最も意識的な闘争を展開した

演説會 ◇(日時)五月四日(場所)大阪住吉 區須田公會堂(選舉演説) ◇同日(場所)大阪福島第一小學校(同) ◇(日時)五月五日(場所)大阪春日出會館(同) ◇(日時)五月八日(場所)大阪旭區古市小學校(同) ◇(日時)五月十日(場所)大阪石田小學校(同) ◇同日(場所)大阪福島第一小學校(同) ◇(日時)五月二十日(場所)京都東山區富士の家(同) ◇(日時)五月廿六日(場所)大阪中央公會堂(同)

六 月

瀧川京大教授問題糺彈

大日本生産黨京都支部聯合會では、紛糾に紛糾を重ね、共產主義者の囑

囑に委しつゝある、京大教授瀧川問題に正しい批判を與へる目的の下に六月五日京都岡崎公會堂に於いて批判大演説會を開催したが時節柄人氣沸騰し定刻前から早くも觀衆殺到して忽ち瀧川立錫の餘地なき大盛況で關西本部吉田委員長、復本佐市關東から來援の西郷隆秀、山正治野口幹氏等の諸闘士火を吐く熱辯をふるひ聲明書を全國に發表し日本主義者の態度を明かにした

聲明書

「刑法謄本」の發禁に端を發した所謂瀧川教授休職問題は今や重大なる社會問題として吾人の前に展開さ

れた、正に奇怪至極不可解千萬と謂はねばならぬ、學問研究の自由、大學の自治獨立が學園の内部においては容認せらるべきものである事は何人も是れを肯肯するところである而も一度其の範疇を越え所説を街頭の實行に移し、主張をイデオロギイ的宣傳に向ける場合は當然國憲の統制の下に置かるべきは議論の餘地なきところである、固より其の場合大學自治の如きは一顧の價値なき謬論である、瀧川教授が現行刑法に對して唯物論的解釋を下しこれを「謄本」なる形式を以て社會に發表し頒布せることは正しく現在の社會組織を破壊せんとする宣傳の實行である、是れをも尙ほ學問の自由と稱辯するか、彼が如き赤色大學教授の存在に對しては文部當局が執りたる處置は議論の餘地なく國家存立上合理合法である、抑も京都帝國大學は其の創立當時において東京帝國大學の御用大學的傾向に反撥して、研究の自由、學園の自治を標榜して起つた特殊の歴史を有してゐる、彼の河上共產黨教授を街頭に幾多の赤化學生を産出した所にも茲にある。

今回の瀧川問題に際して執りつゝある教授團及び學生の所謂大學死守の結束的態度こそ實に河上共產黨教授並に赤色學生兩學

に對する餘憤の發露であると共に、彼等の思想的根柢が如何に國家の存立を無視する共產主義的のものであるかを明かに證明してゐる、官立大學における學生一人當りの國庫負擔は一箇年一千餘圓に當る、この莫大なる國帑を費して赤色教授に糧を與へ、赤色學生を養成する必要何處に在りや吾等は斷乎として京大閉鎖を要求すると共に瀧川教授の辭職を勧告し併せて前途ある京大生の父兄諸君の奮起を促すものである。

齋藤内閣に經濟政策質問書を提出

本黨では先般「日本新經濟策」及「全國重要産業會社實業比較表」を刊行して黨の經濟政策其體案を發表し全國國民の熱烈な支持、共鳴を得、其の反響は遠く海外にまで及んだのであるが今回更に「經濟政策に關する質問書」六月五日付を以て齋藤内閣に提出した、その全文は甚大なるため省略するがその前文だけをここに記す事にした。

・謹で書を内閣總理大臣齋藤實閣下並に大藏大臣高橋是清閣下及び商工大臣

中島久萬吉閣下に呈す

明治の聖代に在つては輔弼の主腦たる大宰相が在職中に死亡せるすら 經無のことなりしに、大正十年原總理の崩及に國れしより以來加藤友三郎、加藤高明の兩總理は在職中に病歿し、濱口雄幸、大藏の兩總理大臣が刺客に擊殺されるに至つては有史以來未だ嘗て有らざる處の太不詳事なり、加之ならず大藏大臣たりし井上準之助氏を暗殺し内大臣牧野伸顯氏を襲

撃し財界の巨頭團琢磨氏を射殺したる如き險惡なる空氣皇都に張り人心常軌を逸するの傾向あり

一昨年滿洲事變の勃發するや、多年支那人の排日行爲に鬱結せる我が國民の憤りは茲に爆發して廢憲の軍事行動となり滿洲獨立國家成立となり、國際聯盟脫退となりたる等對外的問題に就ては舉國一致これに當り毫も憂慮すべき點なきの如し而して非常時來の聲は天下到る處に奔衝し國民精神に緊張を加へつゝありと雖も、想ふに非常時の聲は對外問題にあらずして内政の危機より發生せるものならんか、内政の危機は經濟界の破綻より起り、今や我が國民大衆は經濟的重壓に不堪、思想刻々に惡化し來りて將に測る可からざらんとするもの畢竟その因を此間に認めずんばあらず

此の時に當り當局諸公の對策果して如何、不肖良平が總裁せる大日本生産黨は夙に此の状態を憂ひ、日本新經濟策を講究し、帝國の現状は財政經濟の根本的改革を行ふに非ざれば救済の道なかるべきを説き、具體案を樹て、既に當局並に政治經濟界の諸家に明示せり、政府當局は企業統制産業會社整理の名の下に、徒らに起死回生の見込みなき事業會社の負債を擧げて興業銀行に引受けしめ、爲に同行は行詰り將に破綻を來さんとする現状にあり、蓋し同銀行は特殊銀行なるを以て破産閉行の運命に陥るの憂なかるべきも、その損害は悉く國民に負擔せしむることとなるべし、これを以て考ふる時は濱口首相井上總相等の奇論、或は天譴を被りたるものにあらずるか頗る疑なき能はざるものなり

而して現内閣諸公は濱口若槻内閣の經濟政策と何等違ふ處なき政策を行ひ資本家を救済する爲に、彼等が現有せる巨億の負債を擧げて國民に轉嫁せしめつゝあるは、愈に恐るべき結果を招來せん、且つ政府は國民に對して自力更生すべきを命じ

なから、その實國民をして更生する能はざる的の政策を行ひ、政府自體も亦た收拾すべからざる財政の破綻を招かんとするは矛盾の甚だしきものと謂はざるべからず、元來國民は自力更生するの外決して活きるべき道なきは古往今來政府が國民の負債を代償したる例なきを以ても知らるべし、いふ迄もなく國民は飽く迄自力を以て更生すべく奮闘努力しつゝあるものなり、然るに政府は尨大なる國債を起して資本家の損失を引受けこれを國民に負擔せしめらるゝに至ては、國民は自力更生せんと欲するも能はざるのみならず、寧ろ陷穽に落して石をその上に投せらるゝに等しきものにあらずや

吾が黨は茲に全國民に代つて自力更生の四字を著しく首相閣下に返納し、政府自體の自力更生せられんことを希望すると同時に、左の事項につき謹みて示教を仰がんと欲す、蓋し本黨は未だ衆議院議員たるものを有せず講場において質問するの資格なきを以て本書を呈し敢て魚腹を冒して諸公の回答を待望するものなり

昭和八年六月五日

大日本生産黨總裁 内田 良平

運動報告

▼内田總裁「皇道に就いて」を發表せる。六月十三日内田總裁著「皇道に就いて」の小冊子組版なる。これは先般發行した「日本國名義解」と共に養正義塾々生のために公にされたもので未だ總裁の病氣が致壇に立つことを許さないので譯義代りとして刊行されたものである▼中央委員千種直太郎氏死去 同志千葉直太郎氏は多年日本主義運動奮闘の爲、あらゆる苦難と戦ひ貫いて來た青年烈士であつたがその經濟的な不遇は遂に彼の肺を犯し六月十四日午後十時二十二

分東京上野櫻木町濱野病院で永眠するに至つた、同志は本黨中央委員にして最近まで關東本部の常任書記として書記局の中核的役割を果し、死の少し前から雑誌「國民運動」の編輯に専念してゐたのである▼血盟團事件公判を傍聴 日本維新史上に大きな役割を果した血盟團事件は六月二十八日東京地方裁判所においてその第一回公判を開いた、この日、本黨青年部員は前夜より徹宵し公判傍聴に努めたのである▼關大阪市長へ辭職勸告 六月二十二日午後三時、小部信次、青野止一、星井眞澄三氏は本黨青年部を代表して關大阪市長を訪問、子息が治安維持法違反事件に關聯せるを以て同氏の辭職を勸告した【勸告書】 我が光輝ある國體を變革せんとする不逞漢秀雄の父として大阪市長といふ公職に晏如たるを許さず、大阪三百萬市民のため百九千萬同胞のために自己の立場を正確に認識し潔く挂冠し謹慎せられむことを望む

演説會

◇(日時)六月五日(場所)京都市岡崎公習堂◇(日時)六月十一日(場所)大阪市港區石田小學校◇(日時)六月十二日(場所)大阪港區田中小學校(場所)大阪市岡第一小學校◇(日時)六月十四日(場所)大阪市岡第三小學校(場所)大阪九條第三小學校◇(日時)六月十八日(場所)徳島市新黨座◇(日時)六月二十三日(場所)京都伏見區西本願寺別院

七・八月

神兵隊事件起る

昭和七、八年の交は、日本の各層が行詰りに達し、加へて滿洲國の獨立と國際聯盟の脫退等に起因する國際狀勢の緊迫は非常時に國家狀勢に拍車を加へた、この未曾有の國難を前にして日本政治的支配層が何ら施す術もなす餘安樂居してゐる狀勢に不満を感じ、既に先發した血闘、五・一五の直接行動による國難打開の疾風の道を道統繼承して斷起したのが昭和八年七月十一日のいはゆる神兵隊事件であつて、これに参加した黨員は二十數名の青年分子であつた、本事件はその變遷目標に齟齬内閣の各閣僚並に財閥、政黨、社會主義陣營の代表者をそれぞれ選び、山口海軍中佐の擬定する飛行機と相呼應して地上決死隊が各々指定の目標を襲撃し以て危機に瀕する皇國日本の起死回生を計らうとする捨石的行動計案であつて、世に喧傳された如く、破壊班、殺害班の兩者を組織して、破壊工作に従事したものがそのまま生き残つて次期政權を云々しよう等といふ様な準備は少しもなく唯々維新行者として目前の皇國日本の危機を黙過するに忍びず斷起した無我無私の行爲であつたこの事件は直接間接に本黨へ甚大な影響を與へ、種々なる餘波を醸し出した、本黨の神兵隊事件による推移過程を當時の參考資料によつて正しく跡づけて見よう

神兵隊事件本黨關係者

△鈴木善一(當三十一才) 關東本部黨務部長△白井爲雄(當廿八才) 關東本部組織部主任△影山正治(當二十四才) 常任中央委員△片岡駿(當三十才) 常任中央委員△奥戸定百(當三十才) 常任中央委員△小野義徳(當二十六才) 關東本部青年部主任△花野井彌太郎(當二十八才) 關東本部青年部常任幹事△橋爪宗治(當二十七才) 關東本部青年部幹事△袴良雄(當三十五才) 關東本部青年部幹事(死亡)△雨宮信(當二十四才) 關東本

部青年部幹事△町田專藏(當二十七才) 關東本部青年部幹事△小松崎重(當二十一才) 關東本部青年部幹事△太田覺(當三十二才) 關東本部青年部幹事△阿部克巳(當二十一才) 關東本部青年部幹事△梅山滿雄(當二十一才) 關東本部青年部員△森川長孝(當二十三才) 關東本部青年部員△長谷川資(當二十五才) 關東本部青年部員(死亡)△星井眞澄(當二十三才) 關西本部青年部幹事△福島三郎(當三十二才) 關西本部所屬黨員△大西卯之助(當三十才) 關西本部所屬黨員

【其他生産黨關係者】 △手尾清輝(當二十一才) 國學院學生△中村武(當二十一才) 同△永代秀之(當二十才) 同【以上二十三名本黨關係者】

【本黨員に非ざる者】 △天野辰夫(當四十二才) 愛國勤勞黨中央委員△前田虎雄(當四十二才) 同△小池銀次郎(當四十五才) 茨城縣布川町長△安田純之助(當四十五才) 豫備役陸軍歩兵中佐△岩田一(當三十三才) 時事新報記者△田崎文藏(當三十四才) 同△村岡清藏(當二十五才) 愛國勤勞黨員△吉川永三郎(當三十三才) 新聞雜誌取次販賣△佐藤守義(當二十三才) 愛國勤勞黨員△黒江直光(當二十六才) 國家社會黨青年同盟員△正木昌之(當二十三才) 大阪愛國青年聯盟理事長△松下芳一(當三十四才) 大阪愛國自動車義勇隊長△白坂勳(當三十才) 神武會大阪支部宣傳組織部長△西山五郎(當二十三才) 日本國家社會黨大阪支部員△芥川治郎(當二十五才) 日本國家社會黨大阪支部員△藤井嘉夫(當二十一才) 大阪愛國青年聯盟理事△南方重雄(當二十一才) 大阪愛國青年聯盟員△橋本利夫(當二十三才) 關西大學生△増澤毅(當二十三才) 大阪愛國青年聯盟員△森本幸一(當二十一才) 大阪愛國青年聯盟員△本木恒雄(當二十三才) 同△坂垣操(當二十四才)

△白坂英(當二千四才) 神武會大阪支部常任委員△田中雅(當二千三才) 神武會大阪支部員△輪田留次郎(當二千三才) 同
 △浦澤利重(當二千六才) 愛國勤勞黨員△高橋梅雄(當二千三才) △尾崎海治(當二千二才) △黒澤次雄(當千八才) 刑備
 職工△中野勝之助(當二千才) △伊藤友太郎(當四千一才) 北方開拓同盟相談役△中島勝治郎(當五千六才) 漁業△山口三
 郎海軍航空中佐(死) △西口清七(死)

徳田、榎本兩氏特高へ出頭

本黨關西本部青年部長徳田宗一郎氏(二八) 同常任委員榎本佐市氏(三〇) は七月十三日朝、本黨關西本部に吉田益三委員長を訪れ神兵隊事件につき成行一切につき報告の後、徳田氏は午前十一時三十分、吉田委員長に伴はれ特高警備池田課長のもとに出頭し、岡田右翼部長から聴取されたが、榎本氏も吉田委員長同伴午後〇時五十分出頭した、同じく本黨關西本部青年部員小部信次氏は午後四時任意出頭した、なほ徳田氏は府特高課の取調終了後二十八日午前十時那須巡查に伴はれ検事局に出頭、吉村検事の取調べを受けてみたが、事件が警視廳を主體としてゐるので、大阪關隊の取調は警視廳に移されることになり、八月六日午後十時十分大阪警備隊で聴取書一切とともに特高課榎本刑事に附添はれ警視廳に伴はれた。

本黨の善後措置

神兵隊事件が突發した當時、母堂の一周忌法要に參列のため佐世保に歸省中であつた吉田益三委員長は法會の歸途福岡において事件の起りたることを知つて大いに憂慮、歸阪後直ちに服装を解く暇もなく上京し拘留中の同志に差入萬端の手配を済ませ、箱根強羅に靜養中の内田總裁を訪ね善後處置を協議したが、同席上内田總裁は青年部員の上をいたく心配され「見殺しには出來ない、責任は内田が負ふ」と暗涙を吞まれ吉田委員長も「責任は私にあります」

と兩國士、國の前途を思ひて暗然たること久しきものがあつた。なほ同志への差入れを擔任された鈴木一郎氏の辛苦は特に銘記するべきである。

七月十五日吉田委員長の歸阪を迎へた關西本部では午後五時より本部事務所緊急幹部會を開き吉田委員長以下近畿各支部分會の幹部出席、善後處置に關し協議の結果、左の件を可決した。

- (一) 七月十一日事件に關する黨としての態度は當分靜觀することとし時期を見て聲明書を發すべく、すべて吉田委員長に一任せり
- (二) 七月十一日事件に對し當局の黨員全般に對する處置は甚だ過激不當なる點多々あり、各自よりその實情を吉田委員長に報告してこれが對策に關して斷乎たる決意を進言せり

これら細正維新者の行動については一點疑義をはさむ餘地のないことであるが、惜しむらくは資金關係が不純なりしたため資金關係になんら關聯もない行動部隊までが當時種々誹謗された事は全く遺憾なことであつた。本黨では内田總裁の指令の下に本黨の所信を明かにするため七月廿四日關西本部委員長吉田益三、關東本部委員長池田弘兩氏の名をもつて聲明を發表した

神兵隊事件に關する聲明書

今回本黨の一部青年部員等中心となり他黨國家主義團體青年等と共に國防廳願を標榜して所謂神兵隊事件を突發せしむるに至りたる事態に對し、本黨は責任上事件の全貌を明確にせんが爲め暫く靜觀の態度を持し來りたるが尙ほ未だこれが眞相を蔽すに至らずと雖も、諸般の資料並に新聞紙の所報等により綜合推斷するに大體彼等は行詰まれる國家の現状打開の爲め根本的革新を期し敢然一身を挺して非合法的不穩の行動に出でんとしたるは殆んど疑なき事實なるが如し、該計畫は元より本黨幹部の與り知らざる處にして合法黨たる本黨の黨是に反することいふ迄も

なし。乍然縱令一部青年部員の間において密謀畫策せられたるものに過ぎずとするも苟も黨内より斯の如き行動を敢行しんとする者を出したる一事に對しては、本黨はその責任の重大なるを痛感し、茲に深く遺憾の意を表明するものなり。吾徒は國家の現状に對し、根本的改革の緊要を感ずるや甚だ切實深刻なるものあり。本黨を創立せる所以一に茲に存す、然してその行動の一切は立憲の大道に即し、國政の改革に緊切なる政綱政策を攻究し、穩健合法の順序を追ふてその目的の達成を期するものにして、觀察せしむる一部青年部員の所謂非合法的手段の如きは全く其志す所に非ず、常に青年部員に向つて深く戒飭すると共にこれが指導を怠らざりし所なり。然るに偶々今回の如き事件を發生するに至りたるは、黨の統制上における一大失敗たるはいふまでもなく且つ自ら國家社會に對する德實の免れ難きものあるを認むるものなりと雖も、觀て該事件の突發を見るに至りし因由を顧れば、政府當局およびその他指導的地位に在る者はいふまでもなく、社會全般においても亦其責任を負はざるべからざるの點多々あるを痛感せざる能はず。今や政界の腐敗墮落は其極點に達せんとし、政治の頹廢窮蹙彫視するに忍びざるものあり、現状を以て推移せんか國家の前途只暗澹たるのみなるは、蓋し何人と雖も否定し能はざる所なり。然るに政府當局は徒らに苟安彌縫を事とし、既成政黨及町界の人士もまた未だ派閥忿の權化たる境地より脱する能はず、意識的或は無意識的に國家の禍を累積しつつある實情に非ずやこの未曾有の國難に直面し、國體に即する一君萬民の政治を待望する公論の澎湃たる瀟瀟は這般の事態を語るものに非ずして何ぞ。此間において本黨は、創立以來一貫の指導原理を以て其政綱に則り飽くまで合法的方針に基き國政の革新を促進せしめんことを期し、政府當局及政界財界に向つて建議勸

告を累ね來りたり。現に最近においても「財界腐敗に關する意見」「金融財政統制に就て」當局に質すの書」等の如き何れも皆國家の經濟並に國民生活の基本として割切喫緊の急務たるべきものなり。民の聲は當路爲政家の最も心すべき所なり。然るに此等の熱誠を披瀝したる建議並に質問書は全然捨て、顧みざるの態度を以て遇せらる。而も此種の態度は今回のみに止まらず既往の一切といふも過言に非ず、現存の在朝在野上層政治家に國家を憂ふる一片の誠意有りや否やを疑はしむるものなり。寔に斯の如きは總て青年部員をして痛憤措く能はざるの衝動を興へ、彼等を驅つて、本黨幹部の合法的手段により國家の大局に與せんとするを甚だ緩漫なりと思惟し他に手段を求めんとするに至らしめたるや疑ふ可からず。天か命か、偶々本黨においては總裁の病を癒て醫養に従ひ、親しく黨務を視る能はざるあり、青年部員をして愈々益々焦燥を感ぜしめたるもの、是れ亦今回の舉あらしめたる一因たらずんばあらず、本黨は將來黨内における青年部員を嚴重に戒飭し重ねて斯くの如き事態あらざらしむべくその統制に意を用ふるは勿論なりと雖も政府當局はいふまでも無く政黨財界其他全般の社會においても亦茲に一大覺醒をなし、速に行詰まれる一切の現國政に根本的改革を施し健全なる國政の基礎を確立するにあらずんば天下の青年血氣の十は擧げて現状に悔焉たらざることを、彼の血盟團五・一五事件並に今回の事件等に俟つ迄もなくこれを抑ふ能はざる事實なり。假令本黨か一部の青年を戒め黨内の統制を確保するとするも、それは恰も強て噴火口を塞ぐが如く、今後何れの邊よりか何等かの様相において非合法なる手段に訴へ、國政の改革を圖らんとする者の接踵續出すべきは、到底これを避け得べからざるのみならず、斯くの如くにして已ますんば國家の前途寔に寒心に堪へざるものなり。

本黨は茲に今回の事件に關し、黨内青年部員の一部にこれを參與せる者を出せるを遺憾とし、謹んで徳責上、國家社會に對し、黨の統制上に不行固の點ありしを謝し、この機會において政府黨路並に政界財界その他指導的立場に在る天下の人士に對し、深甚なる考慮を促すものなり。

さらに神兵隊事件後の組織引締めと將來の闘争方針を決定するため八月十二日、關東本部樓上に幹部會を開催、吉田、八幡、池田、坂井、齋地の各理事出席し、かねて青年部から要求中の赤松重慶一派と提携し分派的行動を執りつつありし津久井龍雄氏および、黨の機關にかけず神兵隊同志の眞意を否定した聲明書を送した三宮維信氏の兩名に對する除名を決定し、事件後の立直しに努めるところがあつた。

尙血盟團、五・一五、神兵隊の愛國戰士に對する國民的な支持と共感は全國的に渦を巻きつゝあるが、この舉國的な熱情に統一を與へ、減刑、釋放、救済等をより効果たらしむ可く愛國戰士救援會を創設した。

【愛國戰士救援會宣言】

血盟團事件、五・一五事件の二判は、今全日本の大衆の最も深い關心を集めてゐる

この兩事件の先驅者達の言葉は、今や法廷を中心として廣い波紋を描き先驅者の思想は漸く全日本大衆自身の思想とならうとしてゐる、兩事件の被告が法廷において「國政の徹底的改革が實現しない限りかゝる事件は續發するに相違ない」と言明した時に、あたかもこの言を立證するかの如くに神兵隊事件の企てが傳へられた。誠に、日本が眞に理想的日本に立ち還らざる限りは、かゝる事件を繰り返すであらう。

既に五・一五、血盟團及神兵隊の三事件だけで、我々の陣營からは、百數十名の犠牲者を出してゐる。然も、國政の未だ

既五・一五、血盟團及神兵隊の三事件だけで、我々の陣營からは、百數十名の犠牲者を出してゐる。然も、國政の未だ

欠

MISSING

を勵むるため明治神宮に新調の訓練服に身を固め思想、經濟、國防の充實を祈願した。

演說會

◇(日時)七月四日午後七時半◇(場所)東京市荒川區町屋亭(會名)皇道維新演說會◇(日時)七月十二日午後七時半(場所)東京市浦の川區新興クラブ(會名)區政刷新國民大會◇(日時)七月二十七日午後七時(場所)大阪中央公會堂(會名)日本精神作興大演說會◇(日時)八月六日午後七時半(場所)東京豐島區池袋ビル(會名)非常時局批判愛國犧牲者釋放演說會◇(日時)八月二十日午後七時半(場所)神戸市下山手青年會館(會名)軍大時局批判演說會◇(日時)八月三十日午後七時(場所)八王子市關谷區(會名)滅刑嘆願市民大會

九 月

内田總裁「國是及國策私案」發表

本黨内田總裁は今夏來病氣にて御靜養中であつたが國事を想ふ熱情は寸時たりとも休まるなく病氣中にあつて「國是及び國策私案」を執筆しこれを全國黨員に飛檄して非常時對策指標とせられた。その全文は長きためにここに輯録は出来ないがその要項を掲げて置く。

(前略)茲に皇國の國是および國策の私案を草したる所以のものは、これを廟堂諸公並に政界の諸士に提出してその實現

を庶幾するが爲にあらす、今や政界人なく國狀窮蹙し、その危殆なること眞に寒心に堪へざるものあるに當り、良平默視するに忍びずといへども、久しく病んで我が大日本生産黨同人と親しく國事を談議する能はず、是において筆を執り所見を綴りて吾黨同人に頒布し、諸君の奮闘によつてこの案の如き國策國是の實行せらるゝに至らんことを切望するものなり、諸君幸に鄙意を了せられんことを。

大日本生産黨總裁 内田 良平

國是私案

(一) 神政復古建國の皇業を完成すべし。(二) 皇道を宣布し全人類を指導教化せしむべし(三) 皇道に立脚せる新政治を行ふべし。(四) 無道の國を廢絶するに足る實力を養成すべし。(五) 世界をして絕對平和ならしむべし。基本國となるべし。

國策私案二

(一) 皇道神祇官を設け、皇道を以て國教となし、各宗教教育を監理統制せしめ、皇道を中外に宣布せしむべし。(二) 政治機構を簡易化せしめ、個人主義に即せる制度法律を改廢すべし。(三) 金融を國營とし、國家經濟の基礎を産業に置き、公營的民業を盛んならしめ、官營は産業補助の事業に限定すべし。(四) 國家財政の大整理を行い、稅制の改革國債の整理をなすべし(五) 國防費は歳入の三割を以てし、他の國費を節減し、國民の負擔を加重せしめざるべし。蓋し預備に國費の三割を使用するは、日本土來の原則なりとす。(六) 無道の國を廢絶するに足る實力を備へ、世界の平和を確保すべし。

五・一五事件關係者減刑運動全國的に捲き起る

▲東京 大日本生産黨

では全國支部及び支部準備會に對し減刑上由書署名に關する指令を發して署名調印を集めつゝあるが、第三回分は陸軍側一萬四百四十四通は九月上旬迄に順次提出したが、海軍側の方は去る二十一日迄に(但血判を含め)一萬四千七百三十四通に達したので此分は生産黨、黒龍會を始め都下の五十餘黨團體を打つて組織せられてゐる團體擁護聯合會及び合して、第三回分十一萬六千四百二十一通は、各團體代表携行し二十一日朝明治神宮に參拜修祓を受け直に海軍省に出頭進達した。

▲大阪

大日本生産黨關西本部では常任委員會の決議により五・一五事件減刑祈願に減刑嘆願徒歩上京を企圖した。

それは青年部員二千名が生國魂神社を振り出したに、百四十四里餘を徒歩明治神宮に祈願し、宮城を遙拜し、それより陸海、司法の三大臣に嘆願文を提出せんとするもので、一日午前八時、上京祈願隊員と、見送りの黨員二百名は生國魂神社に集合し神主の櫻歌を多げ、全員國歌を合唱し終つて吉田委員長、第一班長重岡勢、第二班長小部信次氏玉串を捧げ次いで吉田委員長殿かに左の新願文を朗讀し、同委員長の發聲で聖謨萬歳を唱へ意氣揚々と同神社を出發したが東二丁の大島屋前において突然大阪府警察部菊池特高課長の指揮する五十餘名の警官隊に喰止められ、内務大臣の命なり中止解散せよとの強硬ぶりに一同警官と押問答したが再び神社に引返し本日は遺憾ながら解散するの外なしと悲壯な指令を吉田委員長なし隊伍を解き本部に引上げた。時に午前九時半、なほ重岡、小部兩班長は現場から檢束されたが、同日釋放された。

「祈願文」

度々畏みて大日本生産黨關西本部代表吉田益三 恐しく御前に參進し度みて神慮に憑ふ 神光の恵みに生くる神州日本は今や世道人心の弛廢極度に頽廢し綱紀の肅正に由なき風潮の卓立に難き一として邪基の安危に關せるはなく神

國日本の一大國難に直面す一昨日日支事變の突發を契機として明確に皇國の環境に災卵の危ふきに在るを覺知せる神の子等は老幼と雖も相俱に手を握り神明に縋り國難打開の爲め護國の鬼とならん事を期し必死たり茲於乎五・一五事件に連座せる殉國的志士達は上層の地位に在る者の忘國的專斷行爲に憂憤する能はざる所となり、熾烈なる愛國心は内外の情勢を檢討するに及び憂國慨世の至情は奔流の如く迸り一死以て國恩に報ひ奉らん事を期し現下の惡弊を一洗し皇統の隆盛と國家の悠久人民の安寧を希ふの餘途に國法に觸れ今や萬人の涙は津々浦々に漲り天神地祇の冥助を仰がんとするこれ等志士の犯せる罪は嚴として法の照す所なりと雖もその心情に到りては神明の照臨する所なり冀くばこれ等志士をして廣大なる神助を垂れ神裁を得せしめ給ふことを畏み度み申す。

その他横濱、横須賀、名古屋、京都、廣島、吳、北海道、台灣、山梨、前橋、金澤、八王子、福島等をはじめとして全國各地において五・一五事件關係者減刑運動が、祈願、街頭署名、血書嘆願、切髮祈願等種々なる方法を以て行はれ、日本主義の昂揚が全國的に醸成された。

- 演說會** ◇(時日)九月一日午後七時(場所)廣島市袋町小學校(會名)五・一五事件批判演說會◇(日時)九月三日午後六時(場所)吳市吳座(會名)五・一五事件減刑演說會◇(日時)九月四日午後六時(場所)横須賀市隣保館(會名)五・一五事件演說會◇(日時)九月七日午後六時(場所)浦賀市芝松館(會名)五・一五事件演說會◇(日時)九月七日午後六時(場所)大阪市東區東雲小學校(會名)既成政黨打破演說會◇(日時)九月八日午後六時(場所)横濱市戸部

- ラフ(會名)五・一五事件演說會◇(日時)九月九日午後六時(場所)横濱市神奈川會館(會名)五・一五事件演說會◇(日時)九月十八日午後六時(場所)大阪市天王寺公會堂(會名)瀛洲事變一周年記念演說會◇(日時)九月二十三日午後六時(場所)神戸市真陽小學校(會名)軍大時局批判演說會

十 月

擴がる神兵隊事件

神兵隊資金關係につき東京地方検事局堀橋検事、笹熊書記の一行は、警視廳第二捜査課岩部警部、木村、宮井の兩刑事を伴ひ二十四日午前七時十八分大阪着、堀橋等は直ちに大阪地方検事局へ赴き、眞野次郎、吉村照想兩検事と打合せを行ひ、岩部警部一行は大阪府刑事課を訪れ、治安係本田警部補、川口刑事の應援を求め重要打合せを行ひ、直ちに各方面に活動を開始し關係者を續々召喚取調べを開始した。

吉田委員長等召喚さる

關西方面における神兵隊事件の捜査活動は本格的となり二十五日午前七時十八分大阪着來阪した東京地方検事局市島、長尾兩検事らの一行は検事局を訪ひ挨拶をすますや直ちに北區若松町の法曹會館に陣取り、こゝを本據として阪神方面における神兵隊事件に關し、兩檢事は府刑事課治安係本田警部補らを指揮し疾風迅雷的活動を開始し、午前九時吉田益三委員長は東區岡山町の自邸より同行を求められ府刑事課に出頭した、同じく天王寺區鳥ヶ

辻町一五の自宅から宇田重一郎氏も喚問され、さらに前後して關係者數名も府廳に召喚された。

午後から福原檢察、小林豫審判事、市島檢察の一行により吉田委員長自宅の階上、階下を約二時間にわたり搜索、午後一時二十五分から岡野審判事、市島檢察の一行により東區北濱ビル内關西本部を搜索された。

吉田委員長歸宅さる

神兵隊事件關係者として、去る二十五日府刑事課に出頭した吉田益三委員長は、その後東京地方檢察局市島檢察の調べを受けてゐたが、二十八日夕六時十分委員長に限り、神兵隊事件並びに關西の資金照惑株等に對し全く關係なきこと明白となり、直ちに檢束を解かれ釋放され晴天白日の身となつた。

尙當日午後召喚された本黨關西本部西成支部長西成區今船町一〇中井秀一(二八)、同氏方大西卯之助(三〇)、東成區中本町四九三本黨關西本部理事小部信次(二九)の三氏は市島檢察、本田警部補の取調を受けた後同六時四十分留置された。

台灣へ大遊説

總裁代理八幡博實氏ら一行は十月十日着台、左の順序で演説會を開催した。

△台北十一、十二日榮座△台中十三日台中座△新竹十四日公會堂△台南十五日宮古座△屏東十六日屏東劇場△嘉義十七日嘉義座△高雄十八日高雄館△基隆十九日基隆座

關西本部産貯問題で起つ

本黨關西本部では日本産業貯蓄銀行に絡む四萬圓收受問題に關し「産貯問題批判既成政黨推選大演説會」を四日大阪中央公會堂に開催、左の決議をなし翌五日板野友造、榮安新九郎兩氏および關市長に手交した。

【決議】 今般日本産業貯蓄銀行破綻に關して貴黨代議士一松定吉氏の執りたる行爲は該銀行が特に勤勞階級の血と汗との結晶たる事を無視する火車泥的無情冷血なる反日本人態度にして言語道斷たる事は一般大衆の認むる處なり貴黨は是等反社會人的人物を衆議會議員として公認推薦せる重責を自覺するならば速に公黨とし社會に對し陳謝せられよ。右決議す

内田總裁著「天罰論」發行

天罰論は總裁内田良平先生が現時の世相を深憂せられ病中筆を執つて本黨同人に示された一つの教科書といふべき文である。天罰論とは人間常識の基礎論で未だ世人に知られざる政界幾多の眞相裏面史を擧げて之を實證せられ、因果應報の理即ち自然の道であり、その理を名づけて天罰と稱すべきものであると説き常識とは天罰を知ることなりと斷ぜられたものである。

運動報告

▼朽木縣支部 大日本生産黨朽木縣支部聯合會では去る二十四日午後七時宇都宮市蓬萊町の事務所にて幹部會を招集し秋の闘争方針その他につき種々協議し終つて幹部の改選を行ひ左の如く決定した。(委員長)佐藤猛吼(幹事)長)柳省(書記長)池澤雪造(會計)前田勇夫△宇都宮(常任幹事)鈴木達△同(同)杉田清作△同(同)鹽野維新△同(同)柳橋啓一△同(同)高木森藏△同(同)墨尾政利△同(同)西村一郎△足利(常任幹事)杉山二郎△同(同)關政雄△同(同)渡邊米吉△下都賀郡(同)福田時一郎△鹽谷郡(同)町澤茂亮△那須郡(同)中谷長藏△芳賀郡(同)田中常一郎△河内郡(同)渡邊武治△同(同)鈴木由盛△同(同)郷間淺吉△同(同)鹽谷芳△上都賀郡(同)福田正雄△同(同)大森修造▼盛岡支部 大日本生産黨盛岡支部結成大會は去る十三日午後一時から同市高松池畔高松閣において全黨員出席盛

大に舉行し、翌十四日は午後六時より市消防會館に於て支部結成記念大講演會を開催したが本部からは、香渡、瀬尾の兩氏派遣された。尙同支部の役員は左の如く大會に於て選舉決定された。【役員】(支部長) 笹川福松(理事長) 信夫源一郎(理事) 深田紀、佐藤良(書記長) 桑長左衛門(書記) 齋藤幹太郎(常任委員) 大坪衛干穂、村田福松、高橋久之丞、菊地長治郎、大渡吉太郎(委員) 安上秋實、平原嘉一郎、石田恒平、**岡山次郎**、細田寅吉、佐々木久吉、田村政吉、松下泳造、内藤甚平(特別顧問) 横川省三(顧問市議) 北太郎▼旭川支部 大日本生産黨旭川支部準備會は田島隆作氏等を中心に今春結成以來専ら組織運動に主力を注いで奮闘中であつたが、去る十月一日午後六時より同市一條通り十四丁目加藤氏方に代表四十餘名出席し旭川支部結成大會を開催し今後の闘争方針を協議したが、當日の決議と決定された役員は左の如くである。

【役員】(支部總裁) 田島隆作(執行委員長) 加藤藤郎(皇清普及部長) 津田源三郎(參議委員長) 但木龜翁(行政部長) 梨本天崖(國政調査部長) 中村勇(國策研究部長) 鈴木輝兒(産業部長) 山田増雄(文教部長) 原美能留(書記局長) 田中大吉(常任參議) 山口清志▼横濱支部 大日本生産黨横濱支部は左のスローガンを掲げたポスター五千を貼附した。一、五・一五事件愛國青年將校の精神を生かし皇清新日本を建設せよ。一、暴逆赤露の對日滿戰時工作を粉碎せよ。一、シムラ會商を一蹴し人道の敵英國を葬れ。一、ロンドン會議の失敗に鑑み國防の完壁を期せよ。一、日滿經濟の戰時編制による經濟の國家統制を斷行せよ。一、亡國既成政黨を即時解消せよ。一、逆賊共產黨掃滅を徹底せよ。

十一月、十二月

齋藤内閣打倒國民大會

△關東地方 十一月二十六日、芝公園において國體擁護聯合會六十八團體主催のもとに非常時突破の國民大會が開催された、非常時局を憂ひて集まる民衆約七千、學生團、三多摩の農民代表、民衆各府縣の代表らが長旗のもとに愛國の胸を抱いて、地べたにしいた荒庭の上でにぎり飯をほく張りながら開會を待つなど非常時突破に對する眞剣をみなぎらせた、警視廳からは原監察官總指揮のもとに五百名の整備警員隊が各要所々々をものしく固めるうちに午後零時四十分君が代の合唱が終ると紅白の幔幕をはりめぐらされた、壇上にはまづ岩田雲之助氏が立つて開會の辭を山内に響かせた、次いでわが大日本生産黨委員長池田弘氏國體擁護聯合會六十八團體を總代し熱烈なる愛國の叫びをあげた破れる様な拍手が起るとこの大會の主眼とする「老弱無能の齋藤内閣は即時解職すべし」「非常時局を處理しうべき強力内閣の出現を望む」といふ決議が烈々として朗讀された、この頃から會場の解けさは俄然燃ゆるやうな勢圍氣に變り即座に齋藤自相訪問委員が選ばれ瀬尾、磯谷君らの七名がその決議文をたづさへて首相官邸に向つた、かかる緊張の中に元官内大臣の田中光顯伯が壇上に姿を現はした、老い

て愈々かくしゆくたるその風貌はいやが上にも愛國の熱意に燃えて初冬の山内に熱を加へた、軍人有志代表法曹界代表、握り飯一つをにぎつて地方からはせました各府縣代表なぞの熱辯があり、最後に田中翁の吟聲にて聖壽萬歳を三唱して幕を閉ぢた。

△關西地方 十二月七日午後六時二十五分大阪市中の島公會堂においては、急迫いよいよ深刻なる國民の敵、金満財閥に阿諛迎合せる老義齋藤内閣を打倒し、これが既成勢力と血戦せんとする鋼鐵のごとき熱志の下に關西各地で行はれた國民大會の總決算として全關西國民大會は開催された。

各地愛國團體の前衛分子とこれを支持擁護する三千の警察によつて吾こそ第一戦への氣勢横溢し、時代の動向を無視する當局の嚴重なる警戒と中止の建議に討闘討滅無神内閣に對する血氣的決意はいよいよ強化されるのであつた。

大會は藤岡文六氏の司會の辭に始まり全員起立して獻酬裡に「君ヶ代」を合唱し、生産黨關西本部委員吉田益三氏議長に副議長は大口以都雄、村田村治の兩氏推され書記に吉野、上野、勝又、生駒の四氏任命し、次に柴山滿(京都)氏より十一月二十八日舉行された近畿國民大會の報告があり進んで地方代表の祝辭に入る、東髪紋服の山本國彦氏九州地方代表として肺腑をえぐる舌端火龍と化して萬場を熱狂せしめ京都代表西澤季親氏之れに續いて熱辯を振ひ神武會大阪支部の宮本純一氏は別項記載の宣言並に決議を萬津勝氏は陸海軍大臣に對する白書を朗讀し滿場の拍手裡に可決政田徳一氏は「宇垣、中野派政界進出阻止に關する決議文」を吉田格一郎氏(國社播州支部)は牧野内大臣辭職報告文を逸見爲太氏(京都)は若槻禮次郎男爵必上決議文を、宮本純一(大阪)は血盟團被殺滅刑理願書(但し文案は大會委員に作製方を一任)を提出し、それぞれ熱辯を以て朗讀滿場の聲援の下に可決する。

斯くて祝電朗讀に入り、頭山滿翁、内田良平氏を始め生産黨本部神武會、國社黨、愛國學生聯盟等以上數十通あり、以上にて國民大會は一先づ終了し聖壽萬歳を三唱して直に大演說會に移つた。播州代表末永氏を劈頭に、大阪、泉州、兵庫、京都、岐阜、神戸、中國、九州、北陸、愛知の各代表熱辯をふるひ最後に生産黨關西代表吉田益三氏等當局の彈壓を蹴つて愛國の熱情を吐露し午後十時半滿堂の白熱裡に幕を閉じた。

宣言 想ひを祖國日本内外の情勢に馳するに風に吹へる巨瀾は岸を洗ひ神州日本は今や曠古の一大危機に曝され國家興亡の岐路に起てるを痛感す、皇國の前途を憂へ皇道宣布の大義に烈々たる愛國の士一死以て眞日本の曉鐘を亂打するといへ共維新未だ來らず、而も滿洲國獨立と愛國的屈辱ロンドン條約は一九三五、六年をして祖國の興廢を決する一線とはなりぬれり歐米白人種の飽なき搾取に度れたる亞細亞民族と東洋平和建設者として露英米のたくましき野望に對し絶對唯一の擁護者たる皇國日本の危機は全被壓迫亞細亞民族の興廢を決する重大岐路なりなり、かゝる全亞細亞の運命を決する歴史的任務を負へる祖國日本は亡國財閥と賣國政黨政治の專横に農村は六十億の負擔に豊年にして飢へ死の家と化し、都市に職を奪はれ半色なき失業の洪水あり、陛下の赤子に半色なく飢へに泣けり、斯くて萬民塗炭の苦をなめる時、齋商の門に絃歌さんさめき汚吏節を賣り陛下の御稜威を蔽ひ奉り爲めに國民愚蒙愚化し國體を呪ふ逆徒は教壇に又裁判所をさへ汚すに至りて皇國の光り地に墮ちんとす、かゝる皇國内外の重大時局に救國濟民の任を負ふ齋藤内閣に國策なく、五相會議内政會議に成案を得ず益々國內に不安燥焦の氣を横溢せしに至れり。

惟ふに皇國內外の重大非常時局に直面し、聖上の宸襟を安し奉り萬民塗炭の苦痛を救はんとするは只皇國三千年建國の本義たる一君萬民の國體原理に基づく皇道維新の斷行こそ絶對唯一の路なりと確信す、齋藤内閣の嵐の日本を背負ひ祖示の偉業靈寶の性能なく斯くては祖國日本の前途亞細亞の將來暗澹たり、今にして全皇民同胞大衆皇道の大義に起たずんば何日の日か起たん、かゝる大義の下に我等は全關西國民大會を開催し無能なる齋藤内閣打倒の決意を廣く天下に聲明し以て全國民の皇道維新に對する決意を促がさんとするものなり、全皇民同胞大衆よ建國三千年の聖史に打ち貫ぬかれたる君民一如の皇道の大義に一死以て總懺起し稜威を世界へ宣揚せむ事を期せよ、右宣言す

決 議 一、皇國內外の情勢にかんがみ絶對公平なる強力内閣の出現を望む、非常時局を打開するの實力なき無爲無策の現内閣は即時總辭職すべし、三、有史以來未曾有の國難に直面せる九千萬同胞は團結を以て昭和維新を斷行し皇道無窮の國運を伸展すべし、右宣言す

皇紀二千五百九十三年十二月一日

全關西國民大會

▼東京城西支部の演説會 今や生産黨旭日旗は冲天の勢を以て全土に疾驅、強力なる國民運動の風に昂揚せられんとしてゐる、去る十月來中野區を中心に杉並淀橋等各地に銳意活動に組織運動を進めつゝあつた、生産黨城西支部準備會黨常任中央委員尾形榮造田原天牛兩氏を顧問に、中新井次郎氏を準備委員長に、小池賢一、宮地正次、和田文材氏等を準備委員として近く結成式の運びとなり既に宣言政策規約等の案を發表したが、其一回大演説會は非常時局批判の名において去る二十五

日午後七時より中野區橋場公會室において舉行した。

▼八王子市議に野口幹氏當選 八王子市における市議選開選されるや、全市愛國團體の代表として市民の壓倒的支持の下に立候補した本黨三多摩支部代表野口幹氏は十一月二日投票の結果最高點の榮譽を以て當選した。

▼京都府聯の役員改選 生産黨京都市部聯合會では去る十一月四日支部聯合會棟上において黨務總實を開催し役員選挙を行つた結果、これが承認を關西本部常任委員會宛提出してゐたがこの程左の通り新役員の決定を見た。府聯合會長吉田益三(本部委員長兼、評議員井上正之助、大崎啓良、柴田金三郎、河上利治、西村力、小林一太、成井頼佐、志摩野司、難波、一敏、矢羽田慶造、北邊利光、書記局、柴山滿(長)、殿村健一、高橋利夫、林寛治(常任幹事)、阪水光三郎、杉浦岩次郎、正田清、泉靜男、(幹事)藤田善次郎、澤村善代治、一宮新造、忠澤正雄、近藤龍兒、小寺卯之助、江尻正保、平井幸夫、府聯部局委員(辯論部)高橋利夫、正田清、(社會事業部)阪本光三郎、小寺卯之助、藤田善次郎、(青年部)澤村善代治、忠澤正雄、(統制部)泉靜男、杉浦岩次郎

昭和九年

〔皇紀二千五百九十四年〕

一月

新陣容の發表

神兵衛事件突發に關連して、黨の組織に動搖を來し危機に直面、内田總裁の

意を受け吉田委員長は新春早々上京、山王ホテルにおいて在京幹部と懇談を重ね、組織機構の強化をはかるため陣容を一新し東京に總本部を設立、その下に黨務局を創設し、最高議決機關として黨務委員會を置き、關東、關西兩本部を統轄することとし、左の役員を新任發表した。

〔新役員〕 總裁 内田良平 顧問 頭山滿 黨務委員長 吉田益三

(黨務委員) 八幡博堂、平館信夫、山本千一、柴山滿

(總務) 〓諮問機關〓萬年能久、小幡虎太郎、松田禮輔、池田武

立花良介 (黨務局相談役) 齊地賢夫、坂井六輔

〔關東本部〕 委員長 吉田益三

(書記長) 平館信夫、(書記) 原嘉一、小杉賢二、村田等、鮎澤俊男、(常任委員) 井上四郎、小澤廣次、稻垣善次

永富以徳、野口幹、野村義之助、久野一雄、山本昌彦、佐橋尙政、西郷隆秀、小島好祐、鈴木善一、庄司野利一、八幡博堂、平館信夫、(常任理事) 白井爲雄、影山正治、船生利重、小野義徳、橋爪宗治、片岡駿、奥戸足白、小松崎重、山下時良、藤三雄、原嘉一、本多喜一、小西政治、雨宮信、阿部克己、梅山滿男、東ヶ崎留五郎、花之井彌太郎、徳田新策、江川清雄、白瀬常雄、中新井次雄、小杉賢二、渡邊龍馬、大串初太郎、小西嘉雄、小原勝四郎、鮎澤俊男、村田等、能倉定雄

〔關西本部〕 委員長 吉田益三

(書記長) 柴山滿、(事務長) 飯塚豊一、(書記) 河村政治、田中正雄、大西眞砂夫

(常任委員) 三木重次郎、飯塚豊一、大曲三郎、徳田宗一郎、草野正造、馬淵吾一、川口吉太郎、榎本佐市、西村力

小部英男、山本千一、柴山滿、伊藤武男、梶原重雄、狩野巖、植花啓正、福富健之、内藤太一、河村政治、永島義高

(常任理事) 住田徳市、青野正一、村田貞次郎、田下榮信、奥村義雄、中井秀市、秋山延市、重岡靖孝、金森嘉平、

次、武田喜一、山本喜代志、吉川與七、今川幸一、杉浦行次郎、泉靜夫、吉田勇造、鶴田哲、梅崎若吉、橋豊吉、鹽見熊太郎、藤原伊次、上野吉松、大西眞砂夫、政田清、豊西楠一

『打倒議會政治の猛運動を起す』

議會は第六十五議會實際内閣の第二年である資本主義

的な政黨政治の最後の狂奔は益々露骨になり議會政治の無能暗悪は國氏の信頼を失墜し、「政黨政治即時打倒」は大衆憤懣の聲として街頭に充ち斯くの如き情勢下に九年を迎へた、吾黨としても之の押寄せ来る輿論の嵐に對應し一月十二日東京に

最高幹部會を招集し、對議會策を議し、二十一日對議會闘争に際し「滿天下に擴す」の聲を發表した本年における運動のトツ
ブを切つた、同時に黨内組織機構の改組をなし陣營を整備し全國各友誼團體に對しても總裁及委員長の名を以て挨拶状を發し
又總裁の手に成る「政民兩黨に勸告し併せて愛國の土に擴す」なる小冊子(五十頁)を發刊、全國各政黨陣は勿論、朝野に
撒布し政黨政治の墜碎に拍車をかけ、吾黨存在理由を宣明した

議會對策委員會を設置

一月十二日の最高幹部會において議會對策委員會設置の議を決定しその
委員として吉田委員長を初め八幡久野西郷氏等九名の委員を任命數回にわたり種々協議を續け、前の聲明書を作製、二十一日發
表をなし、議會政治の徹底的刷新、齋藤内閣即時打倒を期して種々な運動を通じて奮闘を續けた

對露同志會に發起人となる

一月二十三日、對露外交の重要性はますます、民間側の認むる所となり國民
外交の必要を叫び、國民の輿論は相當激化されて行く傾向あるにより、全國愛國諸團體はこの種の統一機關として對露同志會
を結成せんと吾が吉田委員長はその發起人の一人に推されたり、從つて吾黨もその中心となつて對露問題に協力する事となる

京都驛事件と吾黨

一月八日の夜、突然京都驛三番ホームに惹起せる悲慘事に對し、政府及關稅當局は、その
遺棄者及遺族等の慰問その他の取扱ひについて頗る冷淡にして、京都市民は勿論、全國民のこれを不満とせざる無し、ここに
おいて吾黨は率先してこれを取上げ、一月十三日緊急幹部會の決定により、警備文を、鐵道大臣及鐵道局長に發し、その善處
方を要求し、又被害者各家を訪問し慰問につとめた

地方分營の動向

▼東京城東支部は、一月二十日東京市政の淨化運動を起し、文書に演說會に其の效果を集めた
▼同城北支部は一月十五日市電の特料撤廢の爲めに、演說會及陳情運動を初めた

二 月

尊氏禮讚の中島商相を撃つ

商工大臣中島久萬吉男爵の逆賊足利尊氏禮讚問題起るや、吾黨
は逸早く、その叛逆思想を粉碎すべく闘ひの火蓋を切つた、即ち兩本部の緊急幹部會は斷乎糾弾の決議とともに實行委員を擧
げ(佐橋、永富、小澤、山本、鮎澤)二月二日、中島商相及これと連帶責任者たるべき齋藤首相、山本内相に自決勸告をなさ
しめ、なほ湯淺首相に對しても皇室の藩屏としての華族中島を斷乎處分すべしの決議文を手交、進言せしめたり、然して之の
吾黨の牛鞭に續いて全國的な猛運動と化し、遂に中島商相をして辭職せしめ再び政界に起たざるの誓ひをなさせしむるに至る

更正審議會を設置

一月八日 現存の政治機構とその運用の拙劣と政策の貧困に對しこれの刷新を目的として
關東本部内に更正審議會を設立し、國防、外交、産業等諸 對策を審議提供す事とし吾黨政策を中心として、二十三ヶ
一項目の對策を建て、當局に提議し、その實現を迫つた

愛國戦士救援會の設置

二月六日 當時政黨財閥の積弊に對し、これが殲滅を目的とする義舉相次いで起る即ち濱口首相の暗殺、五・一五、血盟團、農民決死隊、神兵隊等々である、これ等は極度に愛國陣營を刺戟し、自身義舉に投じたる同志達及その遺族に對する救援運動の如きも統一と組織の下において盛んに伸展いたす可きであると吾黨は率先して愛國戦士救援會を組織し、遺族救援奉人減刑嘆願等に盡す處あり、但しこれは黨自體の運動とせず、事務局を改造戦線社内に置き委員會を組織して特殊運動とした

農村救済で陳情

二月七日 吾黨は永い間窮乏農村の救済に専念してきたが、本年殊に東北地方の不作による疲弊甚だしく、これを救済すべしと同地方各分黨と相呼應して、各農民嘆願書調印を集め救済に亘り當局に陳情嘆願した。

臺灣統治の改組運動

二月十日 南方國防の使命を擔當する台灣總督は必ず武官たる可きが至當なるに現在まで文官制を取り來りたる爲めに幾多の失敗を繰返した、吾黨はこれを改革すべく台灣支部と協力して猛運動を開始し、相當長期に亘つて抗争を續けた、この運動は實にヒットに價するものであつたので日ならずして吾黨の主張通りに改革せられ現在の武官制と改めらるゝに至つた。

全アヂヤ民族大會準備會に参加

興亞運動の新しい動きとして全國民の注視を集めたのは大連に於て催されし全アヂヤ民族會後備委員會であつた、即ち二月十一日より四日間にあつた、大連市大和ホテルに開

全アヂヤ民族代表六十餘名、民族として實に二十一族團體として四十二ヶ團體の各代表を以て組織されしものであつた、亦い間白人帝國主義の侵略と搾取に死闘を續け來たりし吾等全有色民族の憤激の激流は合して悲憤なる決意となり、搾取無き大アヂヤの樂土建設へと其の固き結びは白人への抗争陣として堅められねばならなかつた、吾黨は本來大アヂヤ主義を以て眼目として來た關係上、之の然へ舉がらんとする大運動を支持すべきは當然で有るとし、大連なる準備世話人會よりの招待懇談もあり、之に應じ参加を約した、然して最高幹部會の議決により總裁の許しを得て吉田委員長を黨代表とし、又諸團體よりの希望もあり、即ち西日本各愛國諸團體代表も兼ね、更に黒龍會代表として徳田宗一郎氏、小部英男氏之れに隣員として柴山滿、奥村義雄の諸氏を選定特派いたす事となる、一行の出發に際し吾黨は内田總裁の名を以て聲明書を發表す其の内容は

一九三六年の國際危機は實に全アヂヤの民族の運命に懸る、吾人はこの民族的難關に對應す可く全アヂヤ民族の組織的結合を絕對必要となす、この意味において全日本大衆諸君の總意的支持を乞ひ重囀この大會に参加せんとす、吾等は日本人本來の使命とする大精神を實際發揚す可く、白人のアヂヤ侵略策に最後の處断を降さんと決意し開催せられんとする大會の効果を諸君と共に念願するものである云々

一行五名は二月七日夜五百餘名の黨員同志各團體代表者等の盛なる歓迎を受け、梅田驛を立ち十日朝、思ひ出深き遼東半島の一角大連驛に着、之又多數の同志に迎へられ會場なる大和ホテルに入る

二月十日午後二時 小委員長會 (各國別提案審議委員會) 各室別

これに再算より、吉田の案として

(一) アヂヤ經濟ブロック樹立の件 (二) アヂヤ民族の宗教融合運動促進の件 (三) アヂヤ労働賃議確立の件 (説明略) 一

一、アヂヤ經濟ブロック樹立の件

亞細亞民族は亞細亞に於て生産する物を以て生活すべき經濟上の聯盟を組織し歐米經濟の影響を被ざる基礎を建設する事、本案は亞細亞の經濟聯盟を提唱するものにして、その企圖する所は別出、亞細亞の精神的結合案と相俟ち、亞細亞各民族の眞正にして完全なる結合、亞細亞民族の世界における正當なる優越、世界人類幸福増進の實現に在り。現代における亞細亞民族の總數は約十一億四千五百萬人なり、その率は實に世界人口の半を越ゆ。又亞細亞の全面積は四千四百二十萬平方呎にして世界最大の富源國といはる、南北アメリカを凌ぐこと約二百萬平方呎の廣域なり。天賜如斯にして尙今日歐米經濟の桎梏の下に蹙動するが如き經濟生活を營むものは何ぞや、經濟組織發達せず、資本足らざるがためなり、經濟組織發達せず、資本足らざるは、互に有無相通し親和交易せざるを以てその第一主因となす、蓋し相融和して親和交易せば互に重なり、交々進み物資文明の基礎並に生じ、その發展亦並に起るは自然の理なればなり、然るに我等各民族互に融和交通せず寧ろ、大特立して他を排し、却つて箇々西方東漸の大勢に壓せられ來りしは、近世數百年のわが亞細亞の歴史にして、天與の物資と市場とを歐米人に供してこれを我等亞細亞民族に塞くは今日のわが亞細亞の現狀にあらずや、されば我等亞細亞民族は今において須らくこの歴史と經濟の大法に省み、決意聯盟して、互に相融和交易し、白人帝國主義のアヂヤ市場における版圖

に抗爭し、先づ我等の經濟的自存自立を確立して更にその天與の經濟條件に基き以て世界經濟上における發展を期せんには歐米の經濟的影響、又は干渉の如きは自からその間にすべて雲散霧消するに至るべく、その擧取的行動の如きは世界經濟にその跡を潜め、我等亞細亞民族の自由親和の交易代つて以て世界經濟の大宗たらん、これ我等亞細亞民族の幸福のみならず亞細亞民族による世界人類の幸福なり。以上塞に一片理想の説出提唱にあらず。現時における我日本民族の歐米人に對する經濟的活躍をみよ。而して更に全亞細亞民族提携して世界經濟上に活躍するの目を想ひ見よ。その使命の如何に重大なるかを察知し得べきなり。

二、亞細亞民族宗教融合統一の件

全アヂヤ民族の融合統一を企圖する以上、各民族の持てる精神文化即ち宗教を尊重し信仰の眞同によつて相容れざる陋風を除き精神結合を計り、亞細亞文明を建設せむ爲め宗教の融合統一運動を提唱す。

本案は亞細亞民族の精神的結合を提唱するものにして別出亞細亞經濟聯盟發議案と相俟ちて、亞細亞全民族の完全なる聯盟、融合、亞細亞の世界における指導的地位および人類平和の基礎の確立を實施せんとするものなり、蓋し人類社會にありて、信仰の如く各自の人生を支配するものなく、又各民族間においては宗教の相違程、相互の諒解協同を妨げ反目嫉視を生ずる虞あるもの渺なし、古今東西の史實は歴々として如實にこれを證明す。而も各様の信仰、各種の宗教その因つて淵源する所は、皆共にその最大支配者に對する渴仰、憧憬および感謝に他ならず、又その目的とする所は、すべて皆各自の幸福

同胞の平和にあらざるはなし。然らば即ちこの大理に鑑み各民族の致せる信仰を互ひに尊重し、宗教の異同によりて相容れざる陋風を除き、互ひに親和して將來自から歸一する所に俟つべきは、これ一般人類の最大聖務なるのみならず、殊に多種多様の宗教を有する我等而細而各民族最重の責務にして我等は先づ斯の聖務責務の遂行によりてこそ、世界最も多時なるの秋において、有史以來眞に最初の大團結の基礎を建設することを得べく、亞細亞新文明の建設・亞細亞の世界における指導的地位および全人類の平和、皆亦實現するを得るに至るべし。是れ本建議案提出の理由なり。

が提出審議され、いづれも満場拍手裡に可決議案研究委員會の審議を経て本會議に移さる、その夜は各國代表の懇親會あり。

二月十一日午前十時半本會議 (一) 閉會 (一) 報告事務總長石原重高氏、(一) 會長雅戴鮑觀澄氏(元滿洲國駐日大使)

(一) 官誓 (一) 議長雅戴伊藤武雄氏、(滿鐵有志會代表) (一) 副議長雅戴吉田益三氏(日本愛國團體代表) 同呂作新氏(滿洲國代表) 同サハイ氏(印度國民會議派代表) 同張錫樹氏(中國有志代表)

各任命挨拶の後、官誓し引續き議案研究委員會、大會對策委員會に分離、小委員會開催午後六時半より大連市主催による、一民族代表歡迎會に出席、大連市會議員その他實業團體と共に二百餘名の大宴會場において來賓代表として吾が吉田益三氏は主體側への感謝の辭を述べられ、後に市長の「アジア民族會議萬歳」發聲に對し「大連市萬歳」を吉田代表發聲され歴史的な會合を終る

十二日は午前十時半本會議續行 (一) 協議(議題)——大會委員會及議案研究委員會提出議案の) 審議午後五時半閉會式

(一) 大會經過報告石原事務總長 (一) 宣言及決議の發表 (一) 會長挨拶 (一) 萬歳三唱 (一) 閉會の辭午後六時半より大連市立協和會館において大演說會を以て大會の一切を終る

此の大會において吉田委員長は、日本愛國團體代表として又副議長として歴史的な會合に提議されし二十四議案の重要提案に當り殊に小數民族團體よりの提案に對し之れが通過に盡力され重大な役割を果したのであつたその翌日一行は旅順の戰跡を訪ひ英魂を弔ひ奉天を經由歸路につく。

亞細亞民族會議報告大演說會開催 大會を終了歸阪せる一行はその報告を兼ねて二月二十一日夜大阪

中之島公會堂に「アジア民族團結促進大會並大演說會」を開催、大會出席の吉田代表一行を初め、インド代表、馬來代表、シヤム代表、中國代表、安南代表、滿洲國代表等を加へ、大會の感想とアジア各民族の使命等各熱辯を振ひ大盛況であつたその後大會報告書を發刊し各方面に分配す

地方分營の動向 ▼群馬支部黨勢強化運動(五日より)▼東京市内各地に黨擴大のための演說會開催▼北海道各

地、山形縣下の大遊説(二十日より)▼大阪市港支部の結成大會等あり(二十六日)

三 月

中川台灣總督に辭職勸告

三月九日先に記載の如く台灣島政における文官政治の弛緩は益々甚だしく更に最近台灣第二中學校内に發生せる 長くも明治今上兩陛下の御眞影に對し奉りし逆賊的不敬事件は斷じて忍容すべきものに非ずと吾黨台灣支部は即刻その責任者及中川總督に對し自決及辭職を勸告し之を全島民の輿論化に導す

東京市政の積惡を糺彈

三月十二日東京市政の政黨對立による 罷職失政百出に對しては先きにも屢々吾黨各支部の痛感するところであつたが又復特別所得稅、隔人稅の二種は勤勞小市民搾取の惡稅であり又市廳舎の月島移轉に對しても、五百萬市民は絶對反對を叫んでゐるに就て併せてこれを提げ市會に對し反對運動を捲起す事となり、淺草支團、城北、城西の三分會聯合の市政刷新委員會を設立し五名の委員を擧げて、ピラ戰演說會等效果ある運動を開始した

兩本部の擴大は國會議員會 關東は九日關西は十八日いづれも黨の新組織による最初の擴大委員會を開催、新組織と新しき運動方法による實擴大の協力を計つた

大滿洲國の建設祝賀 三月一日長い間吾黨初め各國僑の熱望して止まなかつた滿洲國の建設成り、皇國天業の達成なりと信し欣快に堪えず吾黨は吉田委員長の名を以て滿洲國總領事宛、祝詞を送つた

地方分營の動向 ▼東京漢分支部三月二十八日 兩毛支部三月二十六日宮崎支部二十一日の結成▼日本主義發揚同盟三月五日結成▼長野縣横田府支團、高崎支部の演說日

四月

第二回愛國勤勞祭舉行

四月三日大阪中ノ島馬場に於て第一回大阪愛國團體聯合主催なる勤勞祭を舉行、其日午前十一時参加人員二千五百餘名、司會者吾黨代表山本千一氏開會を宣し國歌奉唱、國旗掲揚の後、日本愛國團體協議會代表として吾黨の吉田委員長を指揮者となし、第一會場における激勸演說には吾黨より青野正一、住田徳市兩氏を立たしめ、終了後市内行進に移り、第二會場たる天王寺公園に至る同所にては吾黨より山田、狩野巖、奥村義雄三氏を代表として演壇に立たしめ數萬大衆を感服した

此の日、吾黨よりの参加人員六百八十六名にしてその役割を畢ぐれば、飯塚豊一(勤労係長)山本千一(準備委員長)小部英男(連絡委員長)伊藤武男(交渉委員長)狩野巖(愛國委員長本部委員)飯塚、柴山の諸氏、七各部隊の隊長としては中井秀市氏、前田伊佐吉氏、橋豐吉氏、仙田茂吉氏、豊西楠一氏、前田武一氏、金森昇平次氏、山本喜代志氏、渡邊一哲氏、吉川與七氏、奥村義雄氏、善斗錫氏等の諸君であつた

函館大火災被害市民へ慰問運動

四月六日北海道函館市の大火に災害を被れる市民諸君を救済すべく關

西本部においては各支部の盛力を得て慰問袋の作製をなし、数日間に、十八個の大紙包を造りトラック三台に積載して、被害地に發送これに書記局より河村政治氏附添ひ、函館市役所に引渡し現地を慰問、視察して歸返す(六日)その他關係保險會社および鐵道省等に對し被害地および被害者に對し最善の方策を講じ遺憾の點なき様數回に亘り進言、要請した、その後被害地より百數十通の感謝狀を受取る

大阪羽田スレート工場の爭議應援

四月七日吾黨湖濱産業勞動同盟の手によつて、大阪羽田スレート工場の勞動爭議が日本主義的に指導され罷業十日の後、勞動者の全要求が貫徹され解決を見る

吉田委員長内鮮融和「相和論」の總裁に就任 十二日大阪北部一區に亘る廣い地域に住居する牛島同胞をして眞に皇國を知らしめ吾等と固き親善の手を握り合ふ機關として、相和會を結成會員(六千五百餘人)その指導には吾黨その責任を負ひ總裁に吉田委員長を推戴した◇郵總理に歡迎文手交 四月十三日大阪ホテルに滞在中の郵滿洲國總理に對し、在阪愛國團體協議會代表として吾黨より徳田、山本、小部の三氏を参加せしめ、總理と懇談し歡迎文を手交した

地方分營の動向

▼前橋支部黨員大會(四月二十一日) ▼堺支部の結成(四月二十九日) ▼津沼會、親國會、日本護國黨、愛國親交會等吾黨に加盟す

五月

吉田委員長長邸の移轉 五月十五日五・一五の記念すべき第二周年に、吉田委員長邸は岡山町より現在の天王寺區勝山通に移轉せられ同時に、集義塾、黒龍會、關西支部も同所に移る◇日關會商代表を激勵 十九日帝國代表として日關會商に出席の長岡主席に對しこれを激勵し吾黨の有する意見を披露すべく黨代表として、狩野巖、住田徳市兩氏を遣し、甲子園ホテルにおいて長岡主席と會談せしむ

齋藤内閣打倒國民大會開催

二十三日、天王寺公會堂、二十八日、中ノ島公會堂において齋藤内閣即時打倒の國民大會並大演說會を開催、帝人問題の内容暴露と閣僚の連座による責任者として齋藤内閣の自決を促し大いに輿論の喚起につとめた、然して兩所の決議文は速刻首相宛郵送す

地下分營の動向

▼京都支部五・一五記念闘争として、全市に、ポスター、ピラ戦を敢行數名の檢束者を出す
更らに、一回の演說會を開催▼盛岡支部黨員大會(五月十五日)▼東京城北支部五・一五同志の減刑運動▼群馬縣各支部聯合、自治改革新の市民大會

大阪省線下市場の撤廢運動

九日大阪市城東線高峯下市場の撤廢運動の火蓋を切つたそれは省線高峯線下に私設市場を急造これは代議士府市議員等と商人連の利權プロッタの、インチキ市場會社にしてこれによつて近傍の市場、小商店街の商人は既得權生活權を脅かされることになり殊に最も手近に存在してゐる私設小橋市場の如きは目も當てられぬ慘狀であつた、こゝにおいて其の被害者連は結果してこれに抗争すべく吾が關西本部に聲援方を懇望し來たので吾黨はこれが真相調査研究の上、新市場の開設の陰には多分の疑惑が伏在しこれによつて多數の既成政黨者連が利權を中心し暗躍してゐることを突留めたので斷乎これを暴露排撃し被害者たる近傍市場及小商人を擁護し政黨人の積弊を天目に曝さんと起ち上つた、こうして其の對策協議會を設け、關係當局即ち商工省大阪府、市廳鐵道省等に對する抗争と共にポスタレ演說會町民大會等を隨所に催し正義の輿論を高め堅陣を造り約三ヶ月間に亘り闘ひ續けたる結果、全面的に一切の要求を貫徹され新市場は撤廢され大勝利を得たその後被害商人は自發的に一信會なるものを結成し吉田委員長を名譽會長に推戴し黨加盟團體となる

兩本部の擴大協議委員會

全國黨代表者會議を前にして關西では七日中ノ島公會堂において、東京では十二日赤坂三會堂に擴大協議會を開催し來らんとする大會への準備をなし又同協議會の名に於て「非常時局に對する宣言」を發表し齋藤内閣への不信任を表明し總辭職の勸告文を發送した

結成三周年記念全國代表者會議開催

六月二十八日立憲第三周年を記念すべく東京

赤坂三會堂に全國黨員代表者大會を開催した

二十七日午後一時まづその準備委員會を開催し、第一小委員會（政策並に運動方針審議）（委員長）平館信夫（關東本部書記局長代表）山本千一第二小委員會（黨則並組織審議研究委員長）柴山謙（關西本部書記長）黨務局代表八幡博堂、新

くして議案三十一件の豫備審議を了し明日日本大會への提案を整理す

二十八日午前十時三會堂大講堂に於て頭山顧問、内田總裁の下全國代表五百餘名の參集を得て大會を開催まづ山本千一司會者となり開會を宣し、吉田委員長に推舉せられ議長挨拶の後關東代表野口幹、關西代表小部英男氏地方代表山下清八氏の挨拶あり終つて、内田總裁の訓辭來賓代表祝詞として國體擁護聯合會中村新八郎氏、大同聯盟金子力三氏、陸軍中將高田豐樹氏、神武會代表永井了吉氏、愛國政治同盟小池四郎氏其他の挨拶を了し本部報告八幡博堂氏關東本部報告平館信夫氏關西本部報告柴山謙氏あり議事に移る

議事

一、黨則一部改正の件説明河村政治(可決) 一、出征兵士及遺家族慰問に關する件説明大西文依(可決) 一、陸海軍記念日靖國神社大祭當日を國旗掲揚日として制定要請の件説明阿部遜(可決) 一、農山漁村問題三件、八支黨聯合案説明山下清八、瀬下碧川他(若干修正後及決) 一、現内閣即時打倒の件説明竹本雅彦(可決)

等數件の地方議案の検討ありその間關西本部の狩野巖氏より附帶勸議として現内閣辭職勸告の件提出あり大會は即時實行委員を擧げて(決議文を作製)内閣各省を訪問の上各大臣に手交すこととなり左の諸君指名さる瀬下碧川、水谷爾泰、山下清八、中井秀市、松井正光、田上愛信、林貫治、渡邊豊、飯塚豊一、佐橋尙政の諸氏

【決議】 現齋藤内閣の惡政は益々現下非常時國難を激化せしめ國家を案り國民を死線に導き其の慘狀實に言語を絶せり吾黨はこゝにおいて不忠不逞なる現内閣の即時辭職を斷乎要求す、右決議す

昭和九年六月二十八日

大日本生産黨全國代表者會議

議事はさうに進んで政權獲得運動の促進に關し青野止一より緊急提案あり議長はその趣旨を頭山顯問、内田總裁に述べその具現に盡力致すであらう事を述べ別に裁決せず

一、労働組合法制定、工場法改正の件、東京士高従業員組合他一支部提案説明(本田喜一郎)之は黨政策の一部に挿入することに決定一、國際労働會議代表派遣反對の件一、労働争議調停法改正之件、右 案關西労働部提出説明(吉川與七)可決、實行方法は書記局一任一、アヂヤ聯盟結成の件宮崎、渡合提案説明(石川操) 政策第六條に附帶の事と決定一、海軍

軍縮會議に派遣代表に進言書提出の件、淺草、盛岡、京師提案(説明政田清)可決、方法は書記局に一任一、融和事業促進の件洛南支部提案(説明河上利治)可決政策挿入の事一、既存の政治權力階級に對し責任政治の上よりして責任自決を勸告の件(提案説明平館信夫) 總裁訓辭中、現在の政治家中政治の責任を負ふ者無きは甚だ遺憾である宜しく現存の政治家には責任引退を勸告すべしとあるにより其意味の決議文を作製し、各方面に發送いたす事と決定 一、滿洲移民の國策化實現要請の件 一、税制改革に關する件右 案京橋支準太田支準提案(説明深澤清次郎他)右 案可決、方法は本部一任の事 一、一黨政發行の件阪西支準提案可決 一、愛國學生運動促進の件同上可決 一、青年前衛隊組織之件城北、福岡支部提案(船生利重説明)右 案議長一任、黨務局附屬となる 一、窮乏農村救済の件本部案(説明柴山滿) 現下の窮乏農村の救済對策として別項の案を提議し、萬場一致可決、その運動方法は本部一任この案はその後、二十餘萬枚の檄文として全國各町村役所青年團等及各種關係方面に配布し政府當局にも再三に及び進言し以てその目的達成に盡力せり、その結果として各地より贊同の輿論となつて現れつゝあり現在も黨はこれを農村對策の一方法として提唱しつゝあり

農村救済に對する大日本生産黨の主張

根本的農村救済法を制定するに先だち、農村の負債は十箇

年把握としその後二分利三十年賦償還とする事以上の應急政策を實行するの外断じて農村救済の道はない。飢えたるものには食を與へず、差押へらるべき食料なき者に差押へ禁止の法律を制定するも、生活の保證にはならない。政府の農村救済策は人參飲ませて首吊らせんとするものである。農村はやがて人參の藥代に殺さるゝこととなるは知れ切つてゐる。農村の諸